HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代日本語における「『見越しの評価』を表す副詞」の研究
Author(s)	林, 恒立
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	甲第12288号
Issue Date	2016-03-24
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k12288
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/64828
Type	doctoral thesis
File Information	Hengli_Lin.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

平成２７年度博士学位論文

現代日本語における「『見越しの評価』を表す副詞」の研究

林　恒立

目　次

第１章　はじめに

1.1.　研究の背景…… 1

1.2.　考察の対象…… 2

1.3.　本研究の構成…… 3

第２章　先行研究

2.1.　はじめに…… 6

2.2.　日本語副詞研究の背景…… 7

2.2.1.　国語学の研究…… 7

2.2.2.　言語学・現代日本語学の研究……19

2.3.　渡辺（1980）の重要性……21

2.4.　渡辺（1980）以降の副詞の研究……22

2.5.　先行研究における三つの問題点……29

2.6.　本章のまとめ……30

第３章　アプローチ

3.1.　はじめに……32

3.2.　日本語副詞研究の主なアプローチの変遷……32

3.2.1.　作例から実例へ……32

3.2.2.　作例（内省）の問題点……33

3.2.3.　実例（コーパス）の問題点……34

3.2.4.　作例と実例の併用……35

3.3.　コーパスと副詞研究：「せっかく」を例に……37

3.4.　本研究で使用するコーパスとデータへの注目点……38

第４章　「せっかく」と「見越しの評価」

4.1.　はじめに……40

4.2.　問題の所在……40

4.2.1.　「せっかく」の先行研究……40

4.2.2.　三つの問題点との関連……41

4.3.　「せっかく」の構文的特徴……43

4.3.1.　複文の構造……43

4.3.2.　接続の形式……48

4.3.3.　「圧縮用法」から「破格用法」へ……50

4.4.　「せっかく」の意味的特徴……54

4.4.1.　述語修飾の制限……54

4.4.2.　「既定性」の要求……57

4.4.3.　「価値」と「評価」……60

4.5.　本章のまとめおよびその他の副詞の選定基準……63

第５章　「なまじ」の分析

5.1.　はじめに……65

5.2.　問題の所在……65

5.3.　「なまじ」の構文的特徴……67

5.3.1.　複文の構造……67

5.3.2.　接続の形式……69

5.3.3.　「圧縮用法」について……71

5.4.　「なまじ」の意味的特徴……75

5.4.1.　述語修飾の制限……75

5.4.2.　「既定性」との関わり……77

5.4.3.　「価値」と「評価」……81

5.5.　本章のまとめ……85

第６章　「あまり」の分析

6.1.　はじめに……86
6.2.　問題の所在……86
6.3.　「あまり」の構文的特徴……91
6.3.1.　複文の構造……91
6.3.2.　接続の形式……92
6.3.3.　「圧縮用法」について……97
6.4.　「あまり」の意味的特徴 ……100
6.4.1.　述語修飾の制限 ……100
6.4.2.　「既定性」との関わり ……101
6.4.3.　「価値」と「評価」 ……107
6.5.　本章のまとめ ……111

第７章　「ただでさえ」の分析

7.1.　はじめに ……112
7.2.　問題の所在 ……112
7.2.1.　「さえ」の意味機能 ……113
7.2.2.　「ただ」の意味機能 ……116
7.2.3.　「ただでさえ」の記述をめぐる問題点 ……118
7.3.　「ただでさえ」の構文的特徴 ……120
7.3.1.　複文の構造 ……120
7.3.2.　接続の形式 ……122
7.3.3.　「圧縮用法」から「破格用法」へ ……127
7.4.　「ただでさえ」の意味的特徴 ……130
7.4.1.　述語修飾の制限 ……130
7.4.2.　「既定性」の要求 ……133
7.4.3.　「価値」と「評価」 ……134
7.5.　本章のまとめ ……137

第８章　結論と今後の課題

8.1.　結論 ……139

8.2.　本研究の限界と今後の展望 ……144

参考文献 146

謝辞

付　記

［用例の出典表記について］

本研究で使用する例文には，（ア）先行研究とコーパスにおける例文をはじめとする出典が明確なものと，（イ）文法性のテストを行うために先行研究またはコーパスにおける例文を改変したものと，（ウ）本研究による作例という三種類がある．（ア）（イ）のように出典が明確な場合，各例文末に記す．（ウ）のように出典のない作例の場合，複数の日本語母語話者に依頼し確かめたうえで，例文末に「本研究による作例」と記すことにする．

［用例に対する文法性判断について］

本研究の各章における用例に対する文法性判断は複数の日本語母語話者（主に北海道，東京，大阪・奈良出身，20 代～70 代）に依頼し確かめている．

［用例における文法性判断の記号について］

本研究では，用例における文法性ないしは文の自然度に関して，次のような記号を使用して示している．記号なしの場合，その文が自然な文であることを示す．

「*」　副詞もしくは例文の前部に「*」（アスタリスク・アステリスク）が付与された場合，その文が非文（非文法的な文，ungrammatical sentence）であることを示す．

「??」　副詞もしくは例文の前部に「??」（二重疑問符）が付与された場合，その文が極めて不自然であると判断されているが，非文ではないことを示す．

「?」　副詞もしくは例文の前部に「?」（疑問符・クエスチョンマーク）が付与された場合，その文が不自然であると判断されているが，非文ではないことを示す．

［本研究の内容と既刊した論文との関係について］

第 2 章「先行研究」と第 4 章「『せっかく』と『見越し』の評価」については，2014 年 12 月，『台灣日語教育學報』（台湾日本語教育学会学会誌）第 23 号に掲載された査読付き論文「複文の構造を要求する副詞の特徴―『せっかく』と『ただでさえ』を例に― 」での記述を発展させたものである．また，第 7 章「『ただでさえ』の分析」については，2013 年 12 月，『台灣日語教育學報』第 21 号に掲載された査読付き論文「『ただでさえ』の副詞的意味と構文―『さえ』と『ただ』の対照を交えて―」での内容に基づいて，一部加筆し，データの種類の偏りを含め，修正を行なったものである．

第１章　はじめに

1.1.　研究の背景

現代日本語の副詞の研究は，動詞，形容詞，名詞など他の述語の研究に比べて立ち遅れているのみならず，かつては「品詞論のはきだめ」または「品詞分類のごみ箱」と評されていた．現在，一般的に認識されている副詞三分類である「情態副詞」「陳述副詞」「程度副詞」は，あくまで大まかな分類であって，それぞれのカテゴリーの中には，異質な副詞も多く含まれている．

例えば，渡辺（1980）によると，「日本語の『副詞』（と思われるもの）の中に，『叙述内容（述語によってまとめられる対象的事態の内容）』の知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼすことなく，叙述内容に対する話者の評価を表わす，という性質を持つ一群のものがある（p.32）」．具体的には，「せっかく」「まさか」「いっそ」「せめて」「なまじ」などの副詞がある．これらの副詞は，それぞれ語彙的意味が異なっているものの，「『話者の評価』を表わす，という意味的特徴をもつ（p.33）」ところが共通している．

また，蓮沼（1987）は，「日本語の副詞の中には，外国語に翻訳しようとしても，対応する表現が見つけにくいばかりでなく，日本語の類義表現による言いかえによっても，そのニュアンスを正確に表わしえないような，複雑な用法をもつ一群がある（p.203）」ことを，「せっかく」「さすがに」「どうせ」を例に論じている．28 年経った現在も，蓮沼（2014a）は「『どうせ』『なまじ』などの評価副詞は[1]，『せっかく』と同様，社会通念や複雑な心理的前提のもとで使用され，一筋縄では捉えられない個性的な振る舞いを見せる副詞である（p.462）」と述べ，「こうした副詞が示す構文・意味の特徴，および評価副詞[2]の体系の究明は，チャレンジングではあるが興味をそそられるテーマである（p.462）」とその重要性を示唆している．

ところが，同じく「話者の評価」を表すものでも，単文に現れるもの（例文 1a-d）と，現れないもの（例文 2a-b）とがある．後者の場合，「従属節 ― 主節」という複文の構造を要求し，複文の従属節に生起する（例文 3a-b）．

---

[1] 蓮沼（2014a）における「評価副詞」は，渡辺（1996）で紹介されている「評価の副詞」のことである．なお，他の定義の「評価副詞」（工藤 1997），「評価の副詞」（益岡・田窪 1992）に関しては，第 2 章で後述する．

[2] 同注 1.

（1）a. あいにく彼が帰った.

b. かならず桜の花が咲く.

c. まさか彼が帰ったの？

d. さすがに桜満開の時期は渋滞が多い.

（以上，本研究による作例）

（2）a. *せっかく彼が帰った.

b. *せっかく桜の花が咲いた.

（蓮沼 1987：205 における例文．例文判断も蓮沼 1987 による）

（3）a. せっかく彼が帰ったのだから，あとは我々で思う存分楽しくやろうよ.

b. せっかく桜の花が咲いたのに，一晩で散ってしまった.

（蓮沼 1987：205 における例文）

上記例文（2a,b）が非文になるのはなぜかを考えるにあたっては，意味だけではなく，構文的特徴からの視点も必要であると考えられる．そこで本研究では，渡辺（1980）と蓮沼（1987）が指摘した，話者の評価を表す一群の副詞のうち，「基本的に複文で使用されるという構文上の制約を有する副詞」（蓮沼 2014a：427）を選定し，これらを渡辺（1980）に倣い「『見越しの評価』を表す副詞」と名づけ，「話し手にとって，（何かしら）価値のある P が実現し，それに伴って実現して P の価値を完全なものにする Q を，P の延長線上に見越す言葉」（渡辺 2001：32 より一部改変）と定義した上で，それぞれの副詞が示している意味的・構文的特徴を，実例を通して記述する．そして，記述の結果に基づき，こうした副詞が共有する中核的性質について考察する．最終的に，「『見越しの評価』を表す副詞」とは何か，その位置づけと性質の究明を試みる．

1.2. 考察の対象

渡辺（1980）以降，「せっかく」と同じく複雑な意味・用法を持つ副詞としてこれまで先行研究でしばしば取り上げられてきたのは，「どうせ」（小矢野 2000；渡辺 2001；今西

2002；呉=オ 2003，2010；菊地 2005；有田 2005，2006；蓮沼 2011，2014a；林=イム 2014)，「さすが（に)」(蓮沼 1987；渡辺 2001；呉=オ 2003)，「やはり」(呉=オ 2003)，「なまじ（っか)」(渡辺 1980；林=イム 2011)，「せめて」(林=イム 2012a)，「せいぜい」(渡辺 1996;林=イム 2013)などがある.いずれも特殊で複雑な性質を有する副詞である.

ところが，渡辺（1971：303）が指摘したように，「特異な現象の原因であるべき特異な構文的職能の本質」すなわち構文的特徴も考慮に入れると，上述の副詞の中には，単文で使用されうるもの（「やはり」「せいぜい」）と，単文と複文（従属節）の両方に生起可能なもの（「どうせ」「さすが（に)」「なまじ（っか)」）が含まれている.

そこで本研究では，「せっかく」と同様に，「話者の評価」を表し，かつ「基本的に複文で使用されるという構文上の制約を有する副詞」(蓮沼 2014a：427)に考察対象を限定し，上記の条件を満たす副詞として，「なまじ」「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの[3])」および連語なのか副詞なのか所属が不明な「ただでさえ」を選定する.

こうした副詞の意味的・構文的特徴と，類似性と相違点を記述・分析することを通して，従来，意味に基づいた分類で，それぞれ異なるカテゴリーに配属されていた副詞が，実際には，共通した意味的・構文的特徴を有していること，また，複文の構造を要求するのは「陳述副詞」においてのみ認められるものではないということを論じていく．こうすることによって，「せっかく」をはじめとする「『見越しの評価』を表す副詞」と従来の副詞三分類の「情態副詞」「陳述副詞」「程度副詞」との関係や，これまでの副詞の研究の流れの中で「『見越しの評価』を表す副詞」をどのように位置づけるべきか，などの示唆が得られるのではないかと考えられる.

1.3. 本研究の構成

本研究は，以下の８章から構成されている.

第１章では，研究の背景，考察の対象，および本研究の構成について述べる.

第２章では，これまでの日本語の副詞の先行研究を概観し，副詞研究の一連の流れの中で，特に「見越しの評価」という概念を提示した渡辺（1980）を取り上げ，なぜこの研究が重要なのか，そしてなぜ発展させる必要があるのか，一般的な意味合いでの「評価」や「評価（成分)」(工藤 1997）との違いを明確に区別し，問題点の指摘も含めて論じる.

[3] 益岡・田窪（1992）における用語である.

第３章では，日本語の副詞研究のアプローチの変遷を述べ，本研究で使用するコーパスデータと方法について紹介し，データへの注目点を含め，その有用性について説明する．

第４章では，一般的に陳述副詞と認識され，「『見越しの評価』を表す副詞」の代表格である「せっかく」を取り上げ，先行研究を踏まえつつ，その意味的・構文的特徴を整理し，本章以降の他の副詞を平行的・体系的に分析するためのモデルとする．

第５章では，同じく一般的に陳述副詞と認識され，「せっかく」と同様の「二重性格」を持つと渡辺（1980）で指摘されたものの，「見越しの評価」を表すか否かに関しては言及されなかった「なまじ」を考察する．古代・近代語としての「なまじ」の意味・用法の歴史的変化の研究は進んでいるが，現代語としての「なまじ」に関する議論や実例を用いた分析はまだ十分になされているとは言えない．本章では，現代日本語のコーパスデータを用いて，「なまじ」の意味的・構文的特徴をはじめ，「せっかく」との類似性と相違点を交えて考察し，「『見越しの評価』を表す副詞」としての位置づけを明確にする．

第６章では，「陳述副詞」ではなく，「程度副詞」とされている「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの)」を考察する．「あまり」は，これまで，「ほとんど」「全然」の類の副詞と同様に，打消しの語（すなわち述語の否定形）との呼応現象に注目されてきた．「あまり」が述語の肯定形と共に使われる場合，複文の従属節に生起し，「従属節―主節」という複文の構造を要求する．このことについて議論する先行研究は限られている（例えば西 2005）．本章では，まず先行研究でのいくつかの問題点を整理し，「あまり」は類似形式の副詞「あまりに・あまりにも」と比較すると特異な性質を持っており，それらとは区別する必要があることを論じる．続いて，実例を通して，「あまり」の意味的・構文的特徴をはじめ，「せっかく」「なまじ」との類似性と相違点を交えて考察し，「『見越しの評価』を表す副詞」としての位置づけを新たに与える．

第７章では，「ただ」と「(で）さえ」による「連語」と見なされることもあり，「副詞」としての所属が不明なままであるものの，程度副詞としての性質を持つと思われる「ただでさえ」を考察する．これまで，「ただ」と「さえ」の意味・用法については，さまざまな議論が行なわれてきているが，「ただでさえ」に関しては，ほとんど行なわれてこなかった．「ただでさえ」は多義語「ただ」と取り立て詞「さえ」によって構成されていると考えられるが，意味はもちろん，構文的特徴もこれらとは異なっている．「ただ」も「さえ」も，単文と複文の両方に出現可能である．それに対し，「ただでさえ」は，単文には生起せず，複文の従属節に生起し，「従属節―主節」という複文の構造を要求する．本章では，「ただ

でさえ」の意味的・構文的特徴をはじめ,「せっかく」との類似性と相違点を交えて考察し,新たに「『見越しの評価』を表す副詞」としての位置づけを与える.

第８章では，以上の各章で得られた副詞の特徴をまとめ,「陳述副詞」と「程度副詞」のカテゴリーを越えた「『見越しの評価』を表す副詞」の特徴を整理し，本研究の限界と今後の研究の展望と課題について述べる.

第２章　先行研究

2.1. はじめに

第１章で触れた「見越しの評価」という概念を最初に提示し「せっかく」の分析に使用したのは渡辺（1980）である．しかしながら，渡辺（1980）以降，「見越しの評価」に関する議論はなされてこなかった[4]．また，「『見越しの評価』を表す副詞」と「陳述副詞」をはじめとする他の種類の副詞との違いも，あいまいである．具体的には，副詞三分類の「情態副詞」「陳述副詞」「程度副詞」や，渡辺自身が定義した「誘導副詞」，工藤（1982, 1997）における「叙法副詞」「評価副詞[5]」，益岡・田窪（1992）における「評価の副詞[6]」などとの異同である[7]．そこで，本章では，現代日本語の副詞の研究史を含む全般的な流れを概観してから本題に入り，「『見越しの評価』を表す副詞」と上述のいくつかの種類の副詞に関連する先行研究を取り上げて紹介し，問題点を整理する．本章の構成は次の通りである．まず，2.2.節では，日本語の副詞に関するこれまでの研究が発展してきた背景を概観し，その中で，どのような特徴を中心に副詞が研究されてきたかを紹介する．次に，2.3.節では，副詞の研究の流れの中で，「見越しの評価」を表す一群の副詞の存在を示唆した渡辺（1980）を紹介し，その重要性を説明する．2.4.節では，渡辺（1980）以降，「『見越しの評価』を表す副詞」に関連する他の研究で，どのようなことが提案され，またどのようなことが明らかにされたか，重要なものを中心にして解説する．最後に 2.5.節で先行研究の問題点を整理し，2.6.節で本章をまとめる．

---

[4] 管見の限り，「見越しの評価」という用語を全面的に使用している先行研究は渡辺（1980）のみである．渡辺（1996）においても，「評価の副詞」という用語は見られるが，「見越しの評価」という用語は見当たらない．渡辺（1980）以降，「見越しの評価」について触れているのは加藤（2001）; 蓮沼（2014a）; 茶谷（2014）; 林（2013b, 2014）のみである．加藤（2001：26）は，日本語教育の観点から，「『見越しの評価』という考え方は，日本語の『せっかく』をはじめ『なまじ』『まさか』などの話し手の評価・心情を表す副詞を考える時にも有効である（p.26）」と述べている．蓮沼（2014a）は，渡辺（1980）をはじめとする「せっかく」の研究の系譜を詳細に整理している．茶谷（2014：9）は，副詞「よほど」の「評価性」を考察するにあたり，「見越しの評価」を，副詞における評価の一つのあり方として，「このような評価は，評価性のなかでも複文関係に関わるものとして注目される（p.9）」と紹介している．林（2013b, 2014）は渡辺（1980）の研究に言及している．

[5] 工藤（1985）での「評価副詞」は，「叙法副詞」と相対する分類である．これについては 2.4.節で後述する．

[6] 益岡・田窪（1992）における「評価の副詞」は，「文修飾副詞」の下位分類である．

[7] 小矢野（1997c）は，工藤（1982）の「評価副詞」と渡辺（1996）の「評価の副詞」の違いについて言及している．

2.2. 日本語副詞研究の背景

日本語の副詞の研究は，もともと国語学の品詞分類で始まっている[8]．副詞の分類の研究に貢献をもたらした研究として，山田（1908，1922，1936）；松下（1928）；橋本（1948，1959）；時枝（1950）；森重（1959）；渡辺（1971）が挙げられる[9]．研究が進むにつれ，分類だけでなく，個々の副詞の意味・用法の記述も重視されるようになってきた．現在，日本語の副詞の研究には，おおむね，特定の副詞の意味・用法の記述と，副詞全体の分類という二つの大きな課題がある[10]．本節では，以下，現代日本語の副詞研究の発展の背景を概観し，その中で，どういった特徴を中心にこれまで副詞が研究されてきたか，特に「『見越しの評価』を表す副詞」と関連の高いものを紹介していく．

2.2.1. 国語学の研究

現代日本語学の副詞の研究に繋がるような形で注目されたのは，山田（1908）での分類である[11]．山田は，富士谷成章の影響を受け，文の組み立てには，独立の観念を表す「観念語」と，関係を表す「関係語」との区別があるとしている[12]．さらに「観念語」の中には，単独で談話文章を構成する骨子となる「自用語」（体言類および用言類）の一群に相対

---

[8] 渡辺（1983）によれば，日本語副詞の研究の始まりは，江戸中期の国学者である富士谷成章の『かざし抄』（挿頭抄，かざしセウ，1767 年）まで辿ることができる．しかし，体系性の面において，『かざし抄』はあくまで「五十音順に配列されるに留まっている（p.4）」のである．

[9] 工藤（1980）によれば，副詞の認定の仕方には大きく二つの立場に分かれている．一つは，大槻から山田，橋本までの流れである．もう一つは，松下から森重，渡辺，川端まで，富士谷の考え方の真義を理解し，受け継いだという流れである．前者は，副詞を「それ自身語形変化せず，もっぱら連用修飾機能に働く品詞とする立場（pp.744-745）」であり，後者は，副詞を「体言や用言のように主語・補語・述語といった文の骨組み成分とならず，それに副える形で補助し調節する機能に働く品詞とする立場（pp.744-745）」である．

[10] 副詞研究も形容詞研究と同じような課題が観察される．八亀（2008）によれば，近年の形容詞研究には大きく「形容詞全体を扱い，分類を試みる」アプローチと，「形容詞を含む特定の構文をトピック的に扱う」アプローチという二つの流れがある．

[11] 山田孝雄（1908）より前に，大槻文彦（1897）の『廣日本文典』がある．大槻（1897）は，当時（明治時代），西洋文典を利用した分類において，「副詞」とされていた「形容詞連用形」を改めて「形容詞」として位置づけた．しかし，「副詞」に関しては特に述べられていない．山田と大槻の継承関係については，工藤（2000）が詳しい．

[12] 富士谷は文を人間の体に見立てて，「天地(あめつち)の言霊(ことだま)は，理(ことわり)をもてしづかにたてり，名(な)をもて物(もの)をことわり，装(よそひ)をもて事(こと)をさだめ，挿頭(かざし)，脚結(あゆひ)をもてことばをたすく．」と，品詞を「名」（体言類＝名詞類），「装」（用言類＝動詞と形容詞類），「挿頭」（副用語＝副詞類），「脚結」（附属語＝助詞・助動詞，接尾語類）という四種類に分類している．

し，単独で談話文章を構成する骨子とならず,「自用語」を補助する形で用いられる一群の存在を,「副用語」と命名し分類している（図１に示す）.

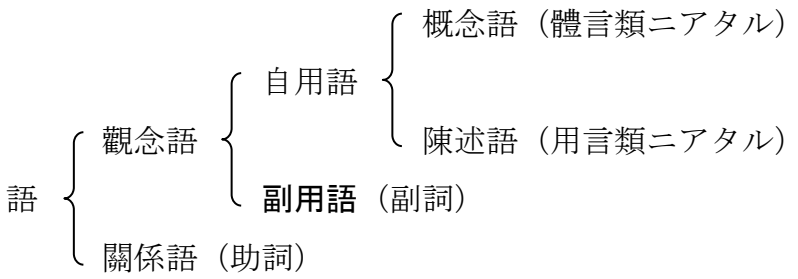


図１　山田（1908）における「語」の中の「副用語」の位置づけ

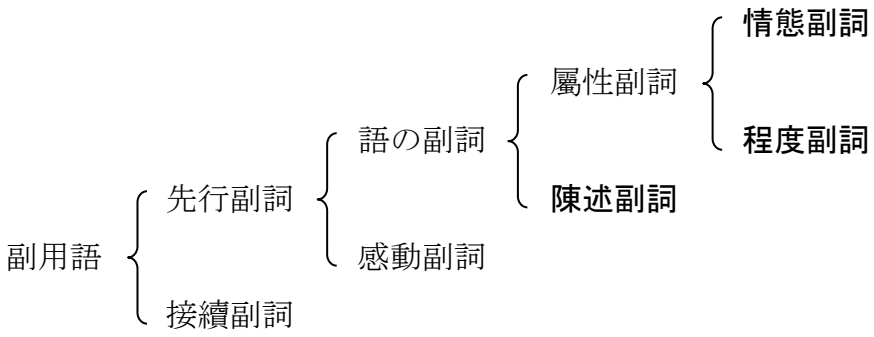


図２　山田（1936：374）における副用語の分類

山田（1908）の副用語・副詞の分類は，富士谷の『かざし抄』になかった「内部整理が試みられている（渡辺 1983：5)」「望ましいと考える品詞分類のあり方（渡辺 1971：394)」とのちに評価される.

また，山田の研究は「現在の副詞論の基礎をなしているいわゆる副詞の三分類，つまり副詞を『情態副詞』『程度副詞』『陳述副詞』に分けることの根拠となった（畠 1991：8)」とも言われるように，現在，学界[13]での副詞に対する共通認識の礎も，山田文法が築いたのである.

[13] 国語＝日本語学界，国語教育学界，日本語教育学界を含む．なお，「国語学会」の学会名称が 2004 年 1 月より「日本語学会」に変更され，現在，国語学と日本語学の厳格な区別はされなくなった．それに対し，日本人生徒（ネイティブ）を対象にした国語教育と，外国人（ノンネイティブ）を対象にした日本語教育に関しては，区別がなされている.

ただし，図２が示すように，山田（1936）において，「情態副詞」「程度副詞」「陳述副詞」の後に「感動副詞」「接続副詞」が続き，実際には「五分類」となっている[14]．しかし，「感動副詞」「接続副詞」は，現在それぞれ副詞とは別に「感動詞」「接続詞」に分類されているため，ここでは，山田（1936：373-391）における「情態副詞」「程度副詞」「陳述副詞」のみ，それぞれの定義と例のみ見ていく．

「情態副詞」[15]

定義：「情態の副詞は意義上よりいへば，それ自身に具體的の觀念ありて事物の屬性をあらはすものにして，その觀念のみをいはゞ形容詞に似たるものなり（p.378）」

「情態の副詞はかく意義に於いて形容詞に似てありながら，なほ副詞なりと稱せらるゝは陳述の能力の缺けたるによる（p.378）」

「情態の副詞はそのまゝにて用ゐられ，或は助詞［に］［と］を伴ひて用言の屬性を裝定するを主たる職能とし，又稀には助詞［の］を伴ひて名詞の裝定をなす（pp.378-379）」

「情態の副詞には本來の國語なるものもとより多けれど，又漢語より借用せるもの頗る多し．國語本來の情態の副詞は具體的に觀念をあらはすものとたゞ形式的にいふものとあり（p.380）」

例　：　あたゝか（あたたか）　しづか（しずか）　たひらか（たいらか）
たをやか（たおやか）　なめらか　にこやか　ねんごろ　はるか　ほのか
からから　さわさわ　しづしづ（しずしず）　はらはら　ひらひら　ほのほの
さらり　からり　すらり
奇異　自然　活潑　精密　正確　溫厚　偉大　明白　悲壯　滑稽
優　簡　大　小　美　醜　勇　節　恍　凜
悠々　淡々　飄々　侃々諤々　戰々兢々

---

[14] 橋本（1946）の講義の筆記の中で，次のような記述がある．「山田氏は以上のやうに分類した．卽ち五種に分けられたのである．接續の副詞と感動の副詞を別にすれば，結局三種になるが，私の分類法と多少異なる（p.112）」．

[15] ところが，山田の「情態副詞」の分類に関して，例えば工藤（2010：171-180）が疑問を呈したように，「山田の副詞＝副用語の本質は，非自用語つまり非述語性にあったはずであり，じっさい情態副詞以外の副詞は基本的には述語用法をもたないのに，なぜ述語用法をもつ情態副詞を副詞に編入しようとするのか（p.174）」という指摘もある．

「程度副詞」

定義：「程度の副詞は情態性の屬性の程度を示すものにして情態の意を有する用言及び情態副詞の上にありて，その屬性を限定する性を有す（p.386)」

「これらは専ら狀態をあらはす語に附屬して之を限定するものにして，動作には關係なしと見ゆ（pp.386-387)」

「世に行はるる文典に往々副詞は又他の副詞を限定することありといふ如く漠然たる説明をなせるものあり. これは程度の副詞の特性を認識せぬものゝ言にして, かく他の副詞を限定しうるものは程度の副詞に限られたる現象にして, 情態の副詞には存せぬ特性なり（pp.387-388)」

例　：　いと　やや　甚だ　頗る　もつとも　たゞ

稍　最も　今　只

「陳述副詞」

定義：「陳述の副詞は述語の陳述の方法を修飾するものにして，述語の方法に一定の制約あるものなり. この陳述の副詞は用言の實質上の意義卽ちその示す屬性には關係なく，この陳述の方法のみを裝定するものなれば，用言が述語としての用法に立たぬ時には裝定することなきものなり（p.388)」

「陳述の副詞はその述語の狀況よりして分ちて述語に斷言を要するものと疑惑假說を要するものとの二に大別することを得べし.（中略）述語に斷言を要する副詞はこれに對する述語が疑惑假說にわたらぬ陳述をなすべきものをいふ. この類の副詞に對する陳述は常に斷言の形式をとるを要するものなるが, 之を肯定を要するものと打消を要するものとの二に分つを得. 又他の方面より見て，强めたる意を要するもの, 決意を要するもの比況を要するものの三に分つことも得るなり（p.389)」

例　：　「述語に斷言を要する副詞」

一，肯定を要するもの	かならず　もつとも　是非　まさに
二，打消を要するもの	いさ　え　さらさら　つやつや　つゆ　ゆめ
三，强めたる意をあらはすもの	いやしくも　さすが
四，決意をあらはすもの	是非　所詮
五，比況をあらはすもの	恰も　さも

「述語に疑惑假說を要する副詞」[16]

一，述語に疑問の語を要するもの　　など　なぞ　いかゞ　あに　いかで

二，述語に推測の語を要するもの　　けだし　よも　をさをさ

三，述語が假說条件を要するもの　　もし　たとひ　よし

（以上，山田 1936 より引用）

前掲図 2 が示したように，山田の分類では，「陳述副詞」と「情態副詞」「程度副詞」の分類の階層が異なっていて，また，「感動副詞」と「接続副詞」を副詞としている．そのため，山田の分類の方法に対する疑問が多かった．

山田（1908，1936）の分類に取って代わる新たな分類を提案した代表的なものとして，松下（1928）；橋本（1946）；時枝（1950）；森重（1959）；渡辺（1971）；川端（1978）が挙げられる．特に「情態副詞」の分類について，立場によって大きな違いがある[17]．

本研究では，副詞の意味（論）的特徴のみならず，個別の副詞が持つ構文（論）的特徴も極めて重要であると考えているため，以下，橋本（1946）と渡辺（1971）の分類のみ，取り上げて紹介する[18]．

まず，橋本（1946）である．いわゆる橋本文法は，のちの学校文法・国語教育の基盤となっている．山田の分類との大きな違いは，意味だけでなく，呼応関係に注目したところにある．

---

[16] 橋本（1946：116）では，山田の陳述副詞について，「せっかく」を含み，次のように紹介されている．

なぜ，どうして，なんで	（疑，反語）
たとひ，よし，よしや，よしんば	（假容）《筆記，放任とす》
どうぞ	（希望，命令）
せつかく	**（反戻）《筆記になし》**

[17] 工藤（2010）によれば，山田から橋本，時枝までが一つの流れ（東大系）で，松下から森重，渡辺，川端までが一つの流れ（京大系）である．中でも，語を「詞（概念過程を含む形式）」と「辞（概念過程を含まない形式）」に分けられるという特殊な言語観を唱えた時枝（1950）の研究が，のちの鈴木（1959）の副詞解消論に繋がる．

[18] 橋本と渡辺はそれぞれ異なる流派である（工藤 2000）が，いずれも構文的特徴を重視してきた点は共通している．

橋本は，形態意義的最小単位としての「単語」を「詞」（自立語）と「辞」（附属語）に分け[19],「副用言」を「詞の一種」（活用ナシ）としている．「副用言」の下位分類に「接續するもの[20]」（接續詞[21]）と「修飾するもの」（副詞と副體詞）とがある．「修飾するもの」が「用言を修飾するもの—副詞」と「體言を修飾するもの—副體詞」に分けられ[22],「用言を修飾するもの—副詞」が「呼應あるもの」と「呼應なきもの」に分けられている．

副用言の類別

一，接續するもの—接續詞

二，修飾するもの

（a）用言を修飾するもの—**副詞**　（一）呼應あるもの [23]

（二）呼應なきもの [24]

（b）體言を修飾するもの—副體詞

副詞の類別

（一）の類　　呼應あるもの　「陳述に關するもの」

（二）の（a）（b）　呼應なきもの　「程度に關するもの」

（二）の（c）

（以上，橋本 1959 に基づいて作成）

---

[19]「詞」と「辞」のそれぞれの内部が「活用するもの」「活用せぬもの」の二群に分けられ，さらにその下位分類として主語または述語になるか否かによって分けられている．

[20] 一方，「修飾接續せぬもの」として「感動詞」がある．

[21]「接續詞—Conjunction」の副用語の性質は，橋本（1946）によれば，「印歐語のと同様，（但し,印歐語の接續詞は必ずしもすべて日本の接續詞にはあたらず, if, though など）and, but, therefore, moreover, besides（p.121）」．

[22]「副體詞—Adjective」（連体詞に当たる．あらゆる，いはゆる，さる，ある，去るなど）の副用語の性質は，橋本（1946）によれば，「印歐語の形容詞に似てゐる．しかし印歐語のは，それ自身名詞と同様の性質を有す．卽性數格によつて變化する（p.121）」．

[23]「體言，副詞を修飾せず，他よりも修飾せられず，また述語にもならぬ（p.117）」．

[24]「呼應なきものは，他より修飾せらるゝ事あり，又，述語になる事ある點は共通であるが，その中，（a）體言を修飾するもの（そのまゝで）
（b）副詞を修飾するもの　　がある．
（c）その他は，そのまゝでは體言副詞を修飾しない．
（a）と（b）とは共通の語もあれど互に一致しないものもある（p.117）」

一見したところ，橋本の分類は，山田による「陳述副詞」と「程度副詞」の分類に対応しているように見えるが，橋本（1946）によれば，「山田氏の陳述副詞のうち，確かめる意及び決意を表はすものは，必ずしも，言ひ方を制限しない（p.117）」，「又山田氏の程度副詞のうちには，『頗る』『甚だ』は，程度をあらはすが，體言や他の副詞を修飾しない．これ等はすべて（c）類に入る事になる（p.117）」という二つの大きな違いがあるため，実際のところ「山田氏の分類とは精密には一致しない（p.117）」のである[25]．加えて，橋本（1946）は，「幸（い）に」（幸に　人に出會つてをしへてもらつた．）や「不思議にも」（あの人は　不思議にも　いきかへつた．）などの副詞を「文全體にかかるもの（p.118）」であるということから，「一類とする必要はないか（p.118）」という問題を提起している．

副詞の分類を，意味からではなく，呼応関係から分類し，さらに文副詞の一群の存在にも注目した橋本（1946）は山田に続き，のちの副詞研究に多くの影響と貢献をもたらしている．しかし，「形態論的に偏り，その分だけ職能から遠ざかることになっている（渡辺1971：388）」という指摘もある[26]．

---

[25] 橋本（1946）は，山田の分類が「意味（語義）」に基づいていると指摘し，山田の分類との違いについて，次のような記述がある．

> 「用法上から見ると，體言を修飾し，他の副詞を修飾する點は程度副詞の特徴で，情態，陳述の副詞にはない．他の語によつて修飾せられないのは陳述副詞で，他のものは修飾せられるのもある．呼應を要求するのも陳述副詞のみで，他の二つにはない．用法の點では，陳述副詞と程度副詞とが殊に特徴をもつているわけである．しかしこれが意味の上からわけた結果と一致するか否かは疑問である．陳述副詞は比較的はつきりしてゐる．山田氏は，『必ず』『ぜひ』『所詮』を決意を表はす陳述副詞としてをられるが，呼應といふ點から，特に用言が限定される意識はないと思ふ．（中略）程度副詞も體言を修飾するもの，他の副詞を修飾する點に特色を認めるのみで，意味の上から見る事にはあまり根據をおき難い．用法の上からは對立的に分類する事は疑問である．《以上筆記》（p.118）」．

[26] 渡辺（1971）は，橋本の分類に対して次の通りに指摘している．

> 「三基準併用とは言うものの，分類が下位に進むにつれて職能に重点がかかり，品詞分類基準としての職能の重要さが自ら反映していることは一見して明らかである上に，博士の観察と記述はまことに厳密正確であって，したがってその品詞分類の結果はすぐれたものと言うべき性格を有するのだが，にもかかわらず博士の品詞分類は，その出発点において看過し難い疑点を含んでいると言わざるを得ないのである．この分類の出発点としての第一次分類基準は，単語が文節を単独で構成し得るか否か，という点にある．ところが文節は（中略）本質的に形態上の単位にすぎず，直接には構文上の単位ではない．したがって博士の品詞分類における詞辞の二大別は，形態意義的最小単位としての単語が，形態的単位としての文節を，外形上単独で構成するか否かという，全くの形態的二大別にすぎず，構文的職能に関する対立という意味をいささかも持ちはしないのである．（中略）博士の品詞分類の結果は，すぐれた成果と見なすことが可能である．けれども最上位の分類である詞辞二大別が，形態的二大別であるに留る限り，それは博士の品詞分類の成立根拠をおびやかすものと言わねばならないであろう．橋本博士の文法論は，意義や職能を出来れば形態において捉えようとされたその分だけ，それだけやはり形態論的に偏り，その分だけ職能から遠ざかることになっているのである．その偏りは第二次分類基準にまでひきつがれ，その段階で博士の品詞分類は，一種の混乱に陥ってしまっているように見うけられる．（中略）　活用現象とは統述と陳述または

次に，渡辺（1971）について説明する．渡辺（1971）は，橋本，時枝，山田[27]の分類のそれぞれの問題点を言及しつつ，次のような分類を提示している．

副詞
- 連体副詞　（連体詞）
- 連用副詞　（程度副詞）
- 誘導副詞　（陳述副詞）
- 接続副詞・並列副詞　（接続詞）
- 陳述副詞　（感動詞）

図３　渡辺（1971）における「副詞」の分類

渡辺（1971：417）は，単語をまず「素材表示の職能を託されるもの」と「素材表示の職能を託されないもの」（助詞類）に分けている．次に，「素材表示の職能を託されるもの」を「関係構成的職能を託されるもの」と「関係構成的職能を託されないもの」（体言類）に分け，さらに「関係構成的職能を託されるもの」を「統叙の職能を託されるもの」（用言類）と「統叙の職能を託されないもの」（副詞類）に分けている．従來の副詞の三分類の一つである「情態副詞」が上記の六分類の中に入れられていないのと，山田の分類では区別できなかった「副用語」と「陳述語」の違いを一通り整理した[28]．

再展叙との二重の関係構成的職能に密着した形態的現象であって，活用現象をそういうものと把握してその把握に忠実である限り，活用するか否かの形態的事実を分類基準に採り上げることは，職能を分類基準として採り上げることと，実質的には全く同じことになるであろう．（中略） もし職能との対応を忘却して，語形変化があるかないかという外面的形態そのものを基準とするならば，それは語音構造を五十音順に整頓するのと同様に，品詞分類の名に値しない結果を導く危険を孕む．そして橋本博士の場合には，それに類する結果が導かれてしまっているのである（pp.388-389）」．

[27] 「単語」を「觀念語・關係語」に分け，「觀念語」を「自用語・副用語」に分け，「自用語」を「概念語・陳述語」に分けるという山田の分類に対して，渡辺（1971）は「望ましいと考える品詞分類のありかたに，極めて近い姿（p.394）」と高く評価しつつ，「『統覚作用・陳述』の名において両者を混同しておられ，それが博士の文法論のほとんど唯一の欠陥（p.397）」であると指摘し，「副用語」に関しても，「素材的要素と関係構成的要素との異質の両要素を含み，その点では博士の『陳述語』と全く区別はない（p.398）」という問題点があると指摘している．

[28] 渡辺は従来の「情態副詞」を「情態詞」とし，副詞ではなく，体言類として位置づけている．なお，「情態副詞」を分類の中から除外したことについて，渡辺（1971）は，「従来いわゆる形容動詞語幹を単語と認定し状名詞と位置づけるなら，『同じ態度をしっかりと握っている．』のような，従来いわゆる情態副詞に対しても及ぼさねばならないであろう．これらは素材表示

渡辺の分類で，とりわけ「構文的職能[29]」が重視されている．副詞に関しては，「誘導[30]」の職能という概念を提示し，従来の通称の「陳述副詞」「感動詞」を，それぞれ「誘導副詞」「陳述副詞」と捉え直したのも，渡辺（1971）の分類の特徴である[31]．

渡辺（1971）の「誘導副詞」と，従来の「陳述副詞」との最も大きな違いは，「呼応」を「誘導の職能」という観点で捉え，「誘導の職能というのが単に陳述副詞だけに認められるような特異なものではなく，予想されるよりははるかに広い広がりをもつものである（p.304）」としている点である．例えば，「きっと」「決して」「たとえ」「もし」（例文 1a-d）について，渡辺は，それぞれ「断定」「否定」「譲歩」「仮定」と「特定の陳述または再展叙が導かれ，そこに一種の呼応が生じる（p.303）」ため，「従来この現象を『きっと』などの副詞が『陳述の方式』を制約する，というように記述し，そういう観点から『きっと』などの副詞を，『陳述副詞』と呼んで来たのであった．（中略）呼応の現象があまり目立ちすぎたために，これらの特異な現象の原因であるべき特異な構文的職能の本質が，その陰で見過ごされて来たのはまことに惜しむべきことであった（p.303）」と述べている[32]．

この考えは，のちの渡辺の研究（特に「せっかく」の分析）に繋がっていくと思われる．

（1） a. きっと失敗するだろう．
b. 決して嘘はつきません．
c. たとえ苦しい時期があっても，くじけてはいけません．
d. もし会えなかったら，お手紙で連絡いたします．（渡辺 1971：303）

の職能のみを託される体言の類でありかつ連用成分の素材でしかあり得ないものである（中略）この種のいわゆる情態副詞は，意義の面で興味ある問題を含むもののようだが，品詞論的には例えば『情態詞』とでも呼んで体言類の一つに位置づけるのが適当（p.412）」と述べている．

[29] 「構文的職能」という用語は渡辺の各年代の著作の中に散見するが，渡辺（1971）によれば，「言語表現の有機的統一性を形成するために，言語の内面的意義に託される各種の役割の総称（p.16）」である．

[30] 「誘導」とは，「後続する本体を予告し誘導する」という意味である．「誘導の職能」を持つのは，「誘導副詞」（＝統叙の職能を託されないもの・副詞類）と，「用言の誘導形（連用形）」（＝統叙の職能を託されるもの・用言類）とがある．

[31] これについて，渡辺は「従来『陳述副詞』と呼ばれて来たものを『誘導副詞』と呼び，その捨てた『陳述副詞』の呼称を従来『感動詞』と呼ばれて来たものに用いるなど，非常にわがままな術語であることは，非難を受けても止むを得ない．こういうことは出来れば避けるべき欠点であるが，託される職能の名において品詞や活用形の呼称としようという態度をとったために，避けることが出来なかったのである．品詞論は構文論と表裏一体であるべきであり，構文的職能の研究が自動的に品詞分類に反映すべきである，という考えを捨てることが出来ないのである（p.418）」と述べている．

[32] 山田（1936：388）には「陳述の副詞」の異質性への言及がある．

また，例文（2a-d）の場合，渡辺（1971）によれば，「叙述の知的内容量に対しては，全く増減の影響を及ぼすことがない．断定の素材としての『読む』という内容は，『きっと』を冠することによって些かも詳しさを増さないし，否定の素材としての『美しい』という内容，『決して』を冠することによって些かも詳しさを増さない．『たとえ』『もし』の場合も同様である（pp.310-311）」．

（2） a. きっと読む．
b. 決して美しくない．
c. たとえ静かでも……
d. もし桜なら……　（渡辺 1971：310）

それに対して，例文（3a-c）の「ゆっくり」「非常に」は「叙述の知的内容量」に対しては増減の影響を及ぼす．

（3） a. ゆっくり読む．
b. 非常に美しい．
c. 非常に静かだ．　（渡辺 1971：305）

したがって，従来の「陳述副詞」すなわち渡辺（1971）の「誘導副詞」は「連用展叙とは全く異質な誘導展叙を託されるもの（p.315）」であるのだが，このような「誘導展叙は決して誘導副詞においてのみ認め得るような特殊な職能ではなく，その範囲は従来連用修飾語と考えられて来たものの中に，かなり幅広く認められねばならないもの（p.316）」である．渡辺のこの指摘は，非常に重要である．「誘導展叙」という職能（機能）は，「陳述副詞」（「誘導副詞」）に限らず，他の「表現」の中にも観察されると同時に，従来「陳述副詞」（「誘導副詞」）に分類された副詞の中には，特殊な性質を有する副詞が存在していることに着目し，分類の枠を越えた分析の必要性を示唆しているからである．

ここでは，渡辺（1971）が挙げた「もちろん」（例文 4a-b, 5）の例を見てみよう．国語学では「もちろん」は「連用修飾語」とされてきたが，「無論」「事実」「実際」「幸（い）」「あいにく」（例文 6a-e）などと同様に，一つの叙述内容に対して註釈を下している．

「もちろん」もまた,「註釈対象である一つの叙述内容の知的内容量に，何ら増減の影響を及ぼすものではない（p.317)」のである．よって，誘導副詞（註釈の誘導副詞）に分けられる[33].

(4) a. もちろん原書を読みます.
b. もちろんこの本は難かしい. （渡辺 1971 : 316）

(5) 原書を読むのはもちろんだ. （渡辺 1971 : 316）

(6) a. 無論今年も山へ行く.
b. 事実この帽子はスマートだ.
c. 実際悪気のない男だ.
d. 幸（い）京都に住むことになった.
e. あいにく今持ちあわせがない. （渡辺 1971 : 318）

このように，渡辺（1971）は，従来の「陳述副詞」を「構文的職能」「誘導の職能」の観点から捉え直し，また,「呼応」の現象は決して従来の「陳述副詞」に限られた現象ではないということを明らかにした．これはのちの渡辺（1980）の「見越し評価」の研究にも反映している．さらに，国語学で連用修飾語とされてきた「もちろん」も，現在では一般的に「陳述副詞」と認識されるようになったが,「誘導副詞」に分類した試みは，当時では画期的だったと言えよう.

ところが，このように研究者によって立場や副詞の認定の仕方が異なれば，分類の結果が異なるという問題があったために，もともと動詞や形容詞，名詞などの述語の研究に比べて立ち遅れていた副詞の研究は，いわゆる品詞分類のごみ箱となって，長い間脱却できなくなったのである[34]．これについて，渡辺（1983）は次のように述べている.

---

[33] 渡辺（1971）において，「もちろん」「事実」「幸い」のような副詞は「後続する叙述内容に対する表現主体の註釈を表わすもの」に当たる．それに対して，「せめて」「おまけに」のような副詞は，「素材概念を誘導対象とするもの」である.

[34] 森本（1994）が指摘しているように，「日本語では副詞的な機能をもつ語が豊富で，複雑で多様な様相を帯びているということにも原因の一端（p.1）」がある．また，仁田（2002）も,「副詞は，かつて単語のごみ箱的存在であった．そのこともあって，従来，副詞的修飾成分への文法的研究は，組織化と体系性に欠けるところが，少なくなかった．（中略）述語成分など

「これらの副用言としての同質性，ならびに副用言の内部でのそれら相互の異質性の研究は，それほど急速な進展を伴った形で継承されず，副用言研究はやや停滞気味となる．特に副用言の中の副詞は，体言でもなく，用言でもなく，附属語でもないところの副用言の中で，感動詞でもなく接続詞でもないものを，一手にひき受ける場所の如き有様を呈し，副詞は品詞論のはきだめであると評されねばならない混雑を結果することとなる.」（渡辺 1983：5）

一方，工藤（1985）も，次のような見解を述べている．

「構文論が未発達な段階では,『副詞は品詞論のハキダメだ』とよく言われたものですが，それは実は『連用修飾語は構文論のハキダメだ』というのと表裏一体の関係にあったのです.『連用修飾語』には，主語と連体修飾語と独立語以外のすべての文中成分が投げ込まれているのですから.」（工藤 1985：30）

こういった意味では，国語学で「連用修飾語」とされてきた「もちろん」を「誘導副詞」の一つと捉え直した渡辺（1971）の研究は，品詞論と構文論の整理に貢献した重要な研究の一つであると考えられる．

ここまで，国語学において，副詞がどのように研究されてきたかを見てきた．いわゆる山田文法，橋本文法では，いずれも日本（語）文法全体の構図から副詞について議論している．渡辺文法も，国語学の伝統を受け継いでいるため，分類を重点に置いていると見て取れるが，副詞の意味や，従来の「陳述副詞」にしか見られないと思われてきた「呼応」の現象のみならず，構文的職能（誘導の職能）の観点から副詞を捉え直し,「叙述の知的内容量に対しては，全く増減の影響を及ぼすことがない（渡辺 1971：310)」という基準で従来の「陳述副詞」や「連用修飾語」とされてきたものを「誘導副詞」とした点が，それまでの副詞の研究と大きく異なっているのである[35].

に対する研究に比べて，かなり立ち遅れ（p.1）」ていると述べている．

[35] 実際，のちに渡辺（1983）は，「品詞分類とは，単語を，構文的職能を基準として分類整理する作業のはずである（p.5）」と述べ，「構文的職能」の重要性を一貫して唱えている．

2.2.2. 言語学・現代日本語学の研究

80 年代以降の副詞研究は, 日本の言語学研究の全体の流れとともに, 品詞論（品詞分類）, 文献を重視した「国語学（Japanese philology）的研究」から，徐々に西欧言語学の理論（理論言語学，形態論，統語論，意味論などを含む）と記述の方法（記述言語学）を取り入れた「日本語学（Japanese linguistics）的研究」へとシフトしてきた[36].

副詞を考察対象にした先行研究は，まず中右（1980）の「文副詞」の研究である．中右（1980）は，日本語と英語の副詞を対照させ，両言語の副詞を,「語」だけでなく,「語句」（文副詞）にまで対象を広げて,「命題内副詞」（命題の内側にあるもの）と「命題外副詞」（命題の外側にあるもの）に分類している[37]．前者は，命題の一部を形成している．後者は，命題に対するモダリティを表明する．

「命題内副詞」と「命題外副詞」はさらに次のように下位分類が行なわれた．

命題内副詞	時・アスペクトの副詞	あす，きょう，きのう，一昨日，すでに，もう，まだ，このところ，近年，近いうちに，しばらく，やがて，まもなく
	場所の副詞	ここに，あそこで，公園で，谷間に，上空に，屋根一面に
	頻度の副詞	いつも，つねに，しばしば，よく，時折，まれに，始終，ときどき
	強意・程度の副詞	全然，決して，すこし，ちょっと，まったく，ただ単に，完全に，絶対に，たいへん，たいそう，本当に，非常に，かなり，もっと，最も，はなはだ，なかなか，なんとなく，きわめて，ほとんど，あえて，あくまで（も），到底，たとえ，仮に（も），いかにも
	様態の副詞	のろのろと，のらりくらり，めらめらと，ゆらゆらと，ゆっくりと，すばやく，ていねいに，用心深く，不用意に，単調に，熱心に，ぎっしり，にっこり，おもむろに

[36] その背景には，60 年代の生成文法理論の台頭がある．日本人学者が海外で行なった日本語の研究（およびその研究成果の日本国内への持ち込み）と，海外の学者（非日本語母語話者）が行なった日本語の研究への注目などがあると考えられる．

[37] 中右（1980）は，「話者の切りとった現実世界の状況（出来事，状態，行為，過程など）を叙述したもの（p.159）」を「命題」とし，「発話時における話者の心的態度を叙述したもの（p.159）」を「モダリティ」としている．

命題外副詞	価値判断の副詞	運悪く，あいにく，幸いにも，不幸にして，うれしいことに，妙なことに，驚いたことに，不思議なもので， 残念ながら，当然のことながら，お気の毒ですが， 信じがたいことだが，悲しいかな 主語副詞：さすがに，愚かにも，無礼にも，大胆にも
	真偽判断の副詞	おそらく，多分，もちろん，むろん，きっと，必ず， 定めし，さぞ，確か，確かに，明らかに，思うに，考えるに，つらつらおもんみるに，疑いもなく，ひょっとして， もしかすると，一見（したところで），願わくは，わたしの見るところ（では），わたしの知るかぎり
	発話行為の副詞	ついでながら，ちなみに，要するに，たとえば， 率直に言って，本当のところ，つまりは，言わば， 言ってみれば，言うなれば，どちらかと言えば， 内輪の話だが，話は違いますが，おおっぴらには言えないが，ちょっとお伺いしますが，恐れいりますが， ものは相談だが，改めて言うまでもなく
	領域指定の副詞	建前としては，表向きは，名目上は，もとを正せば， 根本的には，基本的には，理想を言えば，理屈を言えば， 原理上，定義上

表２－１　中右（1980：163）における日英語副詞の分類（日本語の部分のみ抜粋し作成）

「命題内副詞」と「命題外副詞」の主な違いについて，中右（1980）は次のように述べている．なお，「命題外副詞」の「命題内容の増減にかかわることは決してない」という考え方は，前節で紹介した渡辺（1971）の「叙述の知的内容量に対しては，全く増減の影響を及ぼすことがない（p.310）」という「誘導副詞」の考え方に一致していると思われる．

> 「副詞は大別して，命題の内側にあるものと，命題の外側にあるものとに二分できる．命題の内側にある副詞（命題内副詞）は，命題の一部を形造るのであり，命題の外側にある副詞（命題外副詞）は命題に対するモダリティを表明する．（中略）命題内副詞は，命題の一部を形成することはあっても，それ自体でモダリティを表明することはない．が，その反面，命題外副詞は，モダリティを表明することはあっても，命題の一部となることは決してない．つまり，命題内容の増減にかかわることは決してないのである．」　（中右 1980：161）

中右（1980）の分類では，従来の「情態副詞」「程度副詞」は，前者「命題内副詞」の下位分類としての「様態の副詞」「強意・程度の副詞」に相当し，従来の「陳述副詞」は，後者「命題外副詞」の下位分類としての「真偽判断の副詞」「価値判断の副詞」に相当する．「あえて」「たとえ」「仮にも」「到底」など「陳述副詞」と思われるものも，一部「命題内副詞」における「強意・程度の副詞」に分類されている．

このように，日本語と外国語の対照に基づいた副詞の分類は，方法と基準ないし結果も，従来の分類と異なっているが，外からの視点が加わることによって，副詞の研究（分類）の進展に繋がった．しかし，次のような指摘もある．例えば，「現代西欧言語学の枠組みの中で日本語の副詞に光をあてているが，これらの研究で重点がおかれているのは，英語と日本語の副詞の間の平行性であり，日本語の副詞の実情に一致した分類がなされているかどうか（森本 1994：18)」不明であるという問題点が指摘されるようになった[38]．

2.3. 渡辺（1980）の重要性

前節では，日本語の副詞の研究の大まかな流れを見てきた．「呼応現象」（橋本 1946)，「構文的職能」（渡辺 1971)，さらに「命題内・命題外副詞とモダリティ」（中右 1980）といった分析は，いずれも副詞の構文的特徴を見ることの必要性を示唆している．

副詞の研究が，国語学の研究から，言語学・現代日本語学の研究へとシフトしている中，品詞分類から一旦離れて，個別の副詞の現象に着目した分析がある．例えば，渡辺（1980）の「せっかく」の分析である．

第 1 章の冒頭でも言及したが，渡辺（1980）は，「日本語の『副詞』（と思われるもの）の中に，『叙述内容（述語によってまとめられる対象的事態の内容)』の知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼすことなく，叙述内容に対する話者の評価を表わす，という性質を持つ一群のものがある（p.32)」と述べ，「せっかく」「まさか」「いっそ」「せめて」などの副詞を挙げている．これらの副詞は，「叙述内容の知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼさない」という点においては，これまでの「もちろん」「幸い」などの「誘導副詞」（渡辺 1971）と重なる部分はあるものの，構文的職能（構文的特徴）に注目すると，「せっかく」

[38] 分類以外の場合も，「個別的に語彙として分析記述するか，あるいは非常に一般化した分析をほどこすという両極にわかれる（森本 1994：1）」という傾向が見られる．こういった背景が，「せっかく」などのような，英語に対応しない，日本人独特な心情を表わす副詞の研究が比較的に遅れている一因と考えられる．

をはじめとする一群の副詞と,「誘導副詞」とは性質が異なっているということが分かる[39]. そこで渡辺（1980）は,「せっかく」を代表としてとりあげてその意味的・構文的特徴を分析し,「評価」とは異なる「見越しの評価」という概念を提示した[40]. この「見越しの評価」は，単に副詞の意味に基づいた命名ではなく，構文的特徴と命題（前件 P に立って，後件 Q を見越す）を見事に反映した概念でもある．よって，加藤（2001）が述べたように，「話し手の評価・心情を表す副詞を考える時にも有効」であり，類似した構文的特徴を持つ副詞を分析する時にも有効であると考えられる．

しかし,「せっかく」の複雑さゆえに，渡辺（1980）は「見越しの評価のような，言語主体に属する意義領域の複雑なものを，対象化することなく，対象的に飜譯することもなく，そのまま生に『せっかく』『なまじ』と表現する日本語は，ほんとうに分析に困ってしまうのである（p.40)」と課題を残している．なお,「せっかく」をはじめ,「なまじ」「いっそ」「さすが」などは挙げられているが,「一群の副詞」の中に，具体的に他にどのような副詞が存在しているのかに関しては言及がなされなかった.

2.4. 渡辺（1980）以降の副詞の研究

渡辺（1980）以降の副詞の研究は，大別すると，三種類がある．一つ目は，渡辺（1980）を継承し，特殊な性質を持つ個別の副詞（例えば,「せっかく」）の意味的・構文的特徴の分析（蓮沼 1987，2012，2014a ; 小矢野 1997a，1997c など）である．二つ目は,「話し手の主観を表す副詞」「副詞的表現」「モダリティ副詞」など，ある特定のグループの副詞を選定し，分析・分類を行なう研究（森本 1994 ; 仁田 2002 ; 杉村 2008 など）である．そして三つ目は，副詞の語順や，副詞節の階層構造に注目した研究（野田 1984，2013）がある.

---

[39] 「誘導副詞」の主な特徴は「知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼすことがない」ということであるが，一方，渡辺（1980）における「せっかく」をはじめとする一群の副詞の場合，叙述内容（命題にほぼ対応するもの）に対する話者の評価が命題の外側にあり叙述内容（命題）の一部ではない．そのため，結果的に「誘導副詞」と同様に「知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼすことがない」のだと考えられる.

[40] 渡辺（1980）は，「見越しの評価を表す『せっかく』―国語学から言語学へ」というテーマで，「せっかく」をはじめとする特殊な性質を持つ副詞について論じた．注意すべきなのは，副題の「国語学から言語学へ」の部分である．そこには，渡辺（1980）が国語学の分類では解決できなかった副詞の問題を，言語学の方法（日本語と外国語との対照，命題の概念など）で解決を試み，また，分類そのものに重点があるのではなく，あくまで個別の「表現」（副詞と思われるもの）としての「せっかく」の分析に重点を置くという渡辺の考えがある.

なお，上記のどれにも属さないものがある，一つは，副詞研究の系譜を俯瞰的に紹介しつつ，副詞の分類も，個別の副詞（例えば,「どうせ」「どうしても」）の分析も同時進行させた工藤の長年の研究がある．もう一つは，日本語文法の基本的項目の一つとして副詞を取り上げた概論書（益岡・田窪 1992 など）がある．ここでは，すべての副詞の先行研究をレビューすることができないため，以下，話者の「評価」（および「せっかく」）について言及のある先行研究（工藤 1982，1997，2000；益岡・田窪 1992）のみ取り上げて紹介する．なお，蓮沼（1987，2012，2014a）と小矢野（1997c）に関しては,「せっかく」に特化した議論であるため，第 4 章で紹介することにする．

まず，工藤の研究である．工藤（1982，2000）[41]によると,「文の陳述性のうち，副詞あるいは副詞的成分に関係のあるものとしては，次のように,（a）叙法性,（b）評価性,（c）対照（とりたて）性（p.180）」の三種類がある．（a）の叙法性は「推量，依頼」などといった「文の語り方」に関係するものである（例文 7a,b）.（b）の評価性は「文の叙述内容に対する話し手の評価的な態度」に関係するものである（例文 8a,b）. そして（c）の対照（とりたて）性は「限定，見積もり方」などといった「文の特定の部分の『とりたて[42]』」に関係するものである（例文 9a,b）.

（7） a. たぶん晴れるだろう.
　　 b. どうぞこちらに来て下さい.

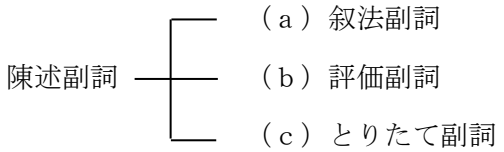
（8） a. あいにく雨が降ってきた.
　　 b. 奇しくもその日は父の命日だった.

（9） a. ただ君だけが頼りだ.
　　 b. 少なくとも十年はかかる.

（工藤 2000：180）

そのため，工藤（2000）では「陳述副詞」は次のように分けられている.

[41] 工藤（2000）は，工藤（1982）を含む複数の旧稿に基づいて改訂，加筆，要約したものであるため，本研究では工藤（2000）を中心に引用する.
[42] 工藤（2000）における「とりたて」の定義は「表現されていない，他の同類の物事との範列的 paradigmatic な関係づけ（p.180）」である.



（工藤 2000：181）

工藤（1982）によれば，（a）の「叙法副詞」は「陳述副詞」の一部（下位分類）ではあるが，「中核的な一部を占めるべきもの（工藤 1982：45)」である．（b）の「評価副詞」に関しては，工藤（1978）では「注釈副詞」の一部としたもののうち，「評価的・感情的なもの」だけを「評価副詞」として残している．（c）の「とりたて副詞」に関しては，工藤（1977）では「限定副詞」とされたものである．

なお，（a）の「叙法副詞」は次のように細分されている．「せっかく」と「あまり」は「C 条件的な叙法」に分類され，「なまじ」は「B 認識的な叙法」に分類されている．

分類		例
A 行為的な叙法	a）基本叙法	1）依頼：どうぞ，どうか，なにとぞ，なにぶん／頼むから 2）勧誘・申し出 etc.：さあ，まあ，なんなら（なんでしたら）
	b）副次叙法	3）願望・当為 etc.：ぜひ，**せめて**，**いっそ**，できれば，なんとか，なるべく，できるだけ，どうしても，当然，断じて cf. 意志：あくまで（も），すすんで，ひたすら，いちずに etc. 意図：わざと，わざわざ，ことさら，あえて etc.
B 認識的な叙法	a）基本叙法	4）感嘆・発見 etc.：なんと，なんて，なんともはや 5）質問・疑念：はたして，いったい／なぜ，どうして etc. 6）断定：勿論，無論，もとより／明らかに，言うまでもなく 7）確信：きっと，かならず，ぜったい（に），断じて 8）推測：たぶん，おそらく，さぞ，定めし，大方／大抵，大概／まさか，よもや／たしか，もしや，さては 9）伝聞：なんでも，聞けば cf.　D 27）情報源　～によれば etc.

	b) **副次叙法**	10) 推定：どうも，どうやら／よほど 11) 不確定：あるいは，もしかすれば，ことによると， ひょっとしたら／あんがい 12) 習慣・確率：きまって，かならず，きっと／とかく， えてして，ややもすれば，ともすると／ いつも，よく／大抵，大概，普段 13) 比況：あたかも，まるで，ちょうど／いかにも，さも 14) 否定 (ⅰ)否定判断性：けっして／まさか，よもや／断じて 部分否定性：必ずしも，一概に，あながち， まんざら とりたて性：別に，別段，格別，ことさら (ⅱ)程度限定性：たいして，さほど，さして，ちっとも， すこしも，一向（に），てんで／まるで， 全然，まったく (ⅲ)動作限定性：ろくに，めったに，さっぱり，ついぞ， たえて （不可能）　とても，とうてい，なかなか，どうしても （疑問詞）　なんら，なんの，なにも，なにひとつ etc. (ⅳ)慣用句偏性：毛頭，皆目，寸分，とんと， おいそれと（は）etc. cf. 否定的傾向：**所詮**，**どうせ**，どだい，**なまじ**，へたに （相対的テンス）　まだ，もう，いまさら 15) 肯定：かならず，さぞ，ぜひ cf. 一般の程度副詞　ある種のアスペクト副詞
A 行為的な叙法にも，B 認識的な叙法にも用いられるもの： きっと，かならず，絶対（に），断じて／もちろん，無論		

C　条件的な叙法	16）仮定条件：もし，万一，かりに／いったん ／**あまり**，よほど／どうせ，同じ
	17）仮定逆条件：たとえ，たとい，よし，よしんば
	18）逆条件（仮定～既定）：いくら，いかに，どう，どんなに etc.
	19）原因・理由：なにしろ，なにせ，何分／ **さすがに**，**あまり**
	20）譲歩：もちろん，たしかに，なるほど，いかにも
	21）譲歩～理由：**せっかく**
D 下位叙法	22）確認・同意：なるほど，確かに，いかにも，全く／道理で
	23）うちあけ：実は，実の所，実を言えば，本当は， 正直（言って） 思い起し：思えば，考えてみると，思い起こせば
	24）証拠立て：現に，事実，じっさい，だいいち たとえ：いわば，いうなれば，言ってみれば
	25）説き起こし：およそ，そもそも，一体，大体，本来，元来 （概括）　一般に，概して，総じて まとめ　：結局，畢竟，要するに，要は，つまり， 早い話（が） （はしょり）　**どうせ**，**どっちみち**，**いずれにせよ**， **所詮**，とにかく
	26）予想・予期：**案の定**，**やはり**，はたして，めずらしく， 案外（に），意外にも／かえって
	27）観点～側面：正しくは，正確には，厳密には，詳しくは etc. 技術的には，時間的には，文法的には etc. （情報源）　～によれば，～に従えば etc. cf.　9）伝聞

（以上，工藤 2000：188-191 より引用．ゴシック体は本研究による）

表２－２　工藤（2000）における「叙法副詞」の分類

表 2-2 が示すように,「せっかく」は「叙法副詞」(D 条件的な叙法，21 譲歩～理由）に分類されている．つまり，工藤（1982，2000）に従えば,「せっかく」は「文の語り方」に関係するものであり,「評価副詞」(「文の叙述内容に対する話し手の評価・感情的な態度」に関係するもの）ではない．工藤（1982）の重点は「叙法副詞」に置かれていたため,「評価副詞」に関しては言及が少なかったが，工藤（1997）ではより詳細な記述がある．工藤（1997）によれば,「評価副詞」の場合,「叙述全体」の「ことがら評価」(例：あいにく，奇しくも，ありがたくも，親切にも）を表すのに対して,「叙法副詞」の場合,「叙法部分」の「のべかた評価」(例：さすが，せっかく）を表す．両者をまったく性質の異なっているものとして捉えているということが分かる．工藤の分類では,「せっかく」はあくまで「叙法副詞[43]」であって,「評価副詞[44]」ではない．

「せっかく」を含む特殊な性質を持つ副詞の研究が進むにつれ，日本語文法の概説書でも紹介されるようになった．そのうちの代表的なものには，益岡・田窪（1992）がある．益岡・田窪（1992）では，副詞は「様態の副詞」「程度の副詞」「量の副詞」「テンス・アスペクトの副詞」「陳述の副詞」「評価の副詞」「発言の副詞」「その他の副詞」という８種類があると紹介されている（表 2-3）．

副詞	例
様態の副詞	堂々と，黙々と，平然と，軽々と，一気に，いやいや，こわごわ，ぐっすり， ゆっくり，ぼんやり，にやにや，しくしく，じっと，さっさと，ドスンと， はっきり（と），きっぱり（と），すくすく（と），しとしと（と），ザーザー（と）等 意志的な動作であることを表す　：　わざと，わざわざ，あえて等 無意志的な動作であることを表す：　うっかり，思わず等
程度の副詞	大変，はなはだ，ごく，とても，非常に，極めて，おそろしく，ひどく， だいぶ（ん），大幅に，ずいぶん，たいそう，相当，かなり，わりあい， わりと，わりに，けっこう，なかなか，少し，ちょっと，少々，多少， いくらか，じゅうぶん，よく，最も，いちばん，もっと，ずっと，一層， はるかに，より，さらに，なお等 述語の否定形と共に使われるもの： 　　あまり，さほど，たいして，全然，全く，さっぱり，少しも，ちっとも等

[43] 工藤（1997：69）によれば，「せっかく～ のに／のだから」「なにせ～だから」「いくら～でも」などのような場合，「評価性をあわせもった条件的叙法副詞」である．

[44] 工藤（1997）によれば，「評価」は「叙法・程度・情態・とりたて・時間といった，さまざまな成分にも『かぶさる』ような形で存在する（p.71）」ため，「独自の領域」を持たない．しかし，意味上・構文機能上の特性から，「叙述全体」への「ことがら評価」を表す「幸い・奇しくも・大胆にも・驚いたことに」などの副詞は「評価を本務とする文の成分を立ててよいと考える（p.71）」ため，品詞としての「評価副詞」を立てたしている．

量の副詞	たくさん，いっぱい，たっぷり，どっさり等 程度副詞の中に，量の副詞としても使えるもの： だいぶ（ん），ずいぶん，相当，かなり，少し，ちょっと，少々，多少， じゅうぶん，よく等 原則として述語の否定形と共に使われるもの： あまり，さほど，たいして，全然，全く，さっぱり，少しも，ちっとも等 条件を表す表現においては，述語の肯定形と共に使うことができるもの： **あまり** 全体のうちの大部分という意味を表すもの： だいたい，おおよそ，ほぼ，あらかた，ほとんど等
テンス・アスペクトの副詞	テンスの副詞： かつて，いずれ，いまに，もうすぐ，これから，さきほど，のちほど等 アスペクトの副詞： いまにも，すでに，もう，とっくに，ちょうど，まだ，ずっと， 依然（として），もはや，次第に，だんだん，徐々に，ますます， とうとう，ついに，ようやく，やっと，すぐ（に），ただちに，たちまち， いつしか，やがて，まもなく，ほどなく，そのうち（に），しばらく， いよいよ，あらかじめ，まえもって，かねて（から），かねがね，突然， いきなり，ひとまず，いったん，とりあえず，さしあたり，はじめて，まず， ふたたび，また等 事態が起こる頻度を表すもの： いつも，きまって，常に，しじゅう，絶えず，たいてい，よく，しばしば， たびたび，しきりに，時に，時々，たまに等 述語の否定形と共に使われるもの： めったに，あまり，全然，全く，ちっとも等
陳述の副詞	疑問と呼応するもの：いったい，はたして 否定と呼応するもの：決して，必ずしも，とても，とうてい 依頼・命令，願望と呼応するもの：ぜひ，なんとか，どうか，どうぞ 概言・確言と呼応するもの：おそらく，たぶん，さぞ，まず，どうも，どうやら， きっと，必ず，絶対，確か，まさか，よもや 伝聞と呼応するもの：なんでも 比況と呼応するもの：まるで，あたかも，さも 感動と呼応するもの：なんと，なんて 従属節において条件・譲歩の表現と呼応するもの：もし，万一，かりに， たとえ，いくら，いかに等
評価の副詞	**あいにく，さいわい，当然，もちろん，むろん，偶然，たまたま等**
発言の副詞	～言えば，～言うと，～言って，実は，実際（は），言わば，例えば，要は， 概して，総じて等
その他の副詞	限定を表すもの：特に，異に，単に等 **ある種の評価を表すもの：やはり，せっかく，せめて，さすが等**

（益岡・田窪 1992：41-47 より引用．ゴシック体は本研究による）

表２－３　益岡・田窪（1992）における副詞の種類

表 2-3 が示すように,「せっかく」は「陳述の副詞」でもなければ,「評価の副詞」でもなく,「やはり」「せめて」「さすが」と同じく,「その他の副詞」の「ある種の評価を表すもの」である．益岡・田窪（1992）では「ある種の評価」と渡辺（1980）の「見越しの評価」との関係についての言及こそないものの,「せっかく」などの「その他の副詞（ある種の評価を表すもの)」と「あいにく，さいわい，当然，もちろん，...」などの「評価の副詞」との異質性を改めて確認することができた.

2.5. 先行研究における三つの問題点

ここまで,「評価」および「せっかく」に関する先行研究を見てきたが，これまでの先行研究に関して，次のような三つの問題点が挙げられる.

第一の問題点は,「見越しの評価」に関する議論が不足している点である．渡辺（1980）は「せっかく」のような特殊な性質を持つ副詞と，従来の副詞三分類における「陳述副詞」（渡辺 1971 では「誘導副詞」とされているもの）との本質的な違いに注目し,「せっかく」を「見越しの評価」を表す副詞と定義した．しかしながら，渡辺（1980）以降（渡辺 1996 も含めて),「見越しの評価」に関してはほとんど言及されてこなかった．また,「せっかく」以外の副詞，つまり「『見越しの評価』を表す副詞」を，従来の「情態副詞」「陳述副詞」「程度副詞」のカテゴリーとは別にどのように選定し，またそのカテゴリーをどう位置づけるか，そもそも「見越しの評価」とは何か,「見越しの評価」を表せるのは「せっかく」だけなのか，などといった疑問が残っている.

第二の問題点は,「せっかく」を除いて，他の副詞について広汎なデータがまだ集められていない点である[45]．80 年代,「コーパス日本語学」という手法がまだ確立されていなかったという時代の背景があり，そのため，従来の研究では，研究者個人の内省と作例に依存している部分が大きかった．これについては第３章で詳述する.

第三の問題点は，この一群の副詞の体系的な比較と，共通している中核的性質の解明の課題が残されている点である．第一の問題点で提示したように,「『見越しの評価』を表す副詞」の「一群」は具体的にどんなものがあるのか，漠然としている．これまで，例えば

[45] コーパスデータを使用した「せっかく」の大規模の調査に関しては,現在のところ,蓮沼（2012, 2014a）のみである.

「せっかく」と「どうせ」や，類義語・類義表現としての「わざわざ」との比較・対照に関する議論はなされてきているが，互いの相違点の指摘に留まり，つまりいかに違うのかを示すことに重点が置かれてきた．「せっかく」と「さすがに」を取り上げて分析した蓮沼（1987）が指摘した通り，「ただ語のレベルで論じたのでは，その全体像をとらえることができないのである．（中略）二文間の関係，さらには，談話のレベルへと視野を拡げて見通すという観点が必要（p.220）」である．「一群」である以上，個々の副詞の個別の特徴のみならず，各副詞の間に共通する中核的性質にも目を向ける必要があると考えられる．

本研究では，具体的には，次のような方法で上記の問題点の解決を試みる．

第一の問題点を解決するため，渡辺（1980）の概念を援用し，「せっかく」と同様に複雑な意味的・構文的特徴を持つ一群の副詞を「情態副詞」「陳述副詞」「程度副詞」に限定せずに，選定し分析する．選定する際に，「基本的に複文で使用されるという構文上の制約を有する副詞」と必ずしもそうとは限らないものを明確に分けたうえで，前者に対象をしぼり，「複文の構造を要求し，かつ従属節に現れる副詞」を選出する．また，先行研究に基づき，これまで，まだ議論されていないものや，議論する余地のあるものを取り上げて考察していく．

第二の問題点を解決するため，伝統的な国語学・日本語学[46]と異なる方法で，作例だけでなく，現代日本語の大規模コーパスデータにおける実例（実際の使用例）を広く収集し質的に分析していく．

第三の問題点を解決するため，「せっかく」と「せっかく」以外の個々の副詞により詳細な記述を与えることによって，この一群の副詞が共有している中核的性質と個々の副詞で異なっている性質を明らかにしていく．

2.6. 本章のまとめ

本章では，これまでの国語学ないし日本語学における副詞の先行研究を概観してきた．まず，2.2.節では山田文法をはじめとする副詞の分類の背景を概観し，国語学（品詞論）

[46] 本田他（2014）が述べているように，「日本語自体を研究対象とする研究分野は，国語学と呼ばれ非常に長い伝統をも（p.22）」ち，「1980 年代から日本語学という用語が現れ，日本語教育の文脈で用いられるようになった（p.23）」．「教育目的ではない日本語研究も広まるにつれ（中略）日本語学という用語から教育目的のニュアンスが消えて，言語学の一分野として使われていくことにな（p.20）」り，「日本語学の機能分化（p.25）」という現象が見られる．

から言語学（日本語学）へと方法論が転換しつつある中で，副詞がどういった特徴を中心に研究されてきたかを紹介した．2.3.節では，上述の研究の流れの中で，「見越しの評価」を表す一群の副詞の存在をはじめて指摘した渡辺（1980）の先行研究を紹介しその重要性について説明した．2.4.節では，渡辺（1980）以降の副詞の先行研究を取り上げて紹介した．なお，「せっかく」をはじめとする特殊な副詞は，ただの「陳述副詞」もしくは「誘導副詞（渡辺 1971）」「叙法副詞（工藤 1982）」では決してなく，「見越しの評価（渡辺 1980）」を表す副詞であり，「評価性をあわせもった条件的叙法副詞（工藤 1982）」「ある種の評価を表すもの（益岡・田窪 1992）」でもあるということを改めて確認することができた．日本語副詞研究の一連の流れの中で，個別の副詞（「せっかく」）の分析（渡辺 1980）に辿り着くまでは，日本語文法全体の構図から副詞の品詞分類が主流だった．副詞の分類は，これからも重要な課題の一つだが，渡辺（1983）が述べたように，「副用言の中には，構文論的に所属の不明なものがまだまだ多く残っているはずである．試みに手近な辞書を引いて，品詞注が『副詞』となっているものを抽き出して見ると，その有様はすぐに知れよう．またよくは知られていない新しい関係構成的職能が発見されて，構文論をもっと精密にすることも大いにあり得よう．（中略）副用言類は，まだよくわかっていない部分が本当に多い．意義論面に劣らず構文面からも，副用言の研究に期待される所以（p.9）」である．そのため，本研究では，意味に基づいた分類を見ただけでは，「せっかく」のような特殊で複雑な性質を持つ副詞の特徴を見過ごしてしまうだけではなく，その特徴が反映された適切な位置づけができないと考え，構文的特徴を重要視している渡辺（1980）の「見越しの評価」の概念を援用し，「せっかく」と類似した意味的・構文的特徴を持つ副詞を選定し考察していく．次章第３章では，上述の三つの問題点を解決するには，具体的にどのような方法，ないし研究アプローチを用いるのかを紹介する．

第３章　アプローチ

3.1.　はじめに

本章では，本研究のアプローチを紹介する．本章の構成は次の通りである．まず，3.2.節では，日本語副詞研究の主なアプローチのこれまでの変遷と，いくつかの問題点を概観する．次に，3.3.節では，「せっかく」の先行研究に見られるアプローチの違いを紹介する．そして，3.4.節では，本研究で使用するデータの種類と使い方，データへの注目点，方法の妥当性と有用性について述べる．

3.2.　日本語副詞研究の主なアプローチの変遷

3.2.1.　作例から実例へ

第２章で紹介したが，日本語の副詞の研究は，国語学の品詞分類に始まり，副詞の意味に基づいた分類や，副詞の種類の判定に重点が置かれてきた．のちに発展した日本語学では，品詞分類を課題にしつつ，個別の副詞の詳細な記述分析がますます重視されるようになってきた．

個々の副詞の意味・用法を記述分析する先行研究の特徴の一つとして，まず，内省・直観データ，つまり作例に依存している部分が大きかったということが挙げられる．その背景として，60 年代から 80 年代にかけて，Chomsky が発展させた生成文法の流行と，当時のコーパス言語学における物理的制約の多さという時代の影響が考えられる[47]．

一方，研究目的に作られた作例以外のデータを使用することの重要性も次第に認められるようになり，小説をはじめ，新聞，雑誌，音声資料なども，文法（副詞を含む）全般の分析材料として取り入れられるようになった．収集された例文は，おおむね，「用例カード」（用例採集カード）に記載し保存・蓄積される．しかし，用例数の増加に伴う処理や作業の労力と，材料のジャンルの偏り（不均衡さ）の問題などがあったために，やがて上記の

[47] 当時，コンピューターが高価だったため，言語研究の分野であまり使用されていなかった．後藤（2007）によると，「1984 年当時，16 ビットパソコンが出始めてはいたものの，ハードウェア，ソフトウェアの両面で数メガバイトのデータファイルを扱うことは現実的ではなかったし，大型計算機の敷居は高すぎて，人文系の研究者には容易に近づけるものではなかった（p.49）」．コンピューター自体の機能も多くなく，コーパス（英語）の種類も少なかった．

方法も，コンピューターの検索機能やインターネットの著しい発展に伴って新たに構築された電子化コーパスに取って代わられた[48].

作例を使用するか, 実例を使用するかは研究の立場によって異なってくるが, 質 (精度[49]) の高い分析・記述が，現在一般的に重視・要求されている[50].

3.2.2. 作例（内省）の問題点

作例のデータは, 普段の言語使用とかけ離れていると指摘される場合がある[51]. しかし，どこまでかけ離れているのかはその時々の作例の種類や質にもよるため，ここでは，作例ができるまでの「内省」の作業の問題点を中心に考えていく.

まず，内省だけでは，思いつかない情報がある．文法現象の一部を見落としたり，あるいは周辺的現象に気づかなかったりする場合がある．例えば内省を通して，「ただでさえ」を使った作例を作るとしよう.「ただでさえ…から」「ただでさえ…のに」の例文はすぐには思い浮かぶものの,「ただでさえ…うえ（に)」「ただでさえ…だけに」などの例文は思い浮かばないかもしれない．そうすると，「から」「のに」との共起に集中して議論が進むことになりかねない.

次に，内省・直観的な判断を過度に頼ると，個人が作った例文（作例）を普遍的な文法現象として解釈したり，内省・直観と異なる現象を「間違い」として認定したり，「例外」として片づけたりするという危険性がある.

---

48 生成文法とコーパス言語学におけるデータの扱い方に関する見解の違いについて，Fillmore（1992）は「ひじ掛け椅子に座った言語学者（armchair linguist）」より，「パソコン付きのひじ掛け椅子に座った言語学者（computer-aided armchair linguist）」になりたいという見方を提示している.

49 田野村（2000）によれば，「遺漏のない精密な意味記述を目指すのであれば，個人差を伴いがちな微妙な問題を研究者個人の語感で独善的な判断を下す危険を避けるためにも，広範囲の用例の観察・分析が不可欠（p.211）」である.

50 本田他（2014）は，学会誌『日本語教育』101 号（1999 年 7 月）から 150 号（2011 年 12 月）に掲載された論文（合計 236 本）を分析し，日本語学関連の研究論文で使用されるデータについて，「かつてこの分野は，例文作成や引用例文による文法記述が典型であったが，この方法がだんだん減少傾向に（p.24）」ある．一方，「コーパスの使用は安定しており（中略）主流となりつつある（p.24）」，「従来の作例や例文引用による方法で，文法の記述を行おうとしても難しい（p.25）」という現状を指摘している.

51 「しばしば，他の研究者から，挙げられている例文の判定が自分と異なる，あるいは調査と異なるというような指摘がなされ，場合によっては分析の妥当性が疑われることもある（杉本 2014：14）」という難点がある.

内省を通して得られた作例のデータのみに基づいた言語研究は，「個人語[52]」という「首尾一貫したシステムの記述」として捉えることができる（杉本 2014）ものの，「個人語」の記述研究ではない限り，コーパスを通して多くの用例についての情報を得ることによって，内省を補う作業が必要であろう．

ここまで，作例（内省）の問題点を指摘したが，実例の使用にも次のようにいくつかの問題点が存在する．

3.2.3. 実例（コーパス）の問題点

まず，渡辺（2001）は，現代日本語の「どうせ」の分析を例に「自分で用例をいろいろ作って確かめてみることで，調査の手間をかけるのと大差のない結果が得られ（p.43）」る場合があると述べている．渡辺（2001）の考え方の背後には，国語学（古代，近代日本語）との違いがあると考えられる．古代日本語と異なって，今使われている現代日本語だからこそ内省できるのであり，研究者・分析者一人ひとりの内省を活用することが必要という考え方である．

次に，いくら大量に実例を採集しても，そもそも，研究者・分析者自身が内省しないと，実例の中から意味的・構文的特徴を含む現象を把握したり，問題を特定したりすることができない可能性がある．本研究で取り扱おうとしている「『見越しの評価』を表す副詞」の一群もそうである．「せっかく」の実例の分析もそうだが，「せっかく」の特徴に類似している他の副詞を選定する際も，果たして候補となる副詞が「従属節―主節」という複文の構造を要求しているかどうか，ないし「見越しの評価」を表しているかどうかを見極めるには，内省のメリットの活用は欠かせないのである．

また，実例そのもののゆれ（ないしは誤用）をどう解釈するかという問題もある[53]．例えば次のような例文（1a,b）では，「せっかく」は生起しないはずの仮定条件を表す「ば」「たら」節に現れており，例文（2）では，社会通念上「プラスの評価」とされない「病気（になったこと）」を「せっかく」が修飾している．

---

[52] 「個人語」について，杉本（2014）は「そもそも，意図的に内省を使用する立場においては，ある程度話者の文法の個人差を認めた上で（p.13）」，「それ自体首尾一貫したものと考えられるシステムを記述することを目指すことがある（p.13）」と述べている．

[53] 例えば前川（2007）は「まさに正岡子規だったですよ．」「初めて海外に行ったですよ．」などの例文を挙げ，「これらの用例が用いられたであろう文脈を想像して（中略）非文と断定しにくく感じられてくる．合理化の契機が与えられれば，むしろ適格文に思えてくる（p.21）」と述べている．

(1) a. せっかく綺麗な夜景があれば，その前に友達や家族を立たせての撮影もしたいものです.

（BCCWJ／書籍／7 芸術・美術 『デジタルカメラ 100 の技』園田誠著 技術評論社）

b. ただせっかく現地まで行きましたら，どういう場所をどういう買い方をしているかを現地で見ていただきたい.

（BCCWJ／国会会議録／衆議院／常任委員会 第 077 回国会 1976 年）

（以上，蓮沼 2014a：439-440 における例文）

(2)「わたしが取り戻すわたしのからだ～せっかく病気になったんだから～」

（読売新聞 2014 年 6 月 12 日）

例文（1b）に関しては，国会会議録のデータであり，前後に非常に冗長な文脈の中に現れる「せっかく」の例である．内省と，コーパスに現れる頻度から，蓮沼（2012；2014a）は「逸脱した表現」と位置づけている．「せっかく」と条件形をめぐる現象については第４章で詳述するが，こうした例文がしばしばコーパスの中から現れるのである．それを非文と捉えることもできれば，「逸脱した表現」（蓮沼 2012；2014a）と捉えることもできる．実例は本来研究用に作られたものではないため，その時々の文脈によって意味・用法が異なったり，文脈なしでは誤用と見られたりするものも含まれている．コーパスで得られたデータをどのように解釈するか，研究者・分析者個人の処理の仕方，母語話者（協力者，インフォーマント）への聞き方や，協力者自身の理解度によって，結果も異なってくると思われる．つまり，最終的には，研究者・分析者の裁量にかかっているのである．

3.2.4. 作例と実例の併用

内省による作例を使用するか，実例（用例）を使用するかは，あくまで研究者・分析者によるのだが，どちらをとっても，メリットもあれば，デメリットも存在している．作例がまったく認められないというわけではない．しかし同時に，実例もまた万能であるというわけではなく，あまりに実例に傾いてしまうと，かえって危険である[54]．上述の危険性

[54] その他，日本語の表記のゆれの問題も存在している．後藤（2003）が指摘しているように，テキストによって，送り仮名や漢字表記の違い，外来語の音引きの有無，カタカナ表記の意図的使用，正書法からの逸脱，旧字体，若者言葉における大胆な表記，さらにテキストの誤入力などもあり，対処する必要がある．

に対処するためには，内省（作例）と調査（実例）の併用という考え方がある．両者の併用は，言語研究の「健全な姿」（家入 2009：29）であると言われている[55].

本節（3.2.3.節）の冒頭で，渡辺（2001）が挙げる内省（作例）のメリットを紹介したが，他方で渡辺（2001）は実例の使用を否定しているわけではない．渡辺（2001）は「調査と内省とを補い合う形で活用するのが理想であろう（p.45）」と認めている．このことは，「内で生きている現代日本語」を内省することの有用性と，内省（作例）と調査（実例）の両方のデータを補い合い，増やしていく必要性があることを示唆している[56].

藤村（2011）は次のような見解を述べている．

> 「言語を研究する方法には大きく分けて，帰納的・経験論的な方法と演繹的・合理論的な方法とがある．前者は個々の言語現象の観察から出発して一般的原理を目指すボトムアップの方向である．後者はある一般的原理から出発して，その原理のもとで個々の現象の関係の解明を目指すトップダウンの方向である．（中略）２つの方法を組み合わせることによってよりよい結論を導き出すことができるが，研究者によってどちらを重視するかには違いがある．（中略）独創的な研究を行うためにはありのままの言語現象の観察から出発することが肝心と考える．」　（藤村 2011：3）

本研究は，一般的原理に基づいて仮説を立てて検証する演繹的・合理論的な方法をとるものではない．そのため，まず個々の言語現象の現れとして副詞の実例を観察し，一般的原理を帰納していくという方法をとる．その際に，上述のような実例（コーパス）に見られる問題点を補うために日本語ネイティブチェック済みの作例を使用し，より精緻な記述と分析を目指す．

---

[55] コーパスが「手段」から「目的」へと変わってきているという現象について，家入（2008）は，「コーパスのためのコーパス利用に陥ってしまい，ますます言語分析から遠ざかる（p.29）」のは，決して言語研究の「健全な姿」ではないと指摘している．

[56] 内省の作業のハードルが高い非母語話者について，家入（2008）は「そもそも言語の分析は，データを取り出してくることと，その言語の実態に対して分析・推論を行うことの組み合わせから成っている．いうまでもなく両者の比率は，研究テーマや扱う時代，議論の枠組みによって異なっている．フィールドからのデータ収集が皆無で，一見したところ分析と推論のみからなるように見える研究方法であっても，多くの場合に実は分析者の脳から言語実態が取り出されて，これに基づいて議論が進められている．この作業ができない非母語話者の場合には，ほかの複数の異なる論文中に引用された例文を引いてくる操作を行うこともあるが，それよりはコーパスを利用するほうがはるかに科学的である（p.28）」と述べ，母語話者と非母語話者のできる研究の違いを提示している．

次節では，本研究でも取り上げようとしている「せっかく」を例に，内省を用いた渡辺（2001）の研究と，コーパスデータを使用した蓮沼（2014a）の研究の結果の違いを紹介し，作例・内省だけでなく，コーパスデータを活用する必要があることを述べる．

3.3. コーパスと副詞研究：「せっかく」を例に

上述の通り，渡辺（1980）で使用されている例文は，渡辺（2001）と同じ，すべて内省によるもの（作例）である．渡辺以降，新聞と小説における実例を使用し「せっかく」の用法をまとめた研究に小矢野（1997c）があるが，より大規模にコーパスデータを使用し「せっかく」の用法を詳細かつ網羅的にまとめているのは蓮沼（2012，2014a）である．特に，蓮沼（2014a）は，コーパス（BCCWJ，3.4.節で後述）を用い『せっかく』の用法と接続表現との共起傾向を網羅的に観察し，分析した結果，「せっかく」と共起する接続の形式には，順接を表す「(の）だから」と逆接を表す「のに」という接続助詞（接続表現）の他，「ても」「なら」などのような，条件を表すものもあると指摘している．

しかしながら，これは，渡辺（1980，2001）が言う「せっかく」（の命題）は確定表現でなければならない(仮定表現となじまない)という特徴と一見相容れないように見える．

そこで，蓮沼（2012，2014a）は，「ても」の種類を細分し，「事実条件」としての「ても」，「反事実条件」としての「ても」，「既定条件」としての「ても」，「仮説条件」としての「ても」に区別することで，問題の解決を試みた．その結果，「せっかく」は事態の真偽が定まっていると話し手に把握されているような「既定性」を持つ「ても」としか共起しないということが示された（この問題については第４章で詳述する）．

すなわち，内省で「せっかく」と「ても」「なら」との共起を全面否定した渡辺（1980，2001）と異なり，蓮沼（2012，2014a）は内省とコーパスを組み合わせて言語事実のより正確な記述をすることによって問題を解決することができることを示したわけである．

このことは，「せっかく」のような，複雑で多面的な意味的・構文的特徴を持つ「『見越しの評価』を表す副詞」を体系的に観察するためには，作例・内省だけでなく，コーパスを用いて実際のデータを厳選し使用する必要があることを示唆している．そうすることによって，より分析の精度が高くなることが期待できる．

3.4. 本研究で使用するコーパスとデータへの注目点

本研究では国立国語研究所コーパス開発センターが「現代日本語の書き言葉」（明治初年以降に日本語で書かれた言葉）の全体像を把握するために構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese，以下，BCCWJ）を使用する．その理由は，次のようなものがある．

第一に，BCCWJ は，2015 年現在，日本語について入手可能な 1 億語以上（104,930,000 語）のデータを格納している最大規模の「均衡コーパス[57]」であり，多種多様なジャンルから，テキストを収集し形態論情報が付与されている．なお，各ジャンルの著作権処理に関してすべて実施されている点で安心して利用できる安全なコーパスでもある．

第二に，李・石川・砂川（2012）が述べているように，「BCCWJ の真価は様々な言語種別を幅広く収集している点にあり，メディア／ジャンルや期間を区別して言語種別ごとに検索を行うことにより，日本語の諸相をより詳細に観察することが可能（p.47）」である（表 3-1 に示す）.「せっかく」の構文は，文体によって用法に異なる傾向が見られたため，文体差・各ジャンルの質的な違いを考慮した記述に BCCWJ が適していると考えられる．

第三に，BCCWJ を通して本研究で議論しようとしている「『見越しの評価』を表す副詞」と従属節末に現れる接続形式（接続表現）との共起の現象を体系的に観察し分析することが期待できる．

なお，「コーパスとコーパス以外のデータとの突き合わせの必要性（後藤 2003）」を考慮し，BCCWJ の他，本研究で普段収集した例文を補助の用例として使用する[58].

前述のように，作例と実例（コーパス）の併用は，これまでにもさまざまな文法の特徴の研究でなされているが，日本語の副詞に特化した研究はまだ多いとは言えない．コーパスデータを使用して，日本語の動詞や名詞ではなく，副詞を研究するには困難な点もある[59].

---

[57] 後藤（2003）が指摘している通り，いくら「バランスのとれたコーパス」でも，「コーパスには必ず偏りが存在するのであり，『バランス』は完全な形では到達のしようがない」という欠点はある．しかし，「語句の用法や頻度は資料の種類によって異なる可能性があるが，そのような各種の資料における統計をどのように合算すれば日本語の“平均像”が得られると言えるのかはきわめて難しい問題である．特に根拠のないままにブレンドした資料を使うよりも，むしろ各種ごとの異同を見るという方法の方が正確な知見をもたらす可能性もある（p.55）」という田野村（2000）の指摘も重要である．

[58] 後藤（2003）は，「コーパスは，いかに大規模であっても，所詮は有限である．無限の母集団を有限のサンプルで代表させるのであるから，コーパスには必ず偏りが存在するのであり，『バランス』は完全な形では到達のしようがない（pp.6-15）」と述べている．

[59] 日本語の副詞は「語順が比較的自由なため，多少語順が乱れても完全に間違った文にはなりにくい」と野田（1983）が指摘しているように，対象となる副詞をコーパスで検索をかけても，

しかし，前述の藤村（2011）が示唆しているように，独創性を視野に入れた新しい記述研究を行なうために，本研究では，「せっかく」とそれ以外の副詞を分析する際に，従来の作例と用例収集を用いた方法に加えて，コーパスデータを用いた方法を使う．作例の文法性判断のみならず，収集した用例およびコーパスにおける実例（とりわけ，逸脱していると思われるもの）の文法性判断を複数の日本語母語話者に依頼し聞き取り調査で補っていく．「せっかく」以外に，これまでまだ十分に議論されていない「『見越しの評価』を表す副詞」を選定し，作例，コーパスデータ，さらに日本語母語話者（複数）への聞き取り調査を用いることと，文体差を考慮して記述することで，これまでの先行研究にない成果を上げることができると考えられる．

コーパス	サブコーパスと語数		書籍のジャンル例
ＢＣＣＷＪ	書籍（1971 年～2005 年）	62,670,000	総記
	雑誌（2001 年～2005 年）	4,440,000	哲学
	新聞（2001 年～2005 年）	1,370,000	歴史
	白書（1976 年～2005 年）	4,880,000	社会科学
	広報紙（2008 年）	3,760,000	自然科学
	法律（1976 年～2005 年）	1,080,000	技術
	国会会議録（1976 年～2005 年）	5,100,000	工学
	教科書（2005 年～2007 年）	930,000	産業
	韻文（1980 年～2005 年）	250,000	芸術・美術
	Yahoo! 知恵袋（2005 年）	1,026,0000	言語
	Yahoo! ブログ（2008 年）	1,019,0000	文学
		104,930,000	分類なし

国立国語研究所コーパス開発センター（http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/）**を参考に作成**

表３－１　BCCWJ のジャンルと語数早見表

その使用傾向がすぐには見えてこないという場合がある．近年，国立国語研究所コーパス開発センターによる「BCCWJ を用いた研究業績一覧」調査および同研究所が主催した「コーパス日本語学ワークショップ」で，副詞を取り扱う論文と研究発表の割合がまだ少ないのは，副詞の研究が遅れていることの反映であろう．

第４章　「せっかく」と「見越しの評価」

4.1. はじめに

第２章では，先行研究における三つの問題点を提示した．第一の問題点は，これまでの先行研究では「見越しの評価」に関する議論が不足している点である．第二の問題点は，この一群の副詞について広汎なデータがまだ集められていない点である．第三の問題点は，この一群の副詞の体系的な比較と，共通している中核的性質の解明の課題が残されている点である．上記の問題の解決に向けて，本章の構成は次の通りである．まず，4.2.節では，「『見越しの評価』を表す副詞」の代表格である「せっかく」に特化した先行研究を紹介し，上記の問題点との関係を整理する．次に，4.3.節と 4.4.節では，「せっかく」がどのような構文的特徴と意味的特徴を中心に議論されてきたのか，とりわけ重要な先行研究を交えて整理するとともに，コーパスデータを加えて，「『見越しの評価』を表す副詞」としての「せっかく」の中核的性質を考察する．最後に，4.5.節で本章をまとめる．なお，本章を第５章以降の他の副詞を選定する際の参考および他の副詞と平行的・体系的に分析するためのモデルとする．

4.2. 問題の所在

4.2.1. 「せっかく」の先行研究

「せっかく（折角）」は，その特殊かつ複雑な振る舞いのために，これまで多くの研究者の間で議論されてきた．初めの頃，「せっかく」という「表現」は日本人の論理構造（板坂 1971）の問題として捉えられていた．「せっかく」を副詞と見なし，話者の期待や評価，事態の価値や実現などに関する意味論的問題や，さらに「せっかく」が単文に現れにくいという構文論的問題について最初に言語学的研究で解決を試みたのが渡辺 (1980) である．その後，「せっかく」の文法現象に着目した研究が進められ，構文構造（石神 1982），意味用法の記述・分析（國廣 1982；森田 1989），叙法副詞としての「せっかく」と「さすが」の比較・対照（蓮沼 1987），実例に基づいた考察（小矢野 1997c；黄＝コウ 2010；蓮沼 2012，2014a），「どうせ」との比較（星野 2001），前提と従属節に生起する陳述副詞との関係（西 2005），外国語・韓国語との対照（呉＝オ 2003，2011）などの研究例がある．

また，日本語教育の現場を意識した研究に，「せっかく」の導入方法や「わざわざ」との違い（河原崎 1976），日本語学習者の誤用の背景（加藤 2001）を扱ったものがある．

さらに，さまざまなアプローチを用いた「せっかく」の分析もなされている．具体的には，語用論的考察（赤羽根 2002），認知言語学・参照点能力の理論を用いた分析（山本 2005），形式意味論の方法を用いた分析（McCready 2007），歴史的変化に注目した通時的研究（林＝イム 2012）などが挙げられる．最近では，会話分析の方法を使用し自然会話での副詞の語順を考察した研究（千々岩 2014）まで現れている．このように，「せっかく」はさまざまな問題意識とそれぞれの目的に合ったアプローチによって研究が行なわれてきた．

上記の先行研究の中，渡辺（1980）の他，特に小矢野（1997c）と蓮沼（2012，2014a）は本研究にとって重要である．小矢野（1997c）と蓮沼（2012）は，新聞，小説，コーパスデータから収集した実例に基づいて分析を試み，従来の先行研究で内省によって得られた結果と，実際の用例調査で得られた結果との違いを提示している．中でも，蓮沼（2014a）は，「せっかく」の「構文・意味に対する統制の現象」の全体像を実例の観察を通して網羅的に分析し，これまでの研究の集大成とも言うべき研究として多くの示唆に富んでいる．

4.2.2. 三つの問題点との関連

「せっかく」に特化した上述の先行研究においては，第２章で述べた，日本語副詞全般の先行研究の三つの問題点との関連でいくつかの問題が見られる．

まず一つ目に，前述のように，渡辺（1980）以降，これまでの先行研究では「見越しの評価」に関する議論が不足している．「せっかく」に議論が集中していることはその一因であると考えられる[60]．勿論，「せっかく」の意味・用法の特殊性を引き続き明らかにするのは重要な課題である．しかし，一群の副詞の体系の究明へと進むためには，「せっかく」とともに「基本的に複文で使用されるという構文上の制約」を有する他の副詞の選定と比較・対照も不可欠である．その際，「複文の構造を要求し従属節に現れる副詞」（「せっかく」）と，「複文の構造を必ずしも要求せず，単文のみでも出現可能な副詞」（「まさか」「せめて」「いっそう（のこと）」など）を明確に区別したうえで議論を進めていく必要があると考えられる．

[60] 第２章でも言及したが，「見越しの評価」は一般的に認識されず，管見の限り，渡辺（1980）以降「見越しの評価」に言及している先行研究は，加藤（2001），蓮沼（2014a），茶谷（2014），林（2013b，2014）と少ない．

二つ目に，作例から実例へのアプローチの変換を経て，個別の副詞としての「せっかく」の実例に基づいた議論がなされてきてはいるものの，「せっかく」に類似した特徴の副詞のデータが，「どうせ」（蓮沼 2014a）を除き，まだ集められていない．

三つ目に，この「見越しの評価」を表す副詞，もしくは「『せっかく』類の副詞」の一群に，「せっかく」以外に具体的にどのような副詞があるのかに関する見解にも不一致がある．具体的には，渡辺（1980）は「叙述内容（述語によってまとめられる対象的事態の内容）の知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼすことなく，叙述内容に対する話者の評価を表わす，という性質を持つ一群（p.32）」とし，「せっかく・まさか・いっそ・せめて」などを取り上げている．蓮沼（1987）は「外国語に翻訳しようとしても，対応する表現が見つけにくいばかりでなく，日本語の類義表現による言いかえによっても，そのニュアンスを正確に表わしえないような，複雑な用法をもつ一群（p.203）」とし，「せっかく」「さすが」を取り上げている．呉（2003）は「モダリティ副詞」の中で「話し手が発話以前に持っている前提との関係に基づく話し手の心的態度」を表し「前提的な知識を踏まえて用いられる特徴を持つ一群（p.1）」とし，「さすがに，やはり，せっかく，どうせ」を取り上げている．しかし，呉（2003）は「話者の心的態度」と「前提（的な知識）」を問題としているため，「さすがに，やはり，せっかく，どうせ」という四つの副詞の選定は，必ずしも複文構造を考慮に入れたものではない．西（2005）は 1）「話者の価値判断に基づく前提を持つ」， 2）「必ず従属節に生起し複文構造を展開する」， 3）「主節の内容（モダリティ）に制限を与える」とし，「せっかく」の他，「あまり＋肯定形」「いくら」「どんなに」「もし」を取り上げている．西（2005）は「前提」のみならず，「複文構造」ないし「主節の内容」も考慮に入れて「あまり＋肯定形」「いくら」「どんなに」「もし」を選定し分析したのは興味深いが，「既定条件」（蓮沼 2012，2014a）を要求する「せっかく」と「述語が假説条件を要するもの」（山田 1936）の例の一つである「もし」とは性質が異なっているのである．

「せっかく」に類似する性質を持つ副詞を選定するためには，まず「せっかく」の特徴を把握する必要がある．次節から，「せっかく」の重要な先行研究を交えつつ，BCCWJをはじめとするコーパスデータおよび本研究で採集した用例を加えて，その構文的特徴と意味的特徴を整理し．他の副詞を選定するための基準を設ける．

4.3. 「せっかく」の構文的特徴

4.3.1. 複文の構造

「せっかく」が用いられる構文では，基本的に次の形式をとる必要がある（渡辺 2001）.

せっかく P なのに Q でない

せっかく P だから Q しよう

（渡辺 2001：29）

（1） a. *せっかくパリまで来ました.

b. *せっかく雨が止んだ.

（以上，渡辺 2001：31 における例文．例文判断も渡辺 2001 による）

（2） a. せっかくパリまで来たのに，ルーヴルを見ずに帰るなんて残念だ.

（渡辺 2001：24）

b. せっかく雨が止んだのだから，今からでも出かけようよ.

（渡辺 2001：27）

この二種類の形式を観察すると分かるように，文の中に，前件 P と後件 Q という二つの命題が含まれ，「せっかく P」のみ（例文 1a-b）に比べると，P と Q の二つの命題は，「（な）のに…（で）ない」や「（だ）から…しよう」によって「見越す P―見越される Q」という前件と後件の論理関係が明確になっている（例文 2a-b）.

上述の形式は，いずれも単文ではなく，「従属節―主節」という構造を持つ複文の形式である．現代日本語では[61]，次の例文（3a-b）のように後件 Q が省略された場合はあっても，「せっかく」は単文のみでは用いられず（例文 4a-b），複文の構造に用いられる（例文 4c-d）というこの制限は，これまでの先行研究で議論されてきた.

[61] 渡辺（1980）によれば，近世の日本語に，例えば，「せっかく習へ．」「せっかく勉強するように．」といった「せっかく…せよ」の形はあるが，古体として扱ってよい．一方，現代日本語に関しては「事態 A のみを伝える表現に『せっかく』を冠する文は，あり得ない（p.35）」としている．また，小矢野（1997c）も，例えば「折角丹誠してくれやて，云ったら何んでも眼をうるましたようだった」のような例文を「旧用法」と呼んでいる.

(3) a. せっかく切符を手に入れたのだから……

b. せっかく大学に入ったのに……

（渡辺 1980：29）

(4) a. *せっかくここまで来た.

b. *せっかく花が咲いた.

c. せっかくここまで来たのだから，二三日泊ってお行き.

d. せっかく花が咲いたのに，一晩で散ってしまった.

（以上，渡辺 2001：34-35 における例文．例文判断も渡辺 2001 による）

「せっかく」は単文のみでは用いられない，あるいは，用いられにくい理由をもう少し突き詰めて考えると，「せっかく」の（見越しの）「評価の当面の対象」は，前件 P（事態 A）だけではなく，後件 Q（事態 B）までが（見越しの）評価の対象となっているからであろう．上記例文（3a,b）と（4a,b）の違いも，後件 Q（事態 B）の有無にある．例文（4a,b）では「ここまで来た」「花が咲いた」といった前件 P（事態 A）のみ述べられ，言い切りの形になっている．後件 Q（事態 B）が言語化されていないうえに，「のに」や「のだから」のような接続表現も伴わず，後件 Q（事態 B）が読み取れないのである．結果的に評価の対象が欠落しているため，非文となる．「事態『B（$\bar{B}$）だ』が表現される段階をまって，はじめて文中での落付きを得る（渡辺 1980：35）」のである．

それに対して，「確かに」「あいにく」「もちろん」「珍（ら）しく」などの副詞（または「注釈・批評の誘導表現（渡辺 1980：35）」）の場合，「話し手の心的態度」は表しているものの，「見越しの評価」を表さず，「事態 B（$\bar{B}$）だ」がなくても安定している（例文 5a-b）．そのため，単文のみに生起することができる．しかし，「せっかく」の場合はそう簡単にはいかず，「評価の当面の対象」は「事態 B（$\bar{B}$）だ」までとなっているため，複文の構造が必須条件となる．

(5) a. 確かに彼が犯人だ.

b. あいにく今日は持ち合わせがない.

（渡辺 1980：35）

ただし，複文の構造を要求するとはいえ，「せっかく」は従属節にのみ生起可能で，主節には生起することができない（例文 6a,b）[62].

（6） a. *彼が帰ったのだから，あとはせっかく我々で思う存分楽しくやろうよ.
b. *桜の花が咲いたのに，せっかく一晩で散ってしまった.

（蓮沼 1987：205 より改変）

これに関しては，「見越す P—見越される Q」の「見越し先」の順序が互換不可という観点で解釈できる.

ところが，日常言語では，「見越される Q」が言語化されず，一見単文のような例文もしばしば観察される．渡辺（1980）は，事態 B（後件 Q）が省略される現象（例文 7a-c）や，事態 A（前件 P）の述部（統叙成分）が「せっかくの」に「とり込み」や「吸収」されるという「圧縮表現」（例文 8b,d），さらに，「せっかく」が「次第次第にパートナーを併呑して行く（p.39）」という現象（例文 9a-c）があるとしている.

（7） a. せっかくここまで来たのだから.....
b. せっかく彼に投票したのに.....
c. せっかく天気になったのに.....

（8） a. せっかくチャンスに恵まれたのだから利用しようよ.
b. せっかくのチャンスを利用しようよ.
c. せっかく花が咲いたのに散ってしまった.
d. せっかくの花が散ってしまった.

[62] 玉岡（2006）は，「何しろ」「何せ」「せっかく」「現に」「どうせ」「実際」「本当に」という 7 つの副詞が，「から」「ので」「のに」という 3 種類の接続助詞と共起する場合，接続助詞が文中に来る（文中用法）か文末に来る（文末用法）か，それぞれの共起頻度について，『新潮文庫の 100 冊』のデータを解析対象とし，SPSS 社の AnswerTree3.0J による「決定木」を描く統計手法で，複数の変数からなる共起頻度データを構造的に分析している．その結果，「から」と「せっかく」の共起（「せっかく…から」）は，文中では多い（67 回のうち 61 回）のに対して，文末では少ない（67 回のうち 6 回）という結果を示している．玉岡（2006）の研究は，自然会話を調査対象にしたものではないが，「せっかく…から」のような副詞と接続助詞が共起している用法が，基本的に文中に現れる（文中用法，すなわち従属節としての用法）ということを再確認し，また，副詞を含む従属節と主節の倒置現象について考える時の一つの参考になる.

(9) a. せっかくだから引き受けよう.

b. せっかくだが辞退しよう.

c. せっかくだったねえ.

（以上，例文 7-9，渡辺 1980：34-39 より引用．例文番号と下線は本研究による）

渡辺（1980）は，「せっかく」の各用法間に派生関係があるとし，以下のように，「せっかく習へ.」といった古体の用法（⓪用法）から，典型的用法（①②の用法），圧縮用法（③④の用法），さらには吸収・とり込みを徹底した圧縮用法（⑤⑥⑦の用法）まで，７種類があると分析している[63].

⓪ せっかく [A：価値アル事態] →勧誘

① せっかく [A：（上ニ同ジ）] ＋ [B：Aニ随伴シテ期待（未実現）サレル事態]
→意志・希望・命令・勧誘 etc.

② せっかく [A：（上ニ同ジ）] ＋ [B：（上ニ同ジ）] × 否定（未確定デモ確定デモ）
→惜しみ・恨み etc.

③ せっかくの [a：価値アル事態ノA一項] ＋ [B：（上ニ同ジ）]
→意志・希望・命令・勧誘

④ せっかくの [a：（上ニ同ジ）] ＋ [B：（上ニ同ジ）] × 否定（②ノ場合ニ同ジ）
→惜しみ・恨み

⑤ [せっかくだ（Aソノモノヲ含ム）] ＋ [B：（上ニ同ジ）]
→意志・勧誘

[63] 古体の用法（⓪用法）を入れると８種類である.

⑥　せっかくだ（⑤ノ場合ニ同ジ）　＋　B：（上ニ同ジ）　× 否定（未確定）

→謝意

⑦　せっかくだ（A＋B×確定的否定　ノスベテヲ含ム）　→同情

（渡辺 1980：38-39 より引用．縦書きを横書きに，原文の「右ニ同ジ」を「上ニ同ジ」に改変）

「典型的用法」（①②の用法）から「圧縮用法」（③④の用法），さらには吸収・とり込みを徹底した⑤⑥⑦の用法まで，いずれも複文の構造を要求している．

一方，蓮沼（1987）は，「せっかく」の用法をよりシンプルに，「順接用法」，「逆接用法」，「圧縮用法」という三つに分けている．その詳細は次の通りである．

（順接用法）　セッカク P ｛ノダカラ／（ノ）ナラ／ノ／コトダシ etc.｝ Q

（逆接用法）　セッカク P ｛ケレドモ／ガ／ノニ／テモ etc.｝ Q

（圧縮用法）[64]

i　　せっかく　連体句＋N＋助詞　Q

ii　　せっかくの　　N　＋　助詞　Q

iii　　せっかくだ／ですから　Q

iv　　せっかくだ／ですが・けれども　Q

（以上，蓮沼 1987：208-211 より引用）

[64] 蓮沼（1987）の「圧縮用法」は，渡辺（1980）の「圧縮表現」に基づいた分類である．なお，「圧縮用法（i，ii の一部および iii）」は，「順接用法」に復元することができ，「圧縮用法（i，ii の一部および iv）」は，「逆接用法」に復元することができる．

小矢野（1997c）は，「せっかく」の構文的環境をまとめ，「連体的なつきそい・あわせ文に使用されるばあい」と「連用的なつきそい・あわせ文に使用されるばあい」とがあり，それぞれ「うらめ（逆接）の関係が読みとれるもの」「まさめ（順接）の関係が読みとれるもの」「うらめ・まさめ両方に解釈できるもの」とがあると区別している．「連用的なつきそい・あわせ文に使用されるばあい」うち，「圧縮表現」の例がある．ただし，この「圧縮表現」は小矢野（1997c）によれば，「『せっかくの』の形をとる規定語になるばあい」を除く．したがって，小矢野（1997c）で言う「圧縮表現」は，蓮沼（1987）の「圧縮用法」のⅰ，ⅲ，ⅳに当て嵌まる．

蓮沼（1987）と小矢野（1997c）の分類は，ところどころ異なる部分もあるが，「せっかく」が「複文の構造」を要求しているという原則が明示され，基本的には「順接」「逆接」「圧縮」という三つの用法があることが確認できた．

4.3.2. 接続の形式

前節で見てきたように，「せっかく」は複文の構造を要求し，「順接用法」「逆接用法」の場合，従属節末に現れる「(の) だから」「のに」との共起が多く観察される[65]．順接を表す「(の) だから」や逆接を表す「のに」の他にも，さまざまな接続の形式が観察・確認されている[66]．小矢野（1997c）と蓮沼（2012，2014a）の調査では，次のようなものがある．

---

[65] 小矢野（1997c）は，新聞，小説から，実例合計 458 例のうち，連体的なつきそい・あわせ文での使用例が 143 例（31.2%），連用的なつきそい・あわせ文での使用例が 315 例（68.8%）と考察している．また，458 例のうち，うらめ（逆接）の関係が読みとれる例が 298 例（65.1%）で最も多く，そのうち 100 例が「のに」と共起している．まさめ（順接）の関係が読みとれる例が 151 例（33.0%）であり，そのうち，「のだから」が 62 例，「のだからと」が 8 例，「から」が 3 例，「ので」が 2 例である．うらめ，まさめ両方の解釈ができる例が 6 例（1.3%），旧用法（折角＋命令・働きかけの用法）が 3 例（0.7%）であった．一方，蓮沼（2012）は，書き言葉コーパスから 1,456 例を選定し考察している．その結果，「せっかく」の連用用法において最も多いのは順接関係を表わす「のだから」との共起（原因・理由節を含めて 243 例）であり，共起関係が顕著である．逆接関係を表す「のに」との共起はその次に多かった（229 例）．

[66] 「せっかく」の基本文型の種類を，グループ・ジャマシイ（1998）で確認することができる．

1　せっかく…からには　（「せっかく X からには Y」）
2　せっかく…けれども　（「せっかく X けれども Y」「せっかく X が Y」）
3　せっかく…のだから　（「せっかく X（の）だから Y」）
4　せっかく…のだったら　（「せっかく X のだったら Y」「せっかく X（の）なら Y」）
5　せっかく…のに／…ても　（「せっかく X のに Y」「せっかく X ても Y」）
6　せっかくの N
7　せっかく＋連体修飾句＋N
8　せっかくですが（せっかくだけど）
9　せっかくですから　（グループ・ジャマシイ 1998：158-160 に基づいて整理）

順接用法：

「のだから」「V から」「N だから」「わけだから」「ことだから」
「ところだから」「ものだから」「ようだから」「みたいだから」
「ばかりだから」
「V ので」「N なので」「わけなので」「ことなので」「ところなので」
「のだし」「N だし」「わけだし」「ことだし」「ところだし」「ようだし」
「からには」「ことゆえ」「以上」「手前」「て（理由）」中止形
方言（「けん」「き」）

逆接用法：

「のに」「にもかかわらず」「ながら」「が」「て」
「のだが」「のが」「のを」「ものを」「ものの」
「（の）だけど・けれども・けれど・けど」「にもかかわらず」
「と思ったら」「とはいえ」「とは裏腹に」「に」「するにはしたが」
「からといって」中止形

条件表現：

「V るなら（ば）」「V るのなら（ば）」「V るのだったら」
「V るのであれば」「V たのであれば」「V たなら」「V たのなら」
「N なら」「N なのだったら」
「V たら」「V ば」「V と」
「V ても」「N でも」「V たところで・ところに・ところが」「たって」

その他：

「ところ」「ところに」「ところが」「ところへ」「ついでに」
「ときに」「あとで」
「くせに」「（した）まま」

（以上，小矢野 1997c；蓮沼 2012，2014a を基に整理）

ただし，上記の形式の中には，「ても・でも」「(の) なら」を除き，「せっかく」と共起する用例が少なく，僅か 1 例のみのものも含まれている．

特記すべきは，「順接用法」「逆接用法」と性質が異なる「ても・でも」「(の) なら」の「条件表現」の類である．第 3 章でも紹介したように，「せっかく」と「ても」「(の) なら」との共起（または「ても」「(の) なら」節での「せっかく」の使用）は，渡辺（2001）では「おかしな日本語」とされている．これに対し，「せっかく」が「ても」「(の) なら」類の条件節に使用可能か否かについて，蓮沼 (2012) は共起頻度も含めて調査した結果，1456 件のうち，逆条件（「ても・でも」）は 96 例であり，既定条件節（「(の) なら」類の節）は 37 例のように，少ないながらも，一定の共起関係が観察された．一方で，仮定条件節の「たら・ば・と」は 4 例で最も少なかった[67].

ここまで，「せっかく」の接続の形式を見てきたが，「順接用法」「逆接用法」という基本的な用法の他，実際の用例では，さまざまな「圧縮用法」や，条件節における用法も存在しているということが確認できた．ただし，「せっかく」の条件節における用法は，決して仮定条件ではなく，「既定性[68]」を要求するものであり，つまり「既定条件」である．これに関しては，4.4.3.節で後述する．

4.3.3. 「圧縮用法」から「破格用法」へ

4.3.1.節で述べたように，「せっかく」の「従属節—主節」の複文の構造が，しばしば，述部（前件 P）が圧縮され（渡辺 1980 ; 蓮沼 1987），連体修飾節の形をとり，「圧縮用法」になる場合がある（例文 10a,b）[69].

---

[67] 「たら・ば・と」節での使用が観察された「国会会議録」の例文について，蓮沼（2012）は「十分な推敲を経ずに書いた文章や，複雑な内容を考えながら話すような場合に生じた逸脱性をもつ表現（p.28）」と定義している．

[68] ここでいう「既定性」は，一般的に言う「anaphoricity」ではなく，蓮沼（2012）における「既定性（settledness）」のことである．「既定性（settledness）」は，有田（2007）による概念で，「命題の真偽が定まっている」という意味で使われている．本研究では，蓮沼 (2012) に基づき，「事態の真偽が定まっていると話し手に把握されているような事態」を「既定性」を持つ事態として捉える．

[69] 蓮沼（2014a）によれば，「せっかく」は連体節において［せっかく P スル／シタ＋N＋助詞＋Q］という型の構文で使用され，この場合，P と Q の接続関係には，順接的，逆接的，両義的の 3 通りの解釈が可能である．また，［せっかくの＋N］という型の「規定語」の用法の場合，上記連体節と同様に，順接的，逆接的，両義的の解釈が可能である（小矢野 1997c）．なお，「連体節と規定語で『せっかく』が使用される場合は，逆接的な解釈に大きく傾斜する（p.456）」「順接的に解釈される例」は「比較的珍しい例（p.457）」であり「いずれも Q に

（10）a. せっかく大事にしている野菜を枯らしてしまうものもあるくらいです.

（芥川龍之介『不思議な島』ちくま文庫／青空文庫）

b. せっかく泡立てたメレンゲをつぶさないように. （読売新聞 2013 年 7 月 4 日）

「圧縮用法」では，接続の形式が現れない代わりに，助詞「を」（例文 10a,b）を境に，前件 P と後件 Q の間の意味的対応関係が示されている.

上記の「圧縮用法」とやや異なるのは，例文（11a,b）のような例である．例文（11a,b）は一旦前件 P を表す「体言止めの文」で止まっているように見える. このような書き方は，新聞で大量に観察される.

（11）a. 同市産業振興課商工観光班は「せっかく作っていただいたキャラクター. キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい」としている.

（読売新聞 2014 年 5 月 4 日）

b. レノボ・ジャパンは，今後もさまざまな業界・企業と協業して，「PC+」でタブレット端末の利用提案に力を注いでいくという. せっかく手に入れたタブレット端末. ぜひともフル活用してほしい. （読売新聞 2014 年 4 月 28 日）

上記の例文は，接続助詞「のに」「(の) だから」や他の接続の形式も現れていないし，例文（10a,b）のように助詞も現れていない．その代わりに，句点（11a,b）を境に，前件 P と後件 Q の間の意味的対応関係が示されている．「順接用法」「逆接用法」「圧縮用法」に比べ，ある種の破格的な用法（以下，「破格用法」と略す）であると言える.

こういった「破格用法」は，「圧縮用法」と同様に，「従属節—主節」という複文の構造に復元することができる．すなわち，連体句を取り入れた［せっかく＋動詞＋N だ］の型をとる構文（例文 10’－ 11’）と，連用句である［せっかく＋N＋動詞］の型をとる構文（例文 10”－ 11”）の両方に変えられる.

は，希望，意志，勧誘，提案，依頼，当為など，未実現の事態の実現を期待・要求するタイプの表現が用いられる（p.457）」．連用修飾節（連用節）に関しては，蓮沼（2014a：444-445）を参照されたい.

（10’）a. せっかく大事にしている野菜なのに，枯らしてしまうものもあるくらいです.

b. せっかく泡立てたメレンゲだから，つぶさないように.

（11’）a. せっかく作っていただいたキャラクターだから，キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい.

b. せっかく手に入れたタブレット端末だから，ぜひともフル活用してほしい.

（10”）a. 野菜をせっかく大事にしているのに，枯らしてしまうものもあるくらいです.

b. せっかくメレンゲを泡立てたのだから，つぶさないように.

（11”）a. せっかくキャラクターを作っていただいたのだから，キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい.

b. せっかくタブレット端末を手に入れたのだから, ぜひともフル活用してほしい.

（以上，例文 10-11 より改変）

例文（11a,b）のように，蓮沼（1987）の分類でいうところの「圧縮用法 i （せっかく連体句＋N＋助詞 Q)」の形と異なり，接続助詞を含む接続の形式と共起せず，さらに助詞も伴わず, 途中で一旦前件 P を表す「体言止めの文」で止まっているように見える用法を，林（2014：304）では「見せかけの単文」と呼んだ．この種の「単文」は，途切れているように見えるが,「キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい」や「フル活用してほしい」などといった見越された後件 Q の命題内容を表す文が続いていなければ，もしくは例文（13a, b）のように「のだから」「のに」との共起で，後続の内容が読み取れる形でなければ，意味も文脈も不完全になり，不自然な文（例文 12a, b）ないしは非文（例文 12c, d）になる.

（12） a. ??せっかく作っていただいたキャラクター.

b. ??せっかく手に入れたタブレット端末.

c. *せっかくキャラクターを作った.

d. *せっかくタブレット端末を手に入れた. （例文 11 より改変）

（13） a. せっかく切符を手に入れたのだから……

b. せっかく大学に入ったのに…… （例文 3a, b の再掲）

なお，蓮沼（2014a：452-453）では例文（11a,b）のような用法を「単文」（接続形式を伴わない単文）と呼んでいるが，渡辺（1980）が指摘した本当の意味での「単文」（例文 14a,b）と異なっている．「単文」を質的に区別するために，本研究では，ある種の「見せかけの単文」（林 2014）と見なし，このような用法を「圧縮用法」の派生的用法としての「破格用法」と位置づけることにする[70].

（14） a. *せっかくここまで来た.

b. *せっかく花が咲いた. （例文 4a, b の再掲）

以上 4.3.1.節から見てきたように，「せっかく」は「従属節－主節」という複文の構造を要求し，さまざまな接続の形式を伴うが（「順接用法」「逆接用法」），複文の構造が文体によって，しばしば連体修飾節の構造に圧縮され（「圧縮用法」），さらに「見せかけの単文」（「破格用法」）になる場合がある．構文の型が変わっても，決して一般的に言う単文にはならず，前件 P と見越された後件 Q を表す内容が続いたり，読み取れたりする形でなければならない．このような構文的特徴の制限は，「見越しの評価」の意味的特徴の反映であると考えられる．

次節では，意味的特徴の議論に入り，まず，前件 P の述語修飾の制限を整理してから，「既定性」の要求と「見越しの評価」の関連を述べ，最後に前件 P が表す「価値」と前件 P と後件 Q が表す「評価」を見ていく．

---

[70] 本研究で言う「体言止めの文」以外の単文（例えば，「せっかく行ったんでしょう？」）の用例は，蓮沼（2014a）で確認されている．蓮沼（2014a）では「単文」と呼んでいるが，次のような解説がなされている．「P が接続形式を伴わず，『せっかく ～ノダ／コトダ．』などの形で，一旦文が終止し，その後に Q に該当する別の文が続（p.431）」き，「単文で終わっていても，後続の文（倒置された場合は前文）との間に，複文に準じた関係を読み取ることができるもの（p.452）」である．また，「このタイプの用法は，P と Q が接続形式で結ばれた『連用節』に準じて扱うことが可能（p.431）」である．「『ノダ』『コトダ』『ワケダ』など，名詞述語相当の形態をとるものと，『ノダモノ』『ノジャナイカ』『ノダロウ』というモダリティ形式で文が終止しているもの（p.453）」が用いられる例が観察される．本研究では，上記の「単文」の用法を一般的に言う単文と本質的に異なっていると考えているため，「体言止めの文」も含めて，「見せかけの単文」と呼び，「破格用法」として位置づけることにした．

4.4. 「せっかく」の意味的特徴

4.4.1. 述語修飾の制限

森田（1989）によれば,「せっかく」には「名詞に係る言い方[71]」（例文 15),「断定『だ』を続ける名詞的用法」（例文 16a,b),「動詞の続く言い方」（例文 17a-c）があり，そして，僅かながら「形容動詞の続く言い方」（18a）や,「形容詞を伴う言い方」（18b）もある.

（15） せっかくの努力／好意／親切／機会／苦心…

（16）a. せっかくだから一杯いただきましょう.

b. せっかくだが，お断りする.

（17）a. せっかく行くのだから……

b. せっかく行くのに……

c. せっかく行くというのに……

（18）a. せっかく静かなのに……

b. せっかく美しいのに……

（以上，森田 1989：585 より引用．例文番号と下線は本研究による）

一方，飛田・浅田（1994）によると,「せっかく」には,「名詞にかかる修飾語の用法」（例文 19a, b）と,「動作にかかる修飾語の用法」（例文 20a, b）がある．森田（1989）にあった「形容動詞」や「形容詞」（18a, b）にかかる修飾語の用法（言い換えると,「状態にかかる修飾語の用法」）は言及されていない.

（19）a. 泣いたりしたらせっかくの美貌がだいなしだよ.

b. 話に夢中になっていたら，せっかくの手料理がすっかり冷めてしまった.

[71] 小矢野（1997a）および蓮沼（2014a）は，「せっかく」と「せっかくの」の用法を区別し，後者の「せっかくの」を単文に使用される「規定語」（連体修飾語）として分析しているが，本研究では副詞としての「せっかく」と複文の構造の関係に重点を置いているため，「規定語」としての「せっかくの」の用法に関しては別課題とする.

（20）a. 彼はせっかく冷房をきかせてあった部屋のドアを開けっぱなしにして出ていった.

b. せっかく来てもらったのに出かけてて悪かったね.

（以上，飛田・浅田 1994：214 より引用．例文番号と下線は本研究による）

渡辺（2001）で確認すると，「せっかく」の前件 P は「人間の意志にもとづく行為で，『苦労して・面倒をおかけして』という『せっかく』の目立つ意義とよくなじむ（p.36）」という記述が見られる．そのため，「せっかく」が修飾するのは動作動詞すなわち「動作性述語」が基本であるということが分かる．下記例文（21b,c）（22a,b）の中に「得意（の）」（21b），「高い」（21c），「楽しい」（22b）などさまざまな修飾成分が入っているものの，「せっかく」が修飾しているのはあくまで動作動詞・動作性述語である．

（21）a. せっかく行ったのに留守だった. （渡辺 1980：32）

b. せっかく得意の料理を作ったのに，彼は食べずに帰ってしまった.

（渡辺 2001：34）

c. せっかく高いお金で作った晴着が…… （渡辺 2001：41）

（22）a. 今年の秋冬はせっかくきれいにしたカーテンをカビさせないよう，いろんな工夫を今から考えておいてくださいね！ （読売新聞 2013 年 3 月 7 日）

b. せっかく楽しいランニングをしても，けがをしたら何にもなりません.

（読売新聞 2014 年 2 月 19 日）

一方，「せっかく」が動作動詞・動作性述語以外のものを修飾できるかどうかについて，コーパスデータを含む実例に基づいて「せっかく」の従属節の述語の部分を観察すると，次のように，形容詞のみ（23a, b），さらには名詞のみ（24）などの「状態性述語」も少なからず確認された[72].

[72] 黄（2010）も，「副詞『せっかく』の P に位置するものの多くは，人間の行為またはその結果を内容とするものであるが，形容詞が立つこともまれに見られる」と指摘している.

（23）a. せっかく高いのに宝の持ち腐れ状態になります.

（mini4wd.jp/36717/diary/2010031122474431024，黄 2010 より引用）

b. 今日は暑かったですね. せっかく暑いのですから, 存分に夏を楽しみたいですね.

（シーニックバイウェイ北海道 Facebook ページ）

（24）　せっかくクリスマスなのでショーなんかを見るのも良いと思います.

（BCCWJ／Yahoo!知恵袋，蓮沼 2014a：435 より引用）

例文（23a,b）と（24）は，いずれも動作性述語ではない．例文（23a）の「高い」は，販売店（第三者）による価格設定であって，話し手（書き手）自身による意志的行為ではないものの，人為的である．それに対して，例文（23b）の「暑い」は自然現象であり，話し手の意志で天気が変わったわけではない．「高い」「暑い」はいずれも意志的行為ではないが, 話し手個人が思っている「高い」「暑い」状態である. 傍から見たら全然高くなく，あるいはそれほど暑くないという可能性もある．しかし，話し手個人によって価値があると評価された事態なのである．また，後件 Q の「宝の持ち腐れ」（例文 23a），「存分に夏を楽しみたい」（例文 23b）も前件 P に対応して「期待」や「期待どおりに行かないことへの惜しみ（渡辺 2001：35)」を表しているため，それぞれ自然な文となっている．例文（24）の「クリスマス」に関しては，慣習的なものであって，話し手個人の意志に関わるものではない．しかし，「クリスマス」は年に一回だけであり，例文（23a,b）と同様に，意志的行為でなくても，価値があると評価された事態である．後件 Q の「ショーなんかを見るのもよい」という提案と組み合わせて「見越しの評価」が行なわれている.

渡辺（2001）は,「自然現象」の非文を次のように挙げている（例文 25a,b）.

（25）a. *せっかく雨が止んでも，出かけないだろう.

b. *せっかく雨が止むなら，やはり出発しようか.

例文（25a-b）が非文になっているのは，渡辺（2001：36-37）によれば,「自然現象」について述べているからという理由のみならず,「なら」「ても」など未実現や実現不確実な「仮定表現」を用いているからという理由がある．これについては次節で述べる.

4.4.2. 「既定性」の要求

渡辺（2001）によれば，「思い通り『Q』にならないために『P』の価値が中途半端に終るのか，という思いが『せっかく』(p.35)」であり，そのため，「『P』そのものは，既に実現しているか，少なくとも実現が話(し)手によって確実視されているのが普通（中略）つまり『P』を実現不確実な扱いで言えば，おかしな日本語になる（p.35)」（例文 26-27）のである．

（26） a. *せっかく訪ねて行っても留守だろうよ．
b. *せっかく訪ねて行くならいい返事をもらって帰るように．

（27） a. *せっかく雨が止んでも，出かけないだろう．
b. *せっかく雨が止むなら，やはり出発しようか．

（以上，渡辺 2001：35-36 より引用．例文判断も渡辺 2001 による）

命題 P が「既に実現しているか，少なくとも実現が話し手によって確実視されている」という渡辺（2001）の指摘は，「見越しの評価」の定義を考えるにあたって重要である．

ところが，4.3.2.節で見てきたように，実際には，「せっかく」は「なら」「ても」と共起し得るのである．

この問題に関して，黄（2010）と蓮沼（2012，2014a）はそれぞれ内省ではなく，小説やコーパスにおける実例を通して調査した結果，「せっかく」が「ても」「(の）なら」などといった条件表現と共起する（より厳密に言えば「せっかく」が「ても」節や「(の）なら」節で使用される）ということが明らかになった．

「ても」「(の）なら」と共起するか否かに関して，黄（2010）と蓮沼（2012，2014a）は，具体的な表現形式の点では渡辺（2001）の主張と不一致が見られるものの，「せっかく」の命題 P が「既に実現しているか，少なくとも実現が話し手によって確実視されている」という意味的な点に関しては，認識が一致している．

以下,「せっかく」の「既定性」をめぐる蓮沼（2012）の見解を見ていく．蓮沼（2012）によると,「せっかく」が「ても」「(の）なら」節に現れる場合，いくつかの制限がある[73].

まず,「ても・でも」節（以下,「ても」節[74]）に「せっかく」が使用される場合を見てみよう.「ても」節は，確定した事態（既定条件）にも未確定事態（仮説条件）[75]にも使われる．しかしながら,「ても」節に「たとえ」が使用されている（例文 28a）ような場合と異なり,「ても」節に「せっかく」が使用されるのは,「現実的な状況を条件として提示しているケース（蓮沼 2012：34)」である[76]．つまり例文（28a）と違って,（28b）のような場合，命題は「現実的な状況」であり,「既定的」と見なしたほうが適切である.

（28） a. たとえ努力しても，合格は無理かもしれない. **（仮説条件）**

b. せっかく努力しても，合格は無理かもしれない. **（既定条件）**

（蓮沼 2012：34）

その裏づけとして，仮定的意味を表す「たとえ」と,「『たとえ』のもつ『仮定性』の意味や，帰結を導く条件としての可能性の低さをさらに強調する働き（蓮沼 2012：34)」をもつ「どんなに」は併用可能（例文 29a）であるのに対して,「せっかく」の場合は併用が不可である（例文 29b).

---

[73] 黄（2010）も，同じ問題に対して，次の例文（ア a, b）を通して分析している.

（ア） a.「おれも，あすこなら見込みがあると思うよ．でも，せっかく掘り出しても，後家さんに取りあげられるんじゃないかね．あの土地は後家さんのものなんだから.」
（マーク・トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』，黄 2010：47 における例文）

b.「事件があんまり明白だから，せっかく行っても君の名声を高める余地なんか，ありそうもないぜ.」
（アーサー・コナン・ドイル『ボヘミアの』，黄 2010：47 における例文）

黄（2010）の分析では，例文（ア a, b）の「掘り出す」「行く」は，それぞれ「掘り出したと仮定したら，その結果は取りあげられる（p.47)」「行ったと仮定しても，その行為は利益を齎すことはないと推論（p.47)」というふうに,「P」を「仮定の行為結果」としているが，同時に,「P」が「コントロールできるようなものでなければならない（中略）あまりにも不確定性が強すぎると無理がある（pp.47-48)」としている．この「不確定性が強すぎると無理がある」という指摘は重要である.

[74] 前田（2009）および蓮沼（2012）によれば，「ても」節には，次のように 4 種類がある.
1）「既定条件」の「ても」，2）「事実条件」の「ても」，3）「一般条件」の「ても」，4）「反復・習慣」の「ても」がある.

[75] 「たとえ…ても」「もし…（の）なら」のような場合，「仮説条件」である.

[76] 「仮定性」が「限りなく希薄化した場合（蓮沼 2012：34）」でもある.

(29) a. たとえどんなに努力しても，合格は無理かもしれない.

b. *せっかくどんなに努力しても，合格は無理かもしれない.

（蓮沼 2012：34）

また，逆条件の「ても」を逆接の「ところで」などに置き換えることができるものの，「せっかく」の前件の命題の「既定性」の要求は変わらず（例文 30b），仮定や不可能となじむ「どんなに」と組み合わせると矛盾が生じる（例文 31b）.

(30) a. たとえ努力したところで，合格は無理かもしれない. **（仮説条件）**

b. せっかく努力したところで，合格は無理かもしれない. **（既定条件）**

（蓮沼 2012：34 より改変）

(31) a. たとえどんなに努力したところで，合格は無理かもしれない. **（仮説条件）**

b. *せっかくどんなに努力したところで，合格は無理かもしれない. **（仮説条件）**

（蓮沼 2012：34 より改変）

したがって，「せっかく」の使用を可能にする条件として最も関与的なのは，従属節末の接続表現がどのような形式であるかというよりも，節の命題の意味が「既定性」を持っているか否かであると言える．その裏づけとして，例文（32）が示すように，完全なる仮定条件を表すとされる「たら」「ば」と共起することができないという事実が挙げられる.

(32) せっかくパリに｛*行ったら ／ *行けば ／ 行く（の）なら｝ルーブル美術館を見たほうがいいよ. （蓮沼 2012：19）

次に，「せっかくパリに行く（の）なら」が成立するのは，当該の事態を蓮沼（2012）が指摘しているように，「仮定（条件）」ではなく，「既定（条件）」（パリに行くことが決まった，つまり「P が定まった予定を表す場合（蓮沼 2014a：443）」である[77].

[77] 「せっかく」が使用される条件節が「と・ば・たら」ではなく，「（の）なら」に限られている理由については，蓮沼（2014a）によれば，「P に潜在的価値を認め，その価値を実現す

このように，渡辺（2001）が「『P』が未実現であったり実現不確実であったりすれば，惜しみの情は高まりません．『せっかく』は，仮定表現となじまないのです（p36）」と述べたように，前件 P が「既定条件」だからこそ，より確実に後件 Q を見越すことができ，前件 P の評価だけではなく，後件 Q への「見越しの評価」そのものを行なうことができるのである．

4.4.3. 「価値」と「評価」

「せっかく」が表す中核的な意味的特徴について考える時，「価値」が重要な概念の一つである．

従来の先行研究によれば，「せっかく」には「（話し手側の）自己犠牲，献身，思いやりといったニュアンスと（聞き手側が感じ取るかもしれない）甘え，身勝手，自己合理化といった態度」（石神 1982），「同情」（浅野 1992），「慨嘆や反省」（飛田・浅田 1994）などを表す場合もあるが，いずれも文脈の違いによって生じる含意の問題であり，それもまた「せっかく」が表す「価値」の反映の結果と見ることができる．

渡辺（1980，2001）の定義によれば，「せっかく」は話者の「見越しの評価」を表し，「話（し）手にとって価値のある P が実現し，それに伴って実現して P の価値を完全なものにすることの期待される Q を，P の延長線上に見越す言葉（渡辺 2001：32）」であり，「それ自身が話（し）手にとって価値のある P が実現しているのに，それに伴って実現して P の価値を完全なものにすることの期待される Q が，まだ実現せず，あるいはついに実現せずじまいとなり，P の価値が不完全に終ることへの，惜しみの気持（渡辺 2001：34）」を表すのである．

「価値のある P」と「期待される Q」の事態の関係について，例文（33a-b）が示すように，後件が過去の「期待通り」に「実現済み」の事態だと，すべて非文であるのに対して，後件が「『未実現』の事態」でこれから「『実現が期待される』事態」（34a），または期待通りにはいかず「『ついに実現せずじまい』の事態」（34b）に戻せば自然な文になる．

るために取るべき適切な行動や判断 Q を述べる（p.443）」といった P（目的）と Q（その価値を充実させるための手段）の関係づけに，「せっかく」構文と「（の）なら」の表す「論理関係の共通性に求めることができる（p.443）」のである．

（33）a. *せっかく雨が止んだのだから，急いで出発しました.

b. *せっかく得意の料理を作ったので，彼は喜んで食べてくれた.

（34）a. せっかく雨が止んだのだから，今からでも出かけようよ.

b. せっかく得意の料理を作ったのに，彼は食べずに帰ってしまった.

（以上，渡辺 2001：32-34 における例文．例文判断も渡辺 2001．下線と波線は本研究による）

このように，「せっかく」は，前件（価値のある P）のみで完結することができず，価値判断に基づいて見越された後件（期待される Q，「『未実現』の事態」もしくは「『ついに実現せずじまい』の事態」を含む）との意味的組み合わせがあってこそ，前件 P の価値が保たれる．

また，上記のような現象からも分かるように，たとえ後件が「『ついに実現せずじまい』の事態」でも，「せっかく」の前件は必ず話し手にとって「価値あり」でなければならない．これは，森田（1989）が記述している通り，「『せっかく』で表される以上，それは話し手にとって価値ある事態と受け止められている．好ましくないと受け止めている事柄の場合には『せっかく』を使うことはできない（pp.586-587）」のである（例文 35a,b）．

（35）a. *せっかく海外に飛ばされたのだから，この機会に語学でも勉強するか.

b. せっかく外国勤務を命ぜられたのだから，この機会に語学を勉強しよう.

（森田 1989：587 に基づいて整理．例文判断も森田 1989 による．例文番号と波線は本研究による）

ただし，実例では，次のように「病気になる」（例文 36）や，リスクを伴う「自宅出産」（例文 37）のような，社会通念上，ネガティブな事態の場合に「せっかく」を用いる例が観察される．その場合，話し手（書き手）が「病気」や「自宅出産」を「好ましいこと」「価値ある事態」として，「自分の体は自分で取り戻したい」や「長女だけその場にいない」という「『未実現』の事態」と連動し，「せっかく」が使われる例が観察される．

（36）「わたしが取り戻すわたしのからだ～せっかく病気になったんだから～」

（読売新聞 2014 年 6 月 12 日）

(37)「長女に『どうする？』って聞いたら，最初は『こわいかなあ』と言っていたんですが，最終的には立ち会いたいと言ったんですね．長女もそう言っているし，せっかく自宅出産しているのに長女だけどこかに行っているのでは疎外感を感じてしまうかなと，みんなで一緒にやっているんだって思えることが長女にとってもいいかなと思ったんです．」（読売新聞 2012 年 3 月 1 日）

森田（1989）による「せっかく」の使用制限の他にも，蓮沼（1987）による「価値評価の第一原理[78]」と「価値顕現義務の原則[79]」と呉（2003）による「価値顕現の前提」と「価値消滅の前提」などでも「せっかく」の前件 P をめぐる「価値」の意味を解釈できるが，「見越された」後件 Q の意味的制限に関しても注意が必要である．したがって，単に社会通念上「プラス評価」（ポジティブな事態）か「マイナス評価」（ネガティブな事態）かだけではなく，「見越しの評価」を行なうことができてこそ「せっかく」なのである．その裏づけとして，単に「プラス評価」や「マイナス評価」だけでは，例文（38a, b）がなぜ非文で，（39a, b）がなぜ自然な文なのか，つまり後件 Q の現象まで説明することができない．

(38) a. *せっかく雨が止んだのだから，急いで出発しました.
b. *せっかく得意の料理を作ったので，彼は喜んで食べてくれた.

(39) a. せっかく雨が止んだのだから，今からでも出かけようよ.
b. せっかく得意の料理を作ったのに，彼は食べずに帰ってしまった.

（以上，渡辺 2001：32-34，例文 33 と 34 の再掲）

78 「それ自体『価値あり』と評価しうる事態も，人間がその価値の発揮，有効利用をはからない限り，ゼロに等しいか，時にはマイナスに転落さえしてしまうもの（蓮沼 1987：207）」である．

79 この原則は，「潜在価値は顕現させなければならない（蓮沼 1987：207）」という「我々の行動を規制するような，当為的な力（蓮沼 1987：208）」であり，話し手はこの原則に基づいて「利用価値を最大限に実現させなければならないという自らに義務を課すような判断を行う（蓮沼 1987：208）」のである．

したがって，「せっかく」が修飾している前件 P は，社会通念上「プラス」（ポジティブ）と捉えられる事態が基本なのだが，単に「プラスかマイナスか」（ポジティブかネガティブか）だけで決めるのではなく，あくまで話し手自身にとって「価値あり」と評価できる事態であるかどうかにかかり，そして見越された後件 Q が，前件 P と連動していて，前件 P と後件 Q が照応できる内容でなければならないという意味的制限が見られる[80].

4.5. 本章のまとめおよびその他の副詞の選定基準

本章では，先行研究を交え，新たな実例を加え，「見越しの評価」を表す「せっかく」の構文的特徴と意味的特徴を中心に見てきた.

その結果として，「せっかく」には，次のような構文的特徴が挙げられる.

第一に，基本的に「従属節—主節」という複文の構造を要求し，従属節末に現れる「のに」や「(の）だから」と強い共起関係にある．単文に生起しない.

第二に，上記の複文の構造は，文体もしくは文脈によって，接続の形式を含めて述部（前件 P）が圧縮されることがある．その代わり，「助詞」が現れる．しかしながら，前後の文脈で意味的要請が満たされ，かつ複文の構造に復元可能でなければならない.

第三に，文体の違いによって，接続の形式，さらには助詞も観察されず，その代わり，「句（読）点」が現れて文脈の中である種の「見せかけの単文」で一旦途切れているように見えるという「破格用法」も観察された．しかし，一般的に言う単文ではなく，「圧縮用法」と同様に，前後の文脈で意味的要請が満たされ，かつ複文の構造に復元可能でなければならない.

一方，意味的特徴は，次のようなものが挙げられる.

第一に，「せっかく」の前件 P は基本的に「動作性述語」が来るが，形容詞，名詞などの「状態性述語」が来る場合も少なからず観察された．ただし，いずれも，後件 Q と照応可能な人為的な事態であり，「価値がある」と評価された事態である．後件 Q（期待される「『未実現』の事態」または「『ついに実現せずじまい』の事態」）との意味的組み合わせがあってこそ，前件 P の価値が保たれる.

[80] 渡辺（2001）が述べているように，「われわれが何気なく『せっかく』と言い出した時，『P』への評価，『Q』への期待，その期待どおりに行かないことへの惜しみ，それらのすべてが心の中に用意され（p.35）」ていて，「驚くほどの評価の組み合わせ（p.35）」が内在しているのである.

第二に,「せっかく」が使用可能な条件として最も関与的なのは，従属節における命題 P の意味が「既定性」(Settledness) と関わっているか否かである.「せっかく」が「仮定性」と相容れないのは，仮定的事態の場合,「見越しの評価」を行なうことが困難だからであると考えられる．そのため,「せっかく」は既定条件を表す「(の) なら」節では使用できるが，仮定条件を表す「たら」「ば」「と」節では使用できない.

第三に,「せっかく」は，前件（価値ある事態 P）のみで完結することができず，見越された後件（「『未実現』の事態 Q」，これから「『実現が期待される』事態 Q」または「『ついに実現せずじまい』の事態 Q」）との意味的組み合わせがあってこそ，P の価値が保たれる．なお，前件 P は，社会通念上のポジティブな事態でなければならないというわけではなく，たとえネガティブな事態でも，話し手がそれを「価値ある事態」として評価し，および見越された後件 Q との組み合わせがあれば「せっかく」は使用可能である.

以上を踏まえ，本研究では,「せっかく」の類の副詞の選定基準について，従来の「話者の複雑な心理・前提」を表し「従属節に生起し複文構造を展開する」（西 2005）だけではなく,「見越しの評価」（渡辺 1980）を表し,「基本的に複文で使用されるという構文上の制約」（蓮沼 2014a）を有し，さらに述語・命題内容の「既定性」（蓮沼 2012，2014a）を要求するという，より厳密な規定が必要であると考える．先行研究からこれらの規定を満たすことが予想される副詞として「なまじ」,「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの）」,「ただでさえ」を選定し，それぞれの意味的・構文的特徴を記述・分析するとともに,「せっかく」と比較・対照することによって，同じく「『見越しの評価』を表す副詞」であることを論じる.

第 5 章では 「せっかく」と同じ「陳述副詞」として，類似した特徴を持つとされる「なまじ」を分析する.

第５章　「なまじ」の分析

5.1. はじめに

第４章では「『見越しの評価』を表す副詞」の代表格である「せっかく」の構文的・意味的特徴を見てきた. 本章では,「せっかく」と同様の「二重性格」を持っていると渡辺 (1980) が指摘した「なまじ（憖)」を取り上げ，その構文的特徴と意味的特徴を，BCCWJ で採集した合計 153 件の現代日本語の用例を通して記述・分析する．本章の構成は，次の通りである．まず，5.2.節では,「なまじ」(「なまじい」「なまじっか」）の先行研究に見られる問題点を概観する．次に，5.3.節では,「なまじ」の構文的特徴を，従属節末に現れる接続の形式の種類も含めて, BCCWJ の用例に基づいて整理し記述する. そして, 5.4.節では,「なまじ」の意味的特徴を分析する．まず，本来の「陳述副詞」としての機能によって生じる意味的特徴（述語修飾の制限）を分析してから,「見越しの評価」によって生じる意味的特徴（「既定性」）を説明する．それを踏まえて，個別の副詞としての「なまじ」の特徴によって生じる意味的特徴（「評価」）を分析する．最後に，5.5.節では，記述・分析をまとめ,「なまじ」も「『見越しの評価』を表す副詞」であるという明確な位置づけを与える.

5.2. 問題の所在

「なまじ」は，これまで，日本人の論理構造（板坂 1970)，基本的な意味・用法の規定（森田 1989，1996 ; 飛田・浅田 1994 ; グループ・ジャマシイ 1998)，意味・構文の歴史的変化（林＝イム 2011）などの先駆的研究によって，その特徴が明らかになってきているものの，１）現代日本語に特化した用例を広く収集しそれに基づいた議論がなされていないという問題点をはじめ，２)「見越しの評価」との関連についての議論が不足している点や，３)「なまじ」と「なまじっか」の使い分けに関する見解の不一致が見られるという問題がある．以下，上述の三つの問題点について詳しく説明する.

まず，第２章でも言及した，現代日本語に特化した用例の広汎な収集と，実際の用例に基づいた議論がなされていないという問題点がある.「せっかく」の先行研究と異なって,

「なまじ」はその使用頻度の低さ[81]に比例し，扱う先行研究の数も少ない.「なまじ（ひ)」を国語学的研究の見地から考察した佐藤（1959）や「なまじ（っか)」の意味・構文の歴史的変化について考察を行なった林＝イム（2011）では明治時代以前の日本語を研究対象に，文献資料における用例を使用しているが[82]，現代日本語の先行研究（板坂 1971，森田 1989，1996，飛田・浅田 1994；グループ・ジャマシイ 1998；さらに渡辺 1980，1996 を含めて）の場合，いずれも作例に基づいた議論を行なっている．そのため，コーパスを用いて広汎な用例を集め，それに基づいて「なまじ」の特徴を分析することが必要である．

次に，「見越しの評価」との関連についての議論が不足している点がある．渡辺（1980）によれば，「せっかく」が有する「当面の評価の対象として A または a をめざしながら，文中では B（$\bar{B}$）が現れるまでは落（ち）付かない（p.39)」という「二重性格」は，「なまじ」にも共通して見られる．以下の例文（1a,b）（2a,b）が示すように，A（命題 P）の「親切（にする)」（という当面の評価の対象）だけでは非文（例文 2a）となり，また，B（命題 Q）の「相手（「相手をつけ上がらせる」や「相手の為にならない」など）が何かしら A（命題 P）の評価に相反する期待はずれや「惜しみの情」（渡辺 2001）を表す内容が続かなければ，命題間の意味的要請が満たされず，落ち着いた文にならない（例文 2b)．

（1）a. なまじ親切にするから，相手をつけ上がらせるのだ.

b. なまじな親切は，かえって相手の為にならないよ.

（渡辺 1980：39 における例文．例文番号，下線，句読点は本研究による）

（2）a. *なまじ親切にする.

b.??なまじ親切にしたら，相手を助けることができた.　（例文 1a, b より改変）

---

[81] 1 億語以上の現代日本語の書き言葉を収録した BCCWJ では，「なまじ」の検索結果は僅か 124 件で，「なまじっか」21 件，「なまじい（に）」7 件である．なお，コーパスでは表記は検索結果に影響を与えるため，漢字表記の「憖」で検索をかけたところ 1 件である．それゆえ合計 153 例である.

[82] 日本語の時代区分について，さまざまな立場があり，国語史（日本語史）の立場に関していえば，次のような区分がなされている.

上代日本語：奈良時代以前（奈良時代を含む）
古典日本語：平安時代
中世日本語：鎌倉時代，室町時代
近代日本語：江戸時代
現代日本語：明治時代以降

しかしながら，渡辺（1980）では，「なまじ」と「価値」や「事態の実現・未実現」に関する詳細な議論は行なわれず，また，「なまじ」が「見越しの評価」を表すか否かに関しても明言されていない．

最後に，「なまじ」と「なまじっか」の使い分けに関する見解の不一致である．「なまじ」と「なまじっか」の違いについて，森田（1989）によると，「なまじっか」は「なまじ」の「口頭語的色合いの濃い（p.866）」語形であり，「なまじっか」が「現在ではよく用いられる（p.866）」と解説している．しかしながら，BCCWJ で収集した 153 件の用例のうち，「なまじ」は 124 件であるのに対し，「なまじっか」は 21 件のみである．その一方，飛田・浅田（1994）は，「なまじ」と「なまじっか」は基本的には同じ意味だが，「なまじ」より「なまじっか」のほうが実感がこもって，完了形とともに用いることが多いと指摘しているものの，具体的な「実感」の違いや，「完了形」と前件・後件に関する詳しい解説がなされていない．そこで，本研究では「なまじ」を基本形とし，「なまじっか」をその口語形とする．以上を踏まえ，BCCWJ における 153 件の実例（「なまじ」124 件，「なまじっか」21 件，「なまじい」7 件，「憖」1 件）を観察し，「見越しの評価」との関連で分析する．

5.3. 「なまじ」の構文的特徴

5.3.1. 複文の構造

現代日本語の「なまじ」は，（陳述）副詞としての用法（例文 3a-d）と，形容詞（形容動詞）としての用法（「なまじな N」の型をとる用法）（例文 3e）がある[83].

（3）a. なまじ急いでタクシーに乗ったために，渋滞に巻き込まれてかえって遅刻してしまった．

b. なまじ彼女の状況が理解できるだけに，こんな仕事はとても頼みづらい．

（以上，グループ・ジャマシイ 1998：395 における例文．例文番号，下線，句読点は本研究による）

[83] 林＝イム（2011）によれば，当初，「なまじ（っか）」は単文構造の中で「強いて・無理に・しぶしぶ行う様子，中途半端でいい加減な様子（p.15）」を表す「様態副詞」の用法として使われていたが，中世以降，「連体修飾」や「テ形接続」に使われる例が見られ，「前件とそれに続く後件との間に否定的な意味関係が生まれる（p.31）」という上代・中古とは違った用法が発生し，近世に入ると，「比較・選択構文」に使われるようになった．各時代の過程を経て，近現代日本語の「なまじ（っか）」は，「修飾内容に対して否定的な評価を表す陳述副詞（p.15）」や「評価性を持つ陳述副詞的用法への変化が見られる語（pp.31-32）」として使われている．

c. なまじい，おれの言うとおりになったのでとうとう大変なことになってしまった．

（BCCWJ／書籍／9 文学『坊っちゃん』夏目漱石著 角川書店）

d. なまじうまいと言われたものですから，下手なところは見せられないと思って，忙しい時間を縫って，練習場へ通っていました．

（BCCWJ／書籍／4 自然科学『BOOCS-至福のダイエット革命』藤野武彦著 講談社）

e. なまじっかな絵をかく気がないものだから，いつの間にか北海道のほうまで行ってものすごい貧乏をしている．

（BCCWJ／雑誌／総合／一般『ミセス』2004 年 11 月号 小島ゆかり・赤瀬川原平著 文化出版局）

「せっかく」構文と同様に，「なまじ」構文も，基本的には前件と後件という二つの命題が必要であるため，「従属節—主節」という複文の構造をとらなければならない．前件を表す単文のみだと非文になる（例文 4a-e）．

（4）a. *なまじ急いでタクシーに乗った．

b. *なまじ彼女の状況が理解できる気がする．

c. *なまじわたしの言うとおりになった．

d. *なまじうまいと言われた．

e. *なまじな絵をかく．

（以上，例文 3a-e より改変）

上記例文（3a- e）は，いずれも「従属節—主節」という複文の構造をとり，従属節末に生起する「ために」「だけに」「ので」「ものだから」などといった接続の形式によって前件と後件の意味的関係がはっきり示されている．

それに対して，例文（4a- e）は，単文であり，命題も一つだけで，後件が欠落しているため，非文となる．

なお，このような「従属節—主節」の複文の構造を要求する構文的特徴は，意味こそ異なるものの，複文の構造の類似性に関していえば，前節で見てきた「せっかく」にも観察された（例文 5a-b）．

(5) a. *せっかく急いでタクシーに乗った.

b. せっかく（急いで）タクシーに乗れたのに，渋滞に巻き込まれて遅刻してしまった.

（以上，例文 3a より改変）

複文の構造に関する議論はここまでとし，次節では「なまじ」と共起する接続の形式をBCCWJ の用例に基づいて記述・分析する.

5.3.2. 接続の形式

先行研究および 5.3.1.節の例文で見てきたように,「なまじ」の基本的用法は次のように整理することができる.

なまじ P カラ／タメニ／バカリニ，Q

なまじ P ト／バ，Q

なまじ P ヨリ Q

なまじナ／ノ N 助詞 Q

BCCWJ で採集した 153 件の用例の接続の形式を観察した結果，次のようなものが確認された.「なまじ」には，主に，原因・理由を表す接続の形式を伴う「順接用法」，条件を表す接続の形式を伴う用法，そして「圧縮用法」がある.「圧縮用法」の中には，連体修飾用法（「なまじの N」），形容詞[84]としての用法（「なまじな N」），「比較・選択構文のヨリ節」（林＝イム 2011）としての用法がある[85].「圧縮用法」に関しては 5.3.3.節で紹介する.

---

[84] ここでは，「形容動詞」（な形容詞）を指す.

[85] 林＝イム（2011 : 29-30）によれば，近代以降の「なまじ（っか）」は「複文の従属節（確定・仮定条件節と連体修飾節）」に現れるのがほとんどである．一方，「比較・選択のヨリ節」の生起過程に関しては，「修飾領域の事柄がかえってよくない結果をもたらしうる，不適切で望ましくないものであると見なし，（中略） このような不適切な状態にある事柄をしない方がむしろいい（p.29）」という「なまじ（っか）」の意味特徴の影響で，近世後期から，「なまじ～より（は）， ～方がいい」や，「～｛なら・より｝，なまじ～方がいい」といった比較構文において，「なまじ（っか）」が使われるようになったといわれている．なお，本研究では，「見越しの評価」と「従属節―主節」という複文の構造を中心に議論するため，比較構文との関係を明らかにするという問題に関しては別課題とする.

以下，「順接用法」をはじめとする各接続形式の種類を挙げる[86].

順接用法：

「だけ」「だけに」「ため」「ために」「が故に」「ばかりに」

「から」「のだから」「し，…から」「ぶん，…から」「ものだ」「ものだから」

「ので」「てしまい」「てしまった以上」「おかげで」「によって」中止形

条件表現：

「V と」「V ば」「V たら」「V なら」「N なら」

「V ても」「V ては」

圧縮用法：

連体修飾用法：

「なまじの N」「なまじの N では」「なまじの N のせいだ」

「なまじの N でも」「なまじの NV ても」

「なまじの N より（も）」（cf. 比較・選択構文のヨリ節としての用法）

形容詞としての用法：

「なまじな N」「なまじな N がために」

「なまじい N」「なまじでない N」

「なまじっかな N ではないから」「なまじっかな N のだ」

「なまじっかな N を VN がないものだから」

「なまじっかな VN より」

比較・選択構文のヨリ節としての用法：

「なまじ V より（も）」「なまじ N など V ずに」

「なまじの N より（も）」（cf. 連体修飾用法）

[86] なお，ここでは，第 4 章と同様，BCCWJ における「なまじ」と共起している形式の種類の整理を目的にしており，それぞれの形式の出現率の調査を目的にしていないため，数値を省略することにする．データの統計的分析に関しては別課題とする．

以上のように，「せっかく」と違って，「なまじ」の場合，逆接を表す「のに」との共起（つまり「逆接用法」）は観察されなかった．

条件表現では，「せっかく」の場合，既定条件を表す「なら」「ても」と共起することができるが，仮定条件を表す「と」「ば」「たら」と共起することができず，まれに共起する例文も観察されたが，いずれも逸脱した例文であるということを第4章で見てきた．それに対し，「なまじ」の場合，153 件のうち，「と」（12 件）との共起が多く，「ば」（5 件），「たら」（6 件），「なら」「ても」「ては」（それぞれ 2 件）と，共起する用例が観察され，さまざまな種類の条件を表す接続形式と広く共起している．しかも，「せっかく」と異なり，既定条件を表す「なら」「ても」に比べ，仮定条件を表す「と」「ば」「たら」のほうが用例数も多く，例文を観察した限りでは，逸脱した表現でもない．これに関しては 5.4.2.節で「既定性」の観点から議論する．

5.3.3. 「圧縮用法」について

このほかに，「なまじ」は，「従属節―主節」という複文の構造をとらず，また，接続の形式を伴わない場合がある．本研究では，このような用法を「圧縮用法」として位置づけている．まず挙げられるのは連体修飾用法「なまじの N」（例文 6），形容詞としての用法「なまじな N」（例文 7），「なまじ＋連体句＋N＋助詞 Q」という型をとる用法（例文 8）である．

(6) ごたごた言いながらも父親の保護に頼るしかないのだ．なまじの教育がこいつをいつまでも洟ったれのままにしている．ジョナサンが華人としての義務をきちんと自覚するまではじぶんが展開しようとしているビジネスの全容を明らかにするわけにはいかない．　（BCCWJ／書籍／9 文学『降臨の群れ』船戸与一著 集英社）

(7) ただし白も，左上隅が大きくまとまりそう．白地の拡大を防ぎ，中央を手厚くしておきたいのですが，なまじな様子見は味消しです．

（BCCWJ／書籍／7 芸術・美術『様子見のテクニック』囲碁編集部編 誠文堂新光社）

(8) なまじ優秀な信長の息子はまっさきに排除しなくてはならない存在なのである．

（BCCWJ／書籍／2 歴史『秀吉戦記』谷口克広著 学習研究社）

例文（6）（7）（8）は，接続の形式を伴わないが，助詞「は」「が」を境に，原因・理由を表す前件 P（「教育」「様子見」「優秀な信長の息子」）と，その結果を表す後件 Q（「洟ったれのまま」「味消し[87]」「排除しなくてはならない存在」）の命題間の関係がはっきり示され，いずれも「従属節―主節」という複文の構造に復元することができる（例文 6'-8'）.

（6'）なまじ教育をしているばかりにこいつをいつまでも洟ったれのままにしている.
（7'）なまじ様子見をしていると，味消しです.
（8'）なまじ信長の息子が優秀であるがゆえに，まっさきに排除しなくてはならない.

（以上，例文 6-8 より改変）

例文（7）は形容詞としての用法ではあるが，上記例文（7'）のような「従属節―主節」の複文の構造に書き換えることができるほか，下記例文（7"）のような連体修飾用法にも置き換えられる.

（7"） a. なまじの様子見は味消しです. （例文 7 より改変）

「なまじ」の連体修飾用法は,「せっかく」の連体修飾用法に極めて類似している．連体修飾用法では，複文の構造がはっきりしておらず，むしろ「A は B だ」という単文に近い状態に圧縮されている（例文 9a,c）のだが，複文の構造に復元可能でなければならない．また，前件 P と後件 Q という二つの命題が必ず存在し，後件 Q の内容が「期待どおりにならない時の惜しみの情（渡辺 2001）」を表していなければならない（例文 9a-d）.

（9） a. なまじの様子見は｛ 味消しだ ／ *面白い｝.
b. なまじの教育がこいつを ｛ だめにする ／ *成功させる｝.
c. せっかくの料理も｛ 台無しだ ／ *おいしそうに平らげてくれた｝.
d. せっかくの研究が｛ 水泡になった ／ ??認められた｝.

（以上，例文 6,7 より改変）

[87] 「味消し」は囲碁用語で，「指し手の狙いや可能性を含む楽しみをなくしてしまう」という意味である.

なお,「修飾領域の事柄がかえってよくない結果をもたらしうる，不適切で望ましくないものであると見なし，それをしない方がむしろいい（林＝イム 2011)」という意味的特徴を表す「比較・選択」のヨリ節の構文（例文 10a-c）に関しても，同じく「従属節—主節」という複文の構造に復元可能である（例文 10'a-c).

（10）a. なまじ見てしまった自然よりも，夢みる光景，思ひを馳せに馳せる名のみの世界の方が，感動は深いのだ.

（BCCWJ／書籍／8 言語『国語精粋記』塚本邦雄著 創拓社）

b. なまじ予備知識がない方がいいという考えから，兄に頼んで回してもらった，十人の警視庁の捜査員たちに，浅見は事件の詳細を告げず，作業の指示だけを出しておいた.

（BCCWJ／書籍／9 文学『白鳥殺人事件』内田康夫著 光文社）

c. なまじソースなどかけずに塩だけでどうぞ.

（BCCWJ／書籍／5 技術・工学『ごちそうものがたり』森義文著 フェリシモ出版）

（10'）a. なまじ自然を見てしまっただけに，感動は浅かった．それよりも夢見る光景や思いを馳せた世界のほうが感動は深いかもしれない.

b. なまじ予備知識を持っているばかりに，かえって真相が見えなくなる.

c. なまじソースなどかけると，素材の味が分からなくなるから，塩だけでどうぞ.

（以上，例文 10a-c より改変）

「圧縮用法」の用例をさらに観察すると，新聞（例文 11）や冗長な談話（例文 12）の場合，複文ではありながら，接続の形式を伴わず，代わりに助詞「が」や「で」を境に，前件 P と後件 Q が区別されるという例も観察される.

（11） 真善美のわからない者に向上せよといっても，向上のしようがない．なまじっか真善美がわかると思って，その道を進むのがいちばんいけないので，たとえば，ある程度絵がわかるばかりに，それ以上のレベルの絵がわからなくなる.

（読売新聞「数学者の復刊書 苦い良薬」2014 年 9 月 19 日）

(12)　なまじっかジェッカーチェーンのように行政指導，行政指導という名前でいつまでたってももらちがあかないまま，まだまだ被害者がふえるということを大変恐れます.

（BCCWJ／国会会議録／衆議院／常任委員会 第 077 回国会 1976 年）

第 4 章で見てきたが，「せっかく」の前件 P が「体言止めの文」もしくは「見せかけの単文」の形で一旦途切れるという「破格用法」の現象は，「なまじ」の場合，BCCWJ では観察されなかった．一方，次のような特殊な例文（13）が観察された.

(13)　伝説によると，もとは太古の英雄の羿の妻であったが，西王母の不死の薬をぬすんで飲み，月に奔って仙女になったという.
（詩を吟誦する）
わたくしは嫦娥でございます．もともとは太陰の主に属しておりましたが，なまじ后羿の妻と伝えられております．七宝のごとき月の光は，三万六千年のうちに偏き，一輪の清き光は一千二百里まで輝きます．玉兎と金の蟾は永遠に明るき至宝を産み出だし，白楡と丹桂は万古の奇花を咲かせます．さきには「霓裳羽衣」の仙楽があり，久しく月宮に秘められて，まだ人の世に伝わってはいませんでした.

（BCCWJ／書籍／9 文学『長生殿―玄宗・楊貴妃の恋愛譚』洪昇著・岩城秀夫訳 平凡社）

例文（13）で，日本語母語話者（複数）に聞き取り調査を行なったところ，意味がよく分からないという答えがほとんどであった．上記の例文は，これまで見てきた「なまじ」の「順接用法」「圧縮用法」と異なっており，引用節の形であり，前件 P と後件 Q の意味的関係が読み取れない．このような例文は，BCCWJ の文学作品（翻訳作品を含む）でしばしば観察される．しかし，これはあくまで特殊な文脈の中に現れた一つの例であって，ある種の「逸脱した表現」（蓮沼 2012；2014a）として捉えることができる．この例文もまた，「従属節―主節」という複文の構造や，前件 P と後件 Q の意味的関係がはっきりしていなければ，「なまじ」の例文が分かりにくくなるということを示している.

ここまで，「なまじ」の「従属節―主節」という複文の構造と，従属節末に現れる接続の形式の種類を中心に見てきた．次節では「なまじ」の意味的特徴の分析を行なう.

5.4. 「なまじ」の意味的特徴

5.4.1. 述語修飾の制限

森田（1989）によれば,「なまじっか」は「生強い（なまじい)」から派生した語であり,「まだ十分な状態に達していない（つまり生である）にもかかわらず，ある目的を実現するために，無理に自分自身に対し，あるいは他人に対して，それを強く推し進めること（つまり強いること）である．不十分な状態であるにもかかわらず強いて進めるところから，中途半端で不徹底な事態をまねくことになる（p.866)」という意味を表す.

森田（1989）では詳述されていないが，例文（14）が非文になっている理由の一つに,「三月に入った」の命題が「人為現象が中途半端で未熟な状態（p.867)」を表していないからであると考えられる.

（14）*なまじっか三月に入ったので寒くなった.　（森田 1989：867）

一方,「せっかく」の場合，渡辺（2001）においても,「せっかく」が主に「人間の意志にもとづく行為（p.36)」を修飾し,「自然現象」に置き換えると「不自然さはさらに強く（p.36)」なり，結果的に非文になるという記述が見られる（例文 15a,b).

（15）a. *せっかく雨が止んでも，出かけないだろう.
b. *せっかく雨が止むなら，やはり出発しようか.　（渡辺 2001：36）

「せっかく」が自然現象を修飾できるか否かに関しては,すでに第 4 章で議論したため,ここでは「なまじ」に議論の重点を置くことにする.「なまじ」が自然現象を修飾できるか否かについて，BCCWJ における用例の述語を調査した結果，そのほとんどが「動作」[88],

[88] BCCWJ において，「なまじ」が修飾する動作性述語には，次のようなものが挙げられる.「塩田開発に成功して豊かになった／いろいろ読んだりする／顔を見る／視る／羊の顔を見ていない／二回戦迄行って負けた／焼け残って，水をかぶる／反応してしまう／旅籠につく／敵を見ようとする／止める／さわぐ／労わりめいている／ものを言う／暴れた／歌の形式を早のみこみしている／強情を張り通す／同情する／絵をかく（気がない）／曖昧に断っている／気負い込んで突撃でもされる／鎌を振るう／削る／生かしておく／トップの座をねらったり外交手腕や政治力を発揮しようとする／今回の情報を伝える／風呂を入れ替えて風邪を引く／トレードで選手貰う／思いやりをもって人民に臨む／人に慣れている／そんなことを言い出す／命令する立場に立たされてきた／助言／手術という選択肢がある／撮り続けてきた／稀に立ち寄る／妙にリアリティがある／張れる／

または「能力，特徴」や，具体的または抽象的事物の「所有，保持」[89]，つまり人為現象である．一方，自然現象や時間的現象に関する用例は観察されなかった．そのため，ここでは森田（1989）が指摘した通り，まず「なまじ」の前件 P は基本的に人為現象（「動作」や，その動作によって発生した「状態」）を修飾する，ということを認めておこう．

ところが，次のような作例は，決して不自然であるとは言えない．

（14’） a. なまじ曇っていると，かえって蒸し暑い．

b. なまじ連休が長いものだから，つい生活リズムが狂ってしまう．

（本研究による作例）

「なまじ」は，何を修飾するのか．一般的に「動作」「状態」を修飾するのは程度副詞であり，陳述副詞ではない．だとすれば，陳述副詞としての「なまじ」は，単に「中途半端な状態」を修飾しているだけでなく，話し手が当該の「状態」に対して感じる「中途半端さ・不十分さ」も言い表しているのである（例文 14’a）．つまり，命題内容を修飾すると同時に，話し手の気持ちないし評価を表している，というふうに捉える必要がある[90]．

親切にする／繊維の世界にいる／人物が写っている／子供がいた／言う／おれの言うとおりになった／ピンセットなどをもち出していじりまわした／様子見／証拠を見せる／動く／ちょっかいを出す／お金払ったりした／背が立つ／匿す／接吻／治療／考える／取りなす／（あのときのことを）知っている／希望を知ってしまった／プロ試験に合格してしまう／勝った／勝ってしまう／もらしてしまう／教育／高校まで出してもらった／普通の大学に進む／大学卒／命を救われる／変装でもする／見てしまう／逃げた／期待した…」

[89] 次のようなものが挙げられる．
「金がある／金があったりする／お金がたくさんある／畑を持っている／日本国籍を持っている／力がある／知恵がある／学がある／才能がある／頭がいい／教養がある／英語ができる／語学の知識を持つ／語学の才など持ち合わせる／文学が分かる／もの書きである／円周は２πｒなどという知識がある／機械の使いこなしがうまい／知っている／字を知っている／事を知っている／この世の鍵を知っている／こんな眼がある／うまいと言われる／坊主（でござる）／彫りが深い（顔立ち）／愛が深い／大人に勝る／甲斐性がある／軍事力がある／踏んでいける（足）／腕力と背筋力に自信がある／歌唱力がある／チャンバラに自信がある／人よりも優れた能力を持っている／少しばかり仕事ができる／情報だけはたくさん持っていた／天下のことにかかわりを持つ／中途半端なプライドがあったり期待がある／大義名分がある／殊勝になる／人並みの暮らしをした／世間を知らない／予備知識がない／経歴も無い／無名だった／妙な知恵がついていない／へそ曲がりではない…」

[90] これには，「なまじ」の場合，形容詞，様態副詞（情態副詞）から，現代語の陳述副詞へと変化してきたという過程を経たためという理由が考えられる．

例文（15a,b）の「余計な口出しをする」や「フランス語をかじっている」は，いずれも「動作」を表しているが，その動作が「不完全」な「状態」にあることを「なまじ」によって修飾されているとともに，「不必要」であると評価されている．

（15）a. なまじっか余計な口出しをすれば，叱られてしまう．
b. なまじっかフランス語をかじっていると，通訳をさせられて，かえって恥をかくかもしれないよ．（森田 1989：867）

このように，陳述副詞としての「なまじ」は，形容詞，様態副詞（情態副詞）としての特徴を残しつつ，基本的に「動作」（またはその動作によって発生した「状態」）ないしは「所有」「保持」などといった人為現象を修飾すると同時に，話し手の気持ちや評価を表している[91]．

5.4.2. 「既定性」との関わり

第 4 章で論じたように，「『見越しの評価』を表す副詞」の特徴の一つとして，「既定性」がある．

しかし，5.3.2.節で触れたが，BCCWJ では「なまじ」は仮定条件を表す「と」（12 件），「ば」（5 件），「たら」（6 件），「なら」「ても」「ては」（それぞれ 2 件）と共起する用例が観察され，ほぼすべての種類の条件形と共起する（各種類の条件節の中に現れる）．また，既定条件を表す「なら」「ても」に比べ，仮定条件を表す「と」「ば」「たら」のほうが多く，「せっかく」と異なっているようである．これについてどう解釈すればよいのか．本節では上述の現象について「既定性」との関わりについて見ていきたい．

まず，条件形を伴わない例，特に「なまじ」構文の主な接続の形式である順接的な因果関係を表す「から」「ので」「ばかりに」「だけに」などが用いられる例について見ていく．

森田（1989）によれば，「なまじっか」は「恣意的で不確定な状態や現象にしか用いられないので，『三月に入って』のように，選択の余地のない既定の現象には用いられない（p.867）」（例文 16）．

---

[91] 自然現象・時間的現象を修飾する「なまじ」の例は，BCCWJ では観察されなかったが，Google 検索エンジンで天気に関連する「なまじ」の例文を検索したところ，“なまじ暑い” が 91 件，“なまじ寒い” が 109 件，“なまじ天気” が 369 件と僅かながらヒットしたものの，そのほとんどが個人のホームページやブログでの使用例である．

（16）*なまじっか三月に入ったので寒くなった. （例文 14 の再掲）

例文（16）「三月に入った」という状態は，2 月 28 日（2 月 29 日）が過ぎれば必ず 3 月に入るものであるため，森田（1989：867）の指摘の通り，誰にも止められない「選択の余地のない既定の現象」である[92].

しかし，5.4.1.節で見てきたように，「なまじ」は基本的に「動作」（または，その動作によって発生した「状態」）ないしは具体的事物・抽象的事物の「所有」「保持」などといった人為現象を修飾するという制限がある．例文（16）が非文になっているのは「三月に入った」という述語が原因の一つであると考えられる．そのため，他の例文で「既定性」を議論する必要がある．

森田（1989：867）における他の例文を見てみると，例えば，「（余計な）口出しをした」や「フランス語を勉強していた」といった命題は，いずれも過去形であり，つまり「実現済みの事態」ですでに発生した事実でもあるため，ある種の「既定の現象」として捉えることができる（例文 17a-b）.

（17） a. なまじっか余計な口出しをしたばっかりに，叱られてしまった.
b. なまじっかフランス語をかじっていたばかりに通訳をさせられて，かえって恥をかいた. （森田 1989：867）

無論，「口を出す（か否か）」「フランス語を勉強する（か否か）」といった意図的動作は，例文（16）の「三月に入った」という自然現象・時間的現象と異なり，動作主は未実現の時点では自ら選択することはできるものの，例文（17a,b）に限って考えれば，発話の時点ではすでに実現したことであると考えられ，「既定的」な事態である．その裏づけとして，「口を出す」や「フランス語を勉強する」といった命題を「恣意的で不確定な状態や現象（森田 1989：867）」に直すと，不自然な文になる（例文 18a,b）.

92 「朝が来る」「日が沈む」「日付が変わる」など，時間の流れに伴って必ず実現される事象を含むと考えられる.

[命題内容が恣意的で不確定な状態の場合]

（18） a. ??なまじっか余計な口出しをするか迷っていると，叱られてしまう．

b. ??なまじっかフランス語をかじってもかじらなくても，通訳をさせられて，恥をかく．（森田 1989：867 より改変）

次に，条件形を伴う例を見ていこう．発話の時点で命題内容が未実現の場合，自然的・必然的帰結を表す「と」（例文 19）や，論理的帰結を表す「ば」（例文 20a,b）が用いられやすい[93]．

[命題内容が未実現の事態の場合]

（19） なまじ英語など知っていると，相手にペラペラ話しかけられて困るものだよ．

（森田 1989：867 における例文）

（20） a. 今の段階でなまじ私が発言すれば，かえって事態を混乱させることになりかねない．

（グループ・ジャマシイ 1998：395 における例文．例文番号，下線，波線，句読点は本研究による）

b. なまじっか金があったりすれば，これも大変なことになるとも思う．

（BCCWJ／書籍／9 文学『人生論手帖』山口瞳著 河出書房新社）

「なら」を伴う例文（21）に関しても，発話の時点で「相手からの親切を受けている」ということと，「徹底的に愛してくれていない」ということが，それぞれすでに確定であり，例文（21’）のように「だけに」に置き換えられる．「なら」もまた「既定条件」を表しているため，例文（21）は「既定的」な事態として捉えなければならない．これは第 4 章で議論した「せっかく」と「なら」の場合と同様，事態の「既定性」を要求している現象である．

---

[93] 寺村（1981），坪本（1993）によれば，「と」「ば」「たら」には次のような違いがある．

P トQ　　自然的・必然的帰結
P レバ Q　論理的帰結
P タラ Q　偶然的帰結

例 a）電熱線に流れる電流の大きさを変えていくと，電熱線から出る光の色が変化してくる．
b）（2 x - 5）（x + 3）を展開すれば，2x2 + X – 15 となる．
c）彼が来たら，出発しよう．
d）この道を真っすぐ行くと，郵便局に出ます．
e）このボタンを押すと，ランプが点きます．（坪本 1993：120）

（21）　なまじ親切にする位ならどうしてもっと徹底的に愛してくれないのかという…

（BCCWJ／書籍／9 文学『わたしの漱石』米田利昭著 勁草書房）

（21’）　なまじ親切にしてくれているだけにもっと徹底的に愛してくれていないのが残念に思っている.

なお,「なまじ」は次のように「たら」を伴う場合が観察されるが（例文 22），例文（19）（20）と同様に，発話の時点で命題内容が未実現の場合であり，「と」「ば」に置き換えられる（例文 22’a,b）[94].

（22）　なまじ変装でもしたら，かえって君に怪しまれてしまう．それより，むしろ，君を証人にしたほうがいいと考える.

（BCCWJ／書籍／9 文学『寝台特急「あさかぜ１号」殺人事件』西村京太郎著 徳間書店）

（22’）a. なまじ変装でもすると，かえって君に怪しまれてしまう.

b. なまじ変装でもすれば，君に怪しまれてしまう.

以上のように,「なまじ」が条件形を伴わない場合はもちろん，条件形を伴う場合でも,（「たら」を除き）「なまじ前件 P」と「かえって後件 Q」の間は，因果関係が強いため，基本的に命題 P に「既定性」を要求している.

なお,「なまじ」が「恣意的で不確定な状態や現象にしか用いられない」「選択の余地のない既定の現象には用いられない」という森田（1989）の記述に関しては，蓮沼（2012；2014a）における「既定性（settledness）」と異なる概念であり,「恣意的で不確定な状態

[94] BCCWJ では，次の例文（ア）（イ）ように，反事実条件文の例も少なからず観察された.「なまじ」と反事実条件文との関わりについては別課題とする.

（ア）ことわざに，「氏より育ち」というのがある．これは「血統よりも境遇の影響のほうが大きい．素性のよさよりも育ち方のよいことのほうが大切である」という意味だ．わがガリ勉クンも，なまじ普通の大学に進んでいたら，あんなに頑張らなかったかも知れない.　（BCCWJ／書籍／0 総記『ことわざ雨彦流』青木雨彦著 講談社）

（イ）なまじっか英語ができていたら，正確に訳しすぎて想像力を働かすことができなかったような気がする.

（BCCWJ／書籍／7 芸術・美術『バーボン・ストリート・ブルース』高田渡著 山と渓谷社）

や現象にしか用いられない」のは「(選択可能な) 人為現象」の類であり,「選択の余地のない既定の現象には用いられない」のは「自然現象・時間的現象」の類であると見なしたほうが適切である.

5.4.3. 「価値」と「評価」

渡辺 (1980) によれば,「せっかく」が有する「当面の評価の対象として A または a をめざしながら, 文中では B ($\bar{B}$) が現れるまでは落付かない (p.39)」という二重性格は「なまじ」にも共通して言える. しかし,「なまじ」と「見越しの評価」との関連についてこれまでのところ論じた研究はない.

本節では,「なまじ」の前件 P が表している「評価」について論じる. 板坂 (1971) によると,「なまじ」は,「あまり熟達・完成していないである程度しかプラスの状態にないと, そのために逆に大きなマイナスの結果を引き起す, したがって小さなプラスの条件はゼロよりもずっとよくない, という風な, そういう大きなマイナスの可能性を持った小さなプラスがなまじの状態であ (p.25)」り,「このなまじの「小さなプラスは, 中途半端であり不徹底であり, 完全とか理想とかにはほど遠い. もしそこにとどまって満足すれば, 泣き寝入りに近いような妥協的立場である. したがって見劣りがするし, ぬるま湯的なまだるっこさを人に感じさせる (p.30)」ものである. グループ・ジャマシイ (1998) においても,「なまじ」は「プラスの価値をもつものが十分にその真価を発揮できないで不徹底, 中途半端に終わる様子を表す. 本来ならプラスの価値を持つものが, 反対にマイナスの結果をもたらしてしまうことを述べる場合に用いる (p.395)」という定義が見られる.

例文 (23a,b) を見ると,「腕力と背筋力に自信がある」や「歌唱力がある」はいずれも本来,「(それなりに) 熟達している」というプラスでポジティブな意味で捉えられるが,「なまじ」のマイナスでネガティブな捉え方によって, 上述の「あまり熟達・完成していないである程度しかプラスの状態にない」という解釈が生じる.

(23) a. ２０代の頃, 重いカメラを片方の肩に下げて歩いていたが, どうもそれが災いしたらしい. なまじ腕力と背筋力に自信があったので, 知らず知らずのうちに無理をしていたのだろう.

(BCCWJ／雑誌／総合／一般『クロワッサン』2005 年 7 月 25 日号 (No.665, 第 29 巻第 14 号) マガジンハウス)

b. なまじ歌唱力があるために，それを鼻にかけて，ちょっと気に食わないと，
舞台をすっぽかして，われわれが謝罪に走り廻ることが，たびたびでしたよ．
（BCCWJ／書籍／9 文学『山陰路殺人事件　長編推理小説』西村京太郎著 光文社）

それに対し，例文（24a,b）での「余計な口出しをする」や「世間を知らない」は，社会通念上プラスの価値をもつ事態ではないものの，「なまじ」のマイナスの捉え方によって，「お節介・熱心」や「単純」などの「小さなプラス」という解釈が生じる．

（24） a. なまじっか余計な口出しをしたばっかりに，叱られてしまった．
（森田 1989：867 における例文）
b. なまじ世間を知らないだけに，おだてられて木に登っちゃうのよね．
（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

森田（1989）によると，「裏を返せば，“僅かなプラス条件は大きなマイナス結果を招くから，ゼロよりむしろ悪い”という考え方になる．このような状況設定がなければ，いくら“中途半端”“不徹底”な状態でも『なまじっか』は使わない（p.867）」．そのため，例文（23a,b）のように社会通念上プラスとされる「腕力と背筋力に自信がある」「歌唱力がある」場合でも，あるいは社会通念上マイナスとされる「余計な口出しをする」「世間を知らない」場合でも，いずれも後件 Q はマイナスでネガティブな結果でなければならない．プラスの結果となると非文になる（例文 23’24’）．

（23’） a. *なまじ腕力と背筋力に自信があったので，平気だった．
b. *なまじ歌唱力があるために，人気が出た．

（24’） a. *なまじっか余計な口出しをしたから，褒められた．
b. *なまじ世間を知らないだけに，面倒を見てもらった．

このように，話し手が発話の時点で，前件 P に立って後件 Q（好ましくない結果）まで見越していなければ「なまじ」は使えない（25 a-c）．

(25)　a. *なまじ英語など知っていると，いつどう役に立つか分からない.

b. *今の段階でなまじ私が発言すれば，どうなるのだろう.

c. *なまじっか金があったりすればよかった.

第4章の「せっかく」でも言及したが，次の例文（26 a,b）が示すように，「せっかく」の後件 Q が過去の「『実現済み』の事態」の場合，いずれも非文であるのに対し，後件 Q が「『未実現』の事態」やこれから「『実現が期待される』事態」（例文 27a）か「『ついに実現せずじまい』の事態」（例文 27b）に戻せば自然な文になる.

(26)　a. *せっかく雨が止んだのだから，急いで出発しました.

b. *せっかく得意の料理を作ったので，彼は喜んで食べてくれた.

（渡辺 2001：33 より引用．例文判断も渡辺 2001 による）

(27)　a. せっかく雨が止んだのだから，今からでも出かけようよ.

b. せっかく得意の料理を作ったのに，彼は食べずに帰ってしまった.

（渡辺 2001：32-34 より引用）

一方，「なまじ」の場合，後件 Q は現在・未来を表す普通形を伴う「『未実現』の事態」（28a）と，過去形・完了形を伴う「『実現済み』の事態」（28b）の二種類がある．いずれも「なまじ」は「せっかく」と違って「期待」を表さない．ただし，「『実現済み』の事態」の場合，何かしら「惜しみの情」や「残念な気持ち」を表している部分に関しては「せっかく」に共通している.

(28)　a. なまじ中途半端なプライドがあったり期待があるから不安になるのだ．ちなみに明日は野球大会がある．大会になると緊張する人がいるが私はしない.

（BCCWJ／Yahoo! ブログ）

b. なまじおれの言うとおりになったのでとうとう大変なことになってしまった.

（BCCWJ／書籍／9 文学 『坊ちゃん』夏目漱石著 角川書店）

最後に，「なまじ」構文において，「プラスの P」と「マイナスの Q」の間に，なぜ逆接を表す「のに」を使用できないのか，その理由を考えてみたい．

5.3.1.節と 5.3.2.節で見てきたように，「せっかく」と異なって，「なまじ」の場合，「のに」と共起することができない（29'a-c）．

（29）a. なまじお金がたくさんあるから，一四〇〇兆円も私たちの金融の資産があるから大丈夫だという形で，どちらかというと安易にお金が使われてきた．

（BCCWJ／書籍／3 社会科学『構造改革でどうなる私たちの生活と日本経済―タウンミーティングの現場から』実業之日本社タウンミーティング取材班編著 実業之日本社）

b. ２０代の頃，重いカメラを片方の肩に下げて歩いていたが，どうもそれが災いしたらしい．なまじ腕力と背筋力に自信があったので，知らず知らずのうちに無理をしていたのだろう．（例文 23a の再掲）

c. なまじ歌唱力があるために，それを鼻にかけて，ちょっと気に食わないと，舞台をすっぽかして，われわれが謝罪に走り廻ることが，たびたびでしたよ．

（例文 23b の再掲）

（29'）a. なまじお金がたくさんある｛ から ／ *のに ｝，安易に使われてきた．

b. なまじ腕力と背筋力に自信があった｛ ので ／ *のに ｝，無理をしていた．

c. なまじ歌唱力がある｛ ために ／ *のに ｝，それを鼻にかけている．

例文（29a-c）では，「お金が（たくさん）ある」「腕力と背筋力に自信がある」「歌唱力がある」などのプラスの命題内容の設定により，さらにプラスの結果が生じるのではなく，「安易に使う」「無理をする」「天狗になる」などのマイナスの結果が生じている．これは前件 P そのものがプラス（正確には「小さなプラス・僅かなプラス」）な事態でも，「なまじ」の修飾つまりマイナスの捉え方によって，マイナスの結果（後件 Q）が生み出される．そのため，順接的である方が自然な流れとなるからである．したがって，「なまじ」には「逆接用法」が存在せず，むしろ必要とされない．

5.5. 本章のまとめ

本章では，「せっかく」と類似した構文的特徴を有する「なまじ」を取り上げ，二つの副詞に見られる類似性と相違点を交えて，コーパスデータを用いてその構文的特徴と意味的特徴を議論してきた．

その結果として，「なまじ」の構文的特徴に，次のようなものが挙げられる．

第一に，「なまじ」は「従属節—主節」という複文の構造を要求し，従属節に生起する．単文だけでは，意味的要請が満たされず，非文になる．

第二に，「なまじ」の従属節末に現れる接続の形式には，「カラ／ノデ／ダケニ／バカリニ」のように，順接的な因果関係を表すものがある他，「ト／バ／タラ／ナラ」のように，条件を表すものも観察された．なお，逆接を表す「のに」との共起（すなわち「逆接用法」）は観察されなかった．

第三に，「なまじ」にも，「従属節—主節」という複文の構造をとらず，また，接続の形式を伴わない「圧縮用法」がある．「なまじ」の「圧縮用法」には，連体修飾用法，形容詞としての用法，比較・選択構文のヨリ節としての用法がある．

一方，「なまじ」の意味的特徴に，次のようなものが挙げられる．

第一に，「なまじ」は，単に中途半端・不十分な人為現象（「動作」や「状態」）を修飾するだけではなく，小さなプラスの事態（前件 P）が，大きなマイナスの事態（後件 Q）を招いてしまうかもしれない，もしくは招いてしまったと話者が見越した評価と気持をを表す．

第二に，BCCWJ における合計 153 件の用例のうち，「と」（12 件），「ば」（5 件），「たら」（6 件），「なら」「ても」「ては」（それぞれ 2 件）とさまざまな種類の条件形が観察されたが，「なまじ前件 P」と「後件 Q」の間は，因果関係が強いため，「なまじ」の前件 P は基本的に「既定性」を要求している．

第三に，「なまじ」の前件 P は基本的に「小さなプラスの事態」を表すが，「なまじ」のマイナスの捉え方によって，見越された後件 Q は必ず「前件 P に相反するマイナスの事態や結果」を表すため，逆接を表す「のに」と共起しない．

第６章　「あまり」の分析

6.1. はじめに

第４章と第５章では「『見越しの評価』を表す副詞」の代表格であるとされる「せっかく」と，「せっかく」に類似した性質を持つ「なまじ」を見てきた．「せっかく」と「なまじ」は，従来の副詞の三分類において，いずれも「陳述副詞」に属している．また，これまでの先行研究で「せっかく」と同じグループと見なせる副詞として取り上げられてきた副詞（「どうせ」「さすが（に)」「やはり」「まさか」など）を見ても，ほとんどが「陳述副詞」である．では，「『見越しの評価』を表す副詞」は，結局，単に「陳述副詞」の一種に過ぎないのだろうか．また，「陳述副詞」だけが「見越しの評価」を表すことができるのだろうか．本章では，「陳述副詞」以外の「程度副詞」とされる「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの)」（益岡・田窪 1992）つまり「あまり＋肯定形」（西 2005）[95] を取り上げ，その構文的特徴と意味的特徴をコーパスデータに基づいて分析する．それと同時に，これまで見てきた「せっかく」と「なまじ」との類似性と相違点を分析する．本章の記述と分析を踏まえ，最終的に，「『見越しの評価』を表す副詞」には，「陳述タイプのもの」の他，「程度タイプのもの」もあるということを論じる．なお，本章の構成は次の通りである．まず 6.2.節で「あまり」の先行研究における問題点を整理する．次に 6.3.節でその構文的特徴を論じる．6.4.節でその意味的特徴と「見越しの評価」との関連について議論する．最後に 6.5.節はまとめである．

6.2. 問題の所在

現代日本語の「あまり」の副詞としての用法には，述語の否定形（－ない形）と呼応する用法と，述語の肯定形と呼応する用法とがある[96]．これは先行研究ですでに議論されて

[95] 西（2005）は，次頁の例文（1d）を取り上げつつ「『あまり』は確かに『おいしかった』の程度を示しているが，それだけでなく話者の前提あるいは想定を上回る程度の高さに対する驚きなどの心的姿勢も表している（p.46）」と述べ，その陳述性に注目し，「あまり＋肯定形」を陳述副詞の一種と捉えている．それに対して，本研究では，「あまり」を程度副詞とする．

[96]「あまり」の用法の呼び方ないし分類は，先行研究によって異なっている．例えば，森田（1989）は，「肯定形と呼応する形式」「否定形と呼応する形式」「用言に付いて，以下にその結果を示す形式」という三種類があるとしている．須賀（1992）は，「否定と呼応するものとしない

きた（新藤 1983；森田 1989；益岡・田窪 1992；須賀 1992；服部 1993；飛田・浅田 1994；グループ・ジャマシイ 1998；東瀬戸 2000；西 2005；兼行 2012）．前者は，単文のみで成立する（例文 1a,b）．それに対して，後者は「基本的に複文で使用されるという構文上の制約」（蓮沼 2014a）を有し，単文には生起せず（例文 1c），複文の従属節に生起する（例文 1d,e）．

（1） a. あまり感心できない．（西 2005：45）

b. まだあまりうまくキーボードが打てません．

（BCCWJ／書籍／分類なし『パソコンで何ができるのか』向山洋一監修 NEC メディアプロダクツ）

c. *あんまり（あまり）おいしかった．

d. あんまり（あまり）おいしかったので，つい食べ過ぎた．

（以上 1c,d は西 2005：45 より引用）

e. まずテグスを張る幅は，カラスの翼開長がハシブトガラスで約一m，ハシボソガラスで八〇ｃｍなので，これより狭くしないとだめです．といって，あまり狭いと糸を張る手間と経費がかさみます．

（BCCWJ／書籍／6 産業『カラス　おもしろ生態とかしこい防ぎ方』杉田昭栄著 農山漁村文化協会）

これらの先行研究について，次のような二つの問題点が挙げられる．一つは，「あまり」（述語の肯定形と共に使われるもの，以下「あまり」と略す[97]）と「あまりに（も）」との違いが不明確であるという点である．もう一つは，「あまり」と「見越しの評価」との関連の議論が不足している点である．

もの」があるとし，服部（1993）も，「弱否定型の用法」と「過度型の用法」があるとしている．グループ・ジャマシイ（1998）は，「後ろに否定の表現を伴って，程度が高くないことを表す」という用法と「（形容詞や動詞の表す）程度が常識から考えて激しすぎることを表す」という用法があるとしている．呼び方は一致しないものの，基本的に「肯定形」と「否定形」それぞれに呼応する二つの用法があるということに関しては見解が一致している．なお，次の例文（ア）のように，打消し・否定を表す接頭辞「無」などを伴う場合，本研究では「あまり（述語の否定形と共に使われるもの）」と見なす．

（ア） ３桁目はその範囲を限定する程度の，あまり無意味な数字であり，４桁目以降はまったく無意味な数字である．（BCCWJ／教科書／理科／高『高等学校化学 I』）

[97] 以下，本章で言及する「あまり」は，すべて「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの）」のことを指し，「あまり（述語の否定形と共に使われるもの）」に関する言及がある場合のみ，肯定形か否定形かを明記することにする．

まず，一つ目の問題点を見てみよう．

「あまり」には，「に（も）」がついた形もある[98]．しかしながら，「あまり」と違って，「あまりに（も）」は単文（例文 2a），複文の主節（例文 2b），複文の従属節（例文 2c-f）などに生起することができる．

（2） a. 「あまりに御都合主義ですよ」波平は悲しげにつぶやきました．

（BCCWJ／書籍／9 文学『瓶の中の旅愁』小林恭二著 福武書店）

b. 企画どおりに女性層の支持を得たが，次回も同じ路線で行くのはあまりにも安易すぎた．（BCCWJ／書籍／9 文学『誤解の理由―ミス・キャスト』伊郷ルウ著 講談社）

c. あまりに大変そうなのでおせっかいとは思いつつ『お手伝いしましょうか？』と声をかけるのです．（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

d. あまりにも有名な文献であるが，引用しておく．

（BCCWJ／書籍／9 文学『数奇と無常』目崎徳衛著 吉川弘文館）

e. 今度の発見はあまりに革命的なので，すぐには誰も認めようとはしないでしょう．

（BCCWJ／書籍／9 文学『遠き落日』渡辺淳一著 角川書店）

f. 徳江の作った粒あんはあまりにも美味しく，みるみるうちに店は繁盛．

（ドリアン助川原作，映画「あん」）

「あまりに（も）」は「あまり」の「強調した言い方」（飛田・浅田 1994：13）と解釈される場合がある．確かに，次のような例文（3a）では，「あまりに（も）」から「あまり」への言い換えが可能であり，少し自然度が下がるものの，容認可能である（例文 3b-d）．

（3）a. 彼があまりに僕の失敗を笑うから，だんだん腹が立ってきてなぐってしまった．

（グループ・ジャマシイ 1998：11，例文番号と下線は本研究による）

b. 彼があまり僕の失敗を笑うから，だんだん腹が立ってきてなぐってしまった．

c. 彼があんまり僕の失敗を笑うから，だんだん腹が立ってきてなぐってしまった．

d. 彼があんまし僕の失敗を笑うから，だんだん腹が立ってきてなぐってしまった．

[98] 森田（1989：74）によると，「あまりに／あまりにも／あまりの／あまりだ」は，いずれも「あまり」を形容動詞化したものである．なお，BCCWJ では，「あまりにも」は「形状詞 - 一般」と分類されている．

他方,「あまり」は複文の構造を要求するため,「あまりに（も)」に比べて使用範囲が狭い．例えば，次のように「あまり」から「あまりに（も)」への言い換えはすべて可能である．その上，自然度は変わらない（例文 4a-d)．

(4) a. あまりおいしかったので，つい食べ過ぎた．
b. ｛ あまりに ／ あまりにも｝おいしかったので，つい食べ過ぎた．
c. あまり狭いと糸を張る手間と経費がかさみます．
d. ｛ あまりに ／ あまりにも｝狭いと糸を張る手間と経費がかさみます．

（以上，例文 1c,d より改変）

逆に，例文（3b-d）でも既に述べたように,「あまりに（も)」から「あまり」への言い換えとなると,「あまりに（も)」は必ずしも複文の従属節に生起するとは限らないため，自然度が下がってしまい（例文 5a,b)，さらには非文（例文 6，7a,b）になってしまう場合がある．

(5) a. 次回も同じ路線で行くのは｛??あまり／ あまりに／ あまりにも｝安易すぎた．
b. 徳江の作った粒あんは｛??あまり ／ あまりに ／ あまりにも ｝美味しく，みるみるうちに店は繁盛．

（以上，例文 2b,f より改変）

(6) ｛*あまり／ あまりに／ あまりにも｝御都合主義ですよ． （例文 2a より改変）

(7) a. ｛ *あまり／ あまりに／ あまりにも｝有名な文献であるが，引用しておく．
b. 今度の発見は｛ *あまり／ あまりに／ あまりにも｝革命的なので，すぐには誰も認めようとはしないでしょう．

（以上，例文 2d,e より改変）

「あまり」と「あまりに（も)」はいずれも名詞「余り」（必要を上回っているために生じた超過部分）から派生した語（森田 1989：73）であり，意味に関しては，両者は極め

て類似しているものの，用法に関しては，特に複文の構造を要求するか否かという点で，両者は分かれている．そのため，本研究では，「あまりに（も）」を「あまり」の「強調形」とせず，異なる形式として捉えることにし，考察の対象を肯定形と共起する「あまり」だけに限って分析を行なう．

次に，二つ目の問題点である．

これまでの先行研究では，「あまり」と「見越しの評価」との関連について，議論が不足している．渡辺（1980）は，「せっかく」の他，「なまじ」「いっそ」「さすが」などの副詞を取り上げているが，「あまり」については触れていなかった[99]．「あまり」と「せっかく」の関連について触れたのは西（2005）である．西（2005）は，渡辺（2001）で指摘した「せっかく」の特徴を，蓮沼（1987）の「価値顕現義務の原則」と名嶋（2003）の「論理構造」の概念を援用して説明し，「あまり」と「せっかく」は共通の論理構造を有すると分析している（例文 8-9）．

（8）せっかく母が作ったのだからみんなで食べよう．

せっかく母が料理を作った	だから食べなければならない	みんなで食べよう
P 根拠	R 判断	Q 判断に基づく発話行為

（以上，西 2005：42 より引用）

（9）あんまりおいしかったのでつい食べ過ぎた．

(その料理は)あんまりおいしい[100]	とても気に入った	だから食べ過ぎた
P 根拠	R 判断	Q 結果

（以上，西 2005：46 より引用）

[99] 渡辺（2001）は，のちに「とても」「よほど」を取り上げている．

[100] 「あんまり」に関しては，森田（1989：73-74）と西（2005：50）で指摘されているように，「あまり」の「口頭語」（口語形）とすることができる．「あんまし」も同じく口頭語とする．ただし，「あんまり」が単独で述語になるという用法（例えば，「なんてことを！あんまりだ！」）の場合は「あまり」に置き換えられない．

「せっかく」と「あまり」の共通性に関する西（2005）の指摘は実に興味深いのだが，「見越しの評価」との関連については特に言及していない．また，「論理構造」で例文（9）を説明するとなると，「大変おいしかったのでつい食べ過ぎた.」「意外においしかったのでつい食べ過ぎた.」「噂通りおいしかったのでつい食べ過ぎた.」など，「あまり」も結局のところ複文の構造を要求しない「大変」や「意外に」ないし「噂通り」の類の副詞と同じ論理構造（P 根拠）になるので，必ずしも「あまり」固有の特徴を反映した説明ではない．

以上，先行研究の問題点を踏まえ，本研究では，改めて渡辺（1980）の「見越しの評価」の観点から「あまり」の特徴を分析する．

6.3. 「あまり」の構文的特徴

6.3.1. 複文の構造

6.2.節で見たように，述語の否定形と呼応する場合，「あまり」は単文と複文に関わらず，生起することができる．それに対して，述語の肯定形に使われる場合，単文に生起せず，従属節に生起し，「従属節—主節」という複文の構造を要求する（例文 10a-d）．

（10）a. あんまりおいしそうだったから，味見しようかなーなんて…

（藤子・F・不二雄原作『ドラえもん』「恐怖のジャイ子カレー」2010 年 12 月 3 日放送分）

b. あまり頼子がすらすらいうので，里子がどぎまぎしていると，…

（BCCWJ／書籍／9 文学『化粧』渡辺淳一著 朝日新聞社）

c. あまり狭いと糸を張る手間と経費がかさみます．（例文 1e の一部再掲）

d. あまりぼけすぎると，人物との境目が不自然に感じますので適度にします．

（BCCWJ／書籍／0 総記『いますぐ使える Photoshop Elements for Windows』村上俊一著 技術評論社）

くだけた会話では，「あまり頼子がすらすらいうから…」など，従属節（前件 P）の部分のみ言語化し，主節（後件 Q）を省略するという場合（例文 11a-c）もあるが，一般的な状況では，「せっかく」「なまじ」と同様に「あまり」も前件 P だけでなく，後件 Q との意味的組み合わせがなければならない．言い切りの単文（前件 P のみ）では意味的要請が満たされず，非文になる（例文 12a-d）．「せっかく」に関しても，類似した制限が見られる（例文 13-14）．

（11）a. あまりおいしそうだったから…

b. あまり頼子がすらすら言うので…

c. あまり狭いと…

d. あまりぼけすぎると…

（12）a. *あまりおいしそうでした.

b. *あまり頼子がすらすら言いました.

c. *（テグスを張る幅は）あまり狭い.

d. *（レイヤー＝ぼかした背景が）あまりぼける.

（以上例文 11-12，例文 10a-c より改変）

（13）a. せっかく大学に入ったのに…

b. せっかく切符を手に入れたのだから…

（14）a.*せっかくパリまで来ました.

b. *せっかく雨が止んだ.

（以上例文 13-14，渡辺 2001：31 より引用）

このように，主節（後件 Q）が省略されていても，「のに」や「ので」などの接続助詞・接続形式で続きの内容が読み取れる場合，まったく自然な文（節）であるが，例文（12a-c）や（14a,b）のように言い切りの単文だと非文になる.

複文の構造に関連する問題点は以下各節で述べることにし，次に「あまり」と共起可能な接続の形式を見ていく.

6.3.2. 接続の形式

BCCWJ で「あまり」の接続の形式を観察した結果，「なまじ」と同様に，主に原因・理由を表す接続形式を伴う用法，条件を表す接続形式を伴う用法，圧縮用法が観察された[101].

[101] BCCWJ（中納言・通常版）における副詞としての「あまり」の検索結果が合計 16,507 件であり，そのほとんどが，否定形を伴うものである．そのため，本章では BCCWJ 以外の用例

しかし，現代日本語で「あまり」は述語の否定形との呼応が主な用法として定着しているため，BCCWJ（その他の資料を含む）では述語の肯定形との呼応の用例があまり見つからず，相対的に観察可能な接続の形式の種類も（述語の否定形に比べて）少ない．さらに後述するが，「あまり」は述語の肯定形と呼応する場合，「のに」「のだから」と共起不可である．共起制限が多いのも，接続の形式の種類が少ない原因の一つであると考えられる．ここでは，一旦「あまり」の基本的用法を次のように整理する．

あまり P カラ／ノデ，Q

あまり P ト，Q

あまりの P，Q

上記の文型（モデル）はあくまで「あまり」の基本的用法であって，実例の「あまり」構文では，前件 P と後件 Q を繋ぐ形式の種類に次のようなものが観察される．

順接用法：

「から」「ので」「ものだから」「ため」

条件表現：

「V と」「V ば」「V たら」「V なら」「V ても」

圧縮用法：

（連体修飾用法）「あまりの N（に）」「あまりの N だから」

を補助として使用する．なお，第 5 章（5.3.2.節）「なまじ」の「接続の形式」で言及したように，本研究では，各副詞と共起可能な形式の種類の整理を目的にしており，それぞれの形式の出現率の調査を目的にしていないため，数値およびデータの統計的分析に関しては今後の課題とする．

まず，因果関係を表すものに「から」「ので」の他，「ものだから」「ため」[102]（例文 15a-d）がある．こうした用法は，「せっかく」「なまじ」の「順接用法」と類似している．

（15）a. おれもあまり嬉しかったから，もう田舎へは行かない，東京で清とうちを持つんだと云った．　（BCCWJ／書籍／9 文学『坊ちゃん』夏目漱石著 角川書店）

b. あまり突然なので急には返事ができなかった．

（森田 1989：74 における例文）

c. 帰国した木暮（実千代）は，当時学生だったおいの黒川鍾信（あつのぶ）さんに「リオの夜景は美しかったけど，故郷福浦の夜景のほうがもっときれいだわ」としきりに語った．あまり言うものだから，リオより夜景が美しい場所なんてどんなところかと，黒川さんは大学の夏休みを利用して，木暮の実家があった下関市彦島福浦の地を訪ねた．

（山口新聞「四季風」2015 年 1 月 27 日）

d. 「ままかり」はニシン科の魚で，岡山近辺での呼び名．その味があまりおいしいため，自分のところのご飯を食べつくしてしまい，隣から「まま（飯）」を借りるほど食が進むという意味でうけられたとのこと．

（UCHI 海 ASOBI「大村湾産オイルサーディン」http://uchiumi557.jugem.jp/）

次に，条件を表すものの場合，「あまり」は「なまじ」と同じ，「と」（例文 16a,b）との共起がよく観察されるが，「ても」「ば」「たら」「なら」なども観察される（例文 17-20）．条件を表す各形式間の交替や，主節（後件 Q）の内容については，のちに 6.4.2.節で議論する．

（16） a. 容姿はあまり派手すぎると，かえってひかれます．　（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

b. あまり速く走ると，かえって完走できなくなる．

（日経 BP「いよいよ成田を出発 自信と不安のなかホノルルへ」）

（www.nikkeibp.co.jp/style/secondstage/tanoshimu/marathon_051215_2.html）

[102] 「ため」と「ために」の両方と共起可能な「なまじ」と異なって，「あまり」は「ために」と共起する例は観察されなかった．杉本（2014）によれば，「理由の『ため（に）』の場合，接続助詞的な性格から『に』が脱落しやすい（p.64）」．しかしながら，なぜ「あまり」構文において，「ため」は現れて「ために」は現れないのかに関しては，本研究では別課題とする．

（17）a. あまり言っても逆効果ですよね？どういう寝かし方があるのでしょうか？ぜひ，
教えて下さい…　（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

b. あまり水が多すぎても腐ってしまいますので気をつけて．
（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

（18） a. あまり言えば嘘ついたり隠れて連絡したり会ったりするようになるので，
あまりうるさくいうのはオススメしません．
（読売新聞「発言小町」http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2013/1025/625374.htm）

b. （円高が）あまり行き過ぎれば断固たる措置を取らなければならない．
（「財務相：過度な円高には「断固たる措置」－事務方に対応準備指示(2)」 2011 年 10 月 24 日
ブルームバーグ ニュース www.bloomberg.co.jp/news/123-LTJM3H6JIJUX01.html）

（19）a. あまり礼儀で儀式張っていたら，自在性がないから，かえって生きないですね．
（BCCWJ／書籍／1 哲学『自分を変えれば未来が変わる』深見東州著 たちばな出版）

b.「今の若い子はあまり言ったらダメだから」と言うのは，ミカンをほったらかし
にするのと同じです．
（中谷彰宏『リーダーの星―リーダーに生まれた君の 33 の魔法』中谷彰宏事務所）

（20）「あまり言うならしばらく会わない．私の選択した道です．」
（読売新聞「発言小町」http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1219/561683.htm）

ここまで見て，「あまり」が要求する「従属節―主節」という複文の構造や，主節の省略の可否の制限などは，「せっかく」と極めて類似していると考えられる．しかし，次のように違いも観察される．いずれも，本来の個別の副詞の意味によるものであると考えられる．ここでは，三つの相違点を挙げる．

まず，「せっかく」は「のに」「のだから」の両方と共起し，逆接用法と順接用法を持つのに対し，「あまり」は「のに」と共起せず，つまり逆接用法を持たない．さらに順接用法

では，「あまり」は「のだから」と共起しない[103]（例文 21c）．その代わり，原因・理由を表す「から」「ので」や「ものだから」と共起する（例文 21a,b，22）．

（21） あまりうまいものだから，驚いてしまった．
あまりうまいから，驚いてしまった．
*あまりうまいんだから，驚いてしまった．

（22）「これ，本当に，彼女がサインしたものですか？ ミスター・ハシグチ」と，きいた．橋口は，キャサリンが，あまりまじめにきくので，驚いて，「そうですが，何か？」ときいた．「ノー．あまりうまいものだから」「今や，日本一の女性デザイナーですからね．このくらいのスケッチは，簡単でしょう」と，橋口はいった．
（BCCWJ／書籍／9 文学『燃えた花嫁』山村美紗著 講談社）

次に，「せっかく」は既定条件を表す「ても」「なら」と共起するが，「と」「ば」「たら」とは共起しない．それに対して，「あまり」は「と」「ば」「たら」とも共起する．この点に関しては「あまり」は第５章で紹介した「なまじ」に類似している．なお，これは構文的特徴の問題というよりも，意味的特徴の問題であるため，6.4.2.節の「既定性」との関連で後述する．

---

103 「のだから」に関しては，これまでさまざまな議論が行なわれてきた．主に次のような学説がある．まず，聞き手への「提示」という観点から説明したのは，田野村（1990）と野田（1997）である．田野村（1990）は，「前件 P をすでに疑念の余地なく定まったことがらとして提示し，それを十分な根拠として後件 Q を発言するもの（pp.102-103）」と説明を試みている．一方，野田（1997）は，「『のだから』の文の話し手は，聞き手が知っているはずだが，その時に十分認識していないと思われる事態をあらためて従属節に提示し，十分認識させようとしている（p.180）」と説明している．次に，「判断・立場の相違」と「同意・同調（の求め）」という観点からの説明である．桑原（2003）は，「話し手と聞き手の間に判断・立場の相違があり，話し手がそれを明確に意識して，聞き手に対して話し手に強く同意・同調を求める（p.63）」時に使われるとしている．そして，「論理関係」という観点に基づく説明である．名嶋（2003）は，「P（論理的根拠）」—「R（論理的帰結）および判断」—「Q 発話」の間にある「必然的な論理関係」の一構成要素として「のだから」を位置づけている．蓮沼・有田・前田（2001）は，「のだから」の後件には「単に事実を報告する表現は使えない（p.130）」．その代わり，「話し手の判断・評価・意志・希望や，命令・依頼・勧誘など，話し手の強い主張を表す表現が続く（p.129）」．そのため，「*このワイングラス，高かったンデスカラお金がなくなってしまいました．」や「*天気がよかったンデスカラサイクリングに行きました」などのように，「事実の報告」が続くとなると非文になる．「せっかく天気がいいんだから，外で食べない？」などの「勧誘」（提案）が続くと自然である．「あまり」と「のだから」が共起不可の理由については，「のだ」との関わりで議論する必要があり，今後の課題とする．

最後に,「あまり」は,「せっかく」「なまじ」と同様に,圧縮用法の一種である連体修飾用法においても類似した特徴が観察される（例文 23a-c）. しかし,「あまりの P, Q」の他,「あまり」には「P のあまり，Q」という用法が存在している. この用法は,「せっかく」「なまじ」に見られない[104].

（23） a. せっかくのチャンスを逃すわけにはいかない.

（BCCWJ／書籍／9 文学『封印された手紙』遠野春日著 講談社）

b. なまじの語学の才など持ち合わせなければよかった. （BCCWJ／書籍／9 文学『将軍　上巻』ジェームズ・クラベル著，宮川一郎訳 ティビーエス・ブリタニカ）

c. あまりの嬉しさに我を忘れて発した叫び声は彼の身辺の四辺から起った.

（BCCWJ／書籍／9 文学『ちくま日本文学全集 13』筑摩書房）

（22）清盛は嬉しさのあまり，声をあげて泣いたと伝えられる.

（BCCWJ／書籍／9 文学『義経の母』安西篤子著 集英社）

「P のあまり，Q」の用法は,「あまり」の特徴的なものであるが,「せっかく」「なまじ」に見られない用法であるため，本研究では扱わず,「せっかく」「なまじ」「あまり」と共通する圧縮用法（連体修飾用法）を中心に見ていくことにする.

6.3.3. 「圧縮用法」について

6.3.1.節でも言及したが,「あまり」は,「せっかく」「なまじ」と同様に,「従属節—主節」という複文の構造をとらず，また，接続の形式を伴わない圧縮用法がある（例文 23a-c）. いずれも，複文の構造に還元することができる（例文 23d-f）.

（23） a. せっかくのチャンスを逃すわけにはいかない.

b. なまじの語学の才など持ち合わせなければよかった.

c. あまりの嬉しさに我を忘れて発した叫び声は彼の身辺の四辺から起った.

（再掲）

104 「あまりの P，Q」「P のあまり，Q」という二つの用法の違いや意味制限に関する詳しい議論は兼行（2012）でなされている.

d. せっかくチャンスを手に入れたのだから，逃がすわけにはいかない.

e. なまじ語学の才があったので，（かえって）苦労してしまった.

f. あまり嬉しかったため我を忘れて発した叫び声は，彼の身辺の四辺から起った.

上記例文（23c）のように，「あまりの P，Q」という連体修飾用法については，「あまりの P に，Q」のように Q に「に」を後接した用法が非常に多く観察される（例文 24a-c）．「で」の後接も観察されるものの，「原因・理由」を表す「で」に限られる（例文 25a-c）．なお，「を」（直接目的語）の後接も観察されるが，心理動詞に限られる（例文 26a-e）．

（24） a. あまりの破壊力に，敵味方もろとも呆然と動きを止めていた.

（BCCWJ／書籍／9 文学『ムシウタ』岩井恭平著 角川書店）

b. 彼のあまりの証言ぶりに，弁護団は自粛申し合せをやめて積極的に追及の反対尋問を行なった.

（BCCWJ／書籍／3 社会科学『ディベートからみた東京裁判』北岡俊明著 PHP 研究所）

c. 「あまりの美味しさにすっかりハマってしまった」そうです.

（読売新聞「大手小町」「次なるブームは『ぎゅうぎゅう焼き』か？」2015 年 10 月 28 日）

（25） a. 台湾のお土産でお肉のでんぶのようなものを頂きました．あまりのおいしさで忘れられません.

（Yahoo! 知恵袋 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1036924060）

b. ちゃんぽん誕生は明治時代．もともと中華料理店『四海樓』の創業者がお腹をすかせた中国人留学生のために作っていたのが，あまりのおいしさで評判を呼び，たちまち長崎を代表する麺料理になったという味な歴史をもちます.

（長崎市公式観光サイト http://www.at-nagasaki.jp/champon/）

c. 私は，生命が蘇ったあまりの嬉しさで，目が冴えて寝つけない.

（金城清純『大病記』文芸社）

(26) a. そして山形の実家に戻った時，ふとある思い出が蘇りました．それは学生時代に合宿で訪れた際，長野県で買って食べたあの時の「ぶどうジャムの美味しさの感動！」でした．そのあまりのおいしさを思い出し，自分も人に感動を与えられるような食品づくりをしたいと強く思ったそうです．

（テレビ東京「虎ノ門市場」公式サイト
www.toranomon-ichiba.com/top/detail/asp/detail.asp?gcode=DN034652）

b. 気の弱いハムスターの中には，あまりの恐怖を感じると震えるハムスターもいます．震えるほど怖い目に遭わせないでね．

（とことんハムスター飼育情報 http://tokotonn86.fc2web.com/sigusa.html）

c. *あまりの事態を報告した．

d. *あまりのおいしさを左右する．（例文 26a の改変）

e. *あまりの恐怖を乗り越えた．（例文 26b の改変）

なお，第４章と第５章で観察された，前件 P が文章の途中で「体言止めの文」で一旦途切れるという「破格用法」は，「あまりに（も）」は観察されたが（例文 27），「あまり」には観察されなかった．

(27) その数時間前に，夫と「リハビリで筋肉がついてきたよ」「春にはお花見に行けるね」と話したばかりでした．あまりに短かった在宅介護生活．病院にいた方が良かったかもとの思いは消えません．

（読売新聞「ケアノート：yomiDr. ／ヨミドクター」
「常に『良妻』求める世間…プレッシャーだった夫の介護」2015 年 10 月 18 日）

「あまり」に「破格用法」が見られない理由の一つに，「せっかく」や「なまじ」と異なって，「あまり」には二つの用法（述語の肯定形と共に使われる用法と，述語の否定形と共に使われる用法）があるためではないかと考えられる．「せっかく」「なまじ」には，一つの用法だけであり，前後の文脈に複文構造に復元可能な意味的関係があることをはっきり示しているため，「破格用法」が容認される．それに対して，「あまり」には，二つの用法があり，そのうち述語の否定形と共に使われる場合は，必ずしも後件が伴われるとは限ら

ない.「あまり」(述語の肯定形と共に使われる場合)に「破格用法」が見られないのは,このように「あまり」が二つの用法を持つという性質の反映ではないかと考えられる.

ここまで,「あまり」の構文的特徴を見てきた.次節から意味的特徴を詳細に見ていく.

6.4. 「あまり」の意味的特徴

6.4.1. 述語修飾の制限

グループ・ジャマシイ(1998)によれば,「あまり」は「形容詞に付くのがふつうだが(中略)動詞に付くこともある(p.11)」と解説している(例文 28).飛田・浅田(1994:13)は,「述語にかかる修飾語(の用法)」(例文 29a-c),「名詞にかかる修飾語(の用法)」(例文 30a,b),そして「述語の用法」(例文 31)があるとしている.

(28) 彼があまりに僕の失敗を笑うから,だんだん腹が立ってきてなぐってしまった.

(グループ・ジャマシイ 1998:11)

(29) a. あまり食べ過ぎると体に毒だよ.

b. あんまし寒いと出かけるのが億劫だ.

c. 赤ん坊があまりにうるさいから表へ出た.

(30) a. 被災地はあまりといえばあまりな悲惨さだった.

b. 帳簿を見てあまりのずさんさにあきれた.

(31) みんなぼくのせいにするなんてあんまりだ.

(以上,浅田・飛田 1994:13 における例文.下線は本研究による)

上記の先行研究では「あまり」と「あまりに・あまりにも」の違いをはっきり区別していないが,「あまり」が使用されている例文(29a,b)だけ見ると,動詞述語(「食べ過ぎる」=量)と形容詞述語(「寒い」=程度)が観察される.いずれも,「過度の状態」を表している.

「寒い」「うるさい」「犠牲が大きい」などといった形容詞述語を修飾するのは「あまり」の「程度副詞」としての本来の職能・機能であると考えられるが,動詞述語の場合はどう

なのか．例文（29a）の「あまり食べ過ぎると…」は，「…過ぎる」を言語化せず「あまり食べると…」と言い換えられる．しかしその場合でも，単に「(普通に）食べる」という動作だけではなく，「量が多い（という状態)」や「過度に食べる（という状態)」と解釈する必要がある．例文（28）の動詞「笑う」に関しても，同じような解釈である．

その裏づけとして，形容詞述語「あまり寒いと…」が名詞述語「あまりの寒さ」に言い換えられるのに対して，動詞述語「あまり食べると…」や「あまり笑うから…」の場合は，そのままただ名詞化して「*あまりの食事[105]」「??あまりの笑い」に言い換えられない．その代わりに，食べる・笑う量が多いことを明示する「あまりの食べっぷり」「あまりの笑いよう」のように言うか，あるいは形容詞成分を含む「あまりの食べやすさ」「あまりの笑いのなさ」など，状態的な意味が入り，つまり「食べている状態」「笑っている状態」に関する意味がはっきりしていれば，言い換えが可能になる．なお，名詞述語つまり「あまりのN」という型をとっている例文（30a,b）の「悲惨さ」「ずさんさ」に関しては，もともと形容詞であるため，いずれも「状態」がはっきりしている．

このように，第４章と第５章で見てきた「せっかく」「なまじ」と異なり，「あまり」は本来の「程度副詞」としての本来の職能・機能から，主に形容詞を修飾するが，実際には動詞も修飾する場合がある．しかし，述語の種類にかかわらず，つまり形容詞述語でも，動詞述語でも，基本的に「状態（量・程度が過度の状態にあるということ)」を修飾し，述語の内容の「状態性」を要求するのである．

6.4.2.「既定性」との関わり

「あまり」の「『見越しの評価』を表す副詞」の特徴の一つとして，前件 P に既定性を要求するという性質がある．

6.3.2.節で触れたが，「あまり」は「と」節（例文 32a-d）の他「ば」節（例文 33a,b)，「たら」節（例文 34a,b)，さらに「なら」節（例文 35a-c)，「ても」節（36a,b）でも観察された．以下，「と」「ても」「ば」「たら」「なら」の順番で見ていく．なお，例文（32d）（33b）（35b,c）は「あまりに（も)」の例文であるが，自然度が少し下がるものの，「あまり」への言い換えは可能であるため，ここで補助の用例として使用する．

---

[105] また，「*あまりの食べ」も容認されない．しかしこれは「食べる」という動詞がもともと「食べ」に名詞化することができないという問題であるため，「あまり」の使用に関わる問題ではない．

「と」節

(32) a. ただし，あまりカラフルだと，かえってポイントがボヤけてしまいます.

（BCCWJ／書籍／0 総記『手帳とノート魔法の活用術』和田茂夫著 技術評論社）

b. 今までは裸眼です．あまり強いものだと，慣れるまで大変ですから自分の視力によく合うものを選んだほうがいいと思います．（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

c. あまり多額な香典を贈るとかえって遺族はとまどいます.

（BCCWJ／書籍／3 社会科学『葬儀・社葬の行い方』礼法研究会編著 梧桐書院）

d. 登場人物があまり（にも）多すぎると，とうぜん頭が混乱してくる.

（BCCWJ／書籍／9 文学『走れ蝸牛』．括弧は本研究による）

「ば」節

(33) a. （円高が）あまり行き過ぎれば断固たる措置を取らなければならない.

（「財務相：過度な円高には「断固たる措置」－事務方に対応準備指示(2)」 2011 年 10 月 24 日 ブルームバーグ ニュース www.bloomberg.co.jp/news/123-LTJM3H6JIJUX01.html）

b. あまり（に）細かく，頻繁に測定されフィードバック情報を要求されれば，人間はいやになってしまう.

（BCCWJ／書籍／3 社会科学『ゼミナール経営学入門』伊丹敬之・加護野忠雄著 日本経済新聞社 括弧は本研究による）

「たら」節

(34) a. あまり礼儀で儀式張っていたら，自在性がないから，かえって生きないですね.

（BCCWJ／書籍／1 哲学『自分を変えれば未来が変わる』深見東州著 たちばな出版）

b.「今の若い子はあまり言ったらダメだから」と言うのは，ミカンをほったらかしにするのと同じです.

（中谷彰宏『リーダーの星―リーダーに生まれた君の 33 の魔法』中谷彰宏事務所）

「なら」節

(35) a.「あまり言うならしばらく会わない．私の選択した道です.」

（読売新聞「発言小町」http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1219/561683.htm）

b. あまり（に）漠然としているなら，こういう言い方だとわかりやすくなるかもしれない.（BCCWJ／書籍／3 社会科学『時間活用力をつける』下保進著 日本経済新聞社）

c. 無地の青や白のクッションがあまり（に）フォーマルに見えたり単調に感じるなら，対照的な青色のリボンで装飾された小物を探すか，手持ちの無地のクッションにリボンをつけてもよいでしょう．

（BCCWJ／書籍／5 技術・工学『ブルー&ホワイトの美しい部屋』ヴィクトリア編集部著，奥野節子訳 ダイヤモンド社）

「ても」節

（36）a. あまり言っても逆効果ですよね？どういう寝かし方があるのでしょうか？ぜひ，教えて下さい…　（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

b. あまり水が多すぎても腐ってしまいますので気をつけて．

（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

まず，「と」節に現れる例文の分析を行なう．第５章では，「なまじ…と」は「自然的・必然的帰結」（寺村 1981；坪本 1993）を表すということに触れた．例文（32d）を見ると「あまり P と，とうぜん Q」の型をとり，前件 P と後件 Q が必然的な関係であることを表している．これは次の「と」条件文が表す動作の継起的な関係（37a）や，習慣・反復（37b），一般条件（37c），過去の事実（37d）の用法と異なっている．

（37）a. このボタンを押すと，警報機が鳴ります．（継起的）

b. お腹が空くと，いつもおにぎりを食べる．（習慣・反復）

c. １と１を足すと２になる．　（一般的・一般条件）

（坪本 1993：120）

d. 医者に言われた通り，朝食後にその薬を飲むと，よく効いて，昼時には痛みもだいぶおさまった．　（蓮沼 1993：79）

例文（32a-d）は，「あまり P と，Q」という型をとっているが，「あまり P から，Q」に言い換えることができる．それに対して，例文（37a-d）における「と」条件文はすべて「から」に言い換えることができない．

（32’）a. あまりカラフルだから，かえってポイントがボヤけてしまい｛ます／ました｝.

b. 今までは裸眼です．あまり強いから，慣れるまで大変｛です／でした｝.

c. あまり多額な香典を贈るからかえって遺族はとまどいます.

d. 登場人物があまり（にも）多すぎるから，頭が混乱して｛くる／きた｝.

（37’）a. *このボタンを押すから，警報機が鳴り｛*ます／*ました｝.

b. *お腹が空くから，いつもおにぎりを｛*食べる／*食べた｝.

c. *１と１を足すから２に｛?なる／?なった｝.

d. *医者に言われた通り，朝食後にその薬を飲むから，よく効いて，昼時には痛みもだいぶおさまった.

そのため，「あまり」構文の「と」は，単に「仮定」を表すのではなく，「因果性」（工藤 1997）が見られ，「自然的・必然的帰結」（寺村 1981；坪本 1993）を表すと捉える必要がある．その裏づけとして，例文（32a-d）で「仮定」を表す「もし」が付加されると，容認度が下がり，特に（32d）の場合，後件 Q の「とうぜん」の意味と合わなくなる.

（32”） a. ??もし，あまりカラフルだと，かえってポイントがボヤけてしまいます.

b. ??今までは裸眼です．もしあまり強いものだと，慣れるまで大変ですから自分の視力によく合うものを選んだほうがいいと思います.

c. ??もしあまり多額な香典を贈るとかえって遺族はとまどいます.

d. ??もし登場人物があまり（にも）多すぎると，とうぜん頭が混乱してくる.

次に，「ても」節の特徴について説明する．「あまり」構文において，「ても」は「と」に置き換えられる（例文 36’a,b）．第４章で「せっかく P ても，Q」における「ても」は，「既定的」であり「既定条件」（蓮沼 2012，2014）を表し，「たとえ」と組み合わせられないという現象を見てきた．「あまり P ても，Q」に関しても，同じような現象が見られる．「あまり P ても，Q」は「あまり P と，Q」と交替可能であるということや，「たとえ」と組み合わせられないという現象（例文 43”）は，「あまり P ても，Q」における「ても」は「仮定的ではない」ということを再び示唆してくれる.

（36’）a. あまり｛言っても／言うと｝逆効果ですよね？

b. あまり水が｛多すぎても／多すぎると｝腐ってしまいますので気をつけて.

（36”）a. *たとえあまり言っても逆効果ですよね？

b. *たとえあまり水が多すぎても腐ってしまいますので気をつけて.

続いて，「ば」節の特徴を説明する．第５章で言及したが，「ば」は「論理的帰結」（寺村 1981；坪本 1993）を表す.「あまり P ば，Q」では，「ば」の「と」への言い換えが可能である（例文 33’a,b）.

（33’） a. （円高が）あまり行き過ぎ｛ れば ／ ると］断固たる措置を取らなければならない.

b. あまりに細かく，頻繁に測定されフィードバック情報を要求され｛ れば ／ ると］，人間はいやになってしまう.

このように，上記の「あまり P ば，Q」という型は，「あまり P と，Q」と用法の重なりが見られ，前件 P と後件 Q の間に因果性が見られる.

最後に，「たら」節の場合について説明する.「あまり P たら，Q」は，「と」「ても」とに置き換えられる.「ば」には置き換えられないものの（例文 34’a,b），置き換えられる例はいずれも「自然的・必然的帰結」と捉えることができる.

（34’）a. あまり礼儀で儀式張って｛いたら／いると／いても／*いれば｝，自在性がないから，かえって生きないですね.

b.「今の若い子はあまり｛言ったら／言うと／言っても／*言えば｝ダメだから」と言うのは，ミカンをほったらかしにするのと同じです.

最後に，「なら」節の場合に関してである.「あまりに P なら，Q」の用例は多く観察されたが，「あまり」の用例は特定な述語に限られている．例えば「あまり言うなら…」は言えるが，「*あまりおいしいなら…」は言えない．また，下記の例文における「なら」は「と」

「ば」「たら」「ても」に置き換えられない．これは「なら」の特殊性が理由の一つであり，後件 Q の「しばらく会わない」「言い方を変える」「他の小物を探す」など，話し手の評価を表すというよりも意志を表しているため，後件に意志表現を伴わないという制限を持つ「と」の用法と馴染まないからだと考えられる．

（35’）a.「あまり｛言うなら／*言うと／*言えば／??言ったら｝しばらく会わない．私の選択した道です.」

b. あまり（に）漠然として｛いるなら／*いると／*いれば／*いたら｝，こういう言い方だとわかりやすくなるかもしれない.

c. 無地の青や白のクッションがあまり（に）フォーマルに見えたり単調に｛感じるなら／*感じると／*感じれば／??感じたら｝, 対照的な青色のリボンで装飾された小物を探すか，手持ちの無地のクッションにリボンをつけてもよいでしょう．

「あまり」と「と」「ば」「たら」「なら」「ても」の個別の用法に関する議論は今後さらに追究する必要があるが，ここまでとし，本節の最後に「あまり」と「既定性」の関係について考えたい.

「あまり」は原因・理由を表す「から」「ので」「ものだから」「ため」と共起していて，これらの形式は「既定性」を持っているということは言うまでもない．しかし「あまり」もまた「なまじ」と同様に，さまざまな条件節の中に現れる．このうち，「ても」「なら」の条件節が既定性を持つことは「せっかく」について述べた 4 章で既に説明した. 残る「と」「ば」「たら」については，前件 P と後件 Q の間に因果関係または「自然的・必然的帰結」の関係が強く読み取れる場合には既定性を持つと言えそうである．ただし，本研究ではこれ以上議論できないため，今後取り組む問題とする.

以上のように，「あまり」が持つ特徴の数々（従属節に現れ，基本的に「既定性」を要求し，特定の原因・理由を表す接続助詞・接続表現や「自然的・必然的帰結」を表す条件表現に限って現れるなど）は，「『見越しの評価』を表す副詞」に共通するものである．最後に，「あまり」の個別の副詞としての意味的特徴を見ていこう.

6.4.3. 「価値」と「評価」

第４章で紹介したが，渡辺（2001）は，「せっかく」は「『P』への評価を表せればそれでよいのではなく，(I) せっかく P なのに Q でない (II) せっかく P だから Q しよう とモデル化したように，必ず『Q』まで言わなければならない（中略）しかもその『Q』はどんな内容でもよいというわけではなくて，Q は P に伴って実現することが期待され，かつその実現によって P の価値が完全となることが期待される事実でなければならない．(p.31)」と述べ，「せっかく」と「見越しの評価」との関係について議論している．

「あまり」は，本来，動詞の「余る」から「余り」へと名詞化し，さらに副詞に転じたものである．名詞としての「余り」に関しては，森田（1989）によれば，「必要を上回っているために生じた超過部分（p.73)」つまり「それに見合う以上に現状が上回っている（p.73)」ということから，「度を越して」「極度に」の意が生み出されている．

「あまり」は，「事物の数や量が予想できる場合は“過多”，事柄の程度を問題とする場合は“過度”，“極度”の意（森田 1989：74)」を表すと記述・解説されている．一方，話者の心理に関する記述もある．飛田・浅田（1994：13）によれば，「あまり」は「そのまま受け入れらないほど程度がはなはだしい様子」を表し，「ややマイナスイメージの語」である（例文 36a,b)．また，グループ・ジャマシイ（1998：11）も「程度が常識から考えて激しすぎること」を表し，「非難・マイナスの気持ちを表すことが多い」と記述している[106]．なお，東瀬戸（2000）は，「物事の程度が，必要，期待以上に及ぶさま」を表すと記述している．

上記の先行研究では，期待，非難など，話者の気持ちについての記述・解説はなされているものの，「評価」の観点からの記述はなされていない．

（36） a. あまり食べ過ぎると体に毒だよ．

b. あんまし（あまり）寒いと出かけるのが億劫だ．

（以上，飛田・浅田 1994：13 における例文．例文番号，下線，括弧内の文字は本研究による）

[106] ただし，グループ・ジャマシイ（1998）では，「あまり」を，否定形と呼応する用法を中心に紹介している．肯定形と呼応する用法の場合，「あまり」（あんまり）と「あまりに」や「あまりにも」との違いは特に区別されていない．

ここからは,「あまり」と「評価」の関係について考えてみよう.「あまり食べ過ぎると体に毒だ」(例文 36a)と「あまり寒いと出かけるのが億劫だ」(例文 36b)の言外の意味を考えると,それぞれ「食べ過ぎなければ体に毒にならない」「そんなに寒くなければ普通に出かける」といったものが挙げられる.具体的に「どれぐらいの一定の量を越えて食べれば毒になる」のか,また,「どれぐらいの温度(寒さ)になれば出かけたがらない」のかに関しては,字面通りの意味からも言外の意味からも表されておらず,推測する由もない.そのため,「あまり P」が表しているのは,単に P の量もしくは程度が受け止められないほど越えている状態への「非難・マイナスの気持ち」(グループ・ジャマシイ 1998)だけでなく,たとえ社会通念上プラスとされる事柄(「よく食べる」など)でも,量・程度が越えていると,マイナスになるという評価である.このような話者による「評価」は,「せっかく」や「なまじ」に通じる部分があるとも考えられる[107].

「あまり」(および「あまり」と呼応する「...過ぎる」)を取り除いてテストしてみると,一般的・客観的な条件として,「たとえ少量でも食べると体の毒になる」という「ある種の特殊な食べ物」(例文 37a)や,「少しでも肌寒く感じると出かけたがらなくなる」という「個人の習慣」(例文 37b)などといった,限定された状況や事象の述べ方となる.

(37) a. 食べると体に毒だよ.
b. 寒いと出かけるのが億劫だ.

したがって,「あまり」は,「程度副詞」としての意味機能を持っていると同時に,命題 P に対する話者の「(主観的な)評価」も表していると考えられる[108].

ここまで,「あまり」の前件 P の意味を中心に見てきたが,以下,後件 Q も見てみよう.例文(38a,b)を観察すると,前件 P(「食べ過ぎる」「寒い」)のみならず,後件 Q(「体に毒」「出かけるのが億劫」)などのように見越された事態ないし結果が言語化されていなければ,前後の意味的要請が満たされず,非文となる(例文 38'a,b).

---

[107] すでに 4 章と 5 章で議論したが,「病気」や「自宅出産」など,社会通念上マイナスな事柄であっても,話者がそれを「価値あり」と判断しているのであれば,「せっかく」を用いる場合がある.「なまじ」の場合,例えば「なまじの語学の才など持ち合わせなければよかった.」(BCCWJ)のように,具体的にどれぐらいのレベルの語学の才能を持っていて「なまじ(中途半端)」と自ら評したのか,話者の主観的評価に依存しているのである.

[108] 程度副詞と話者の「主観的評価」との関係について,これまでの研究でも議論されてきている.例えば,木下(2001)は「もっと」の「主観性」について論じ,茶谷(2014)は「よほど」の「程度性」「評価性」「叙法性」について論じている.

（38’） a. *あまり食べ過ぎる.

b. *あまり寒い.

「あまり」の後件 Q をもう少し詳細に観察すると，いずれも「せっかく」の場合のような「『実現が期待される』事態」や意志表現を伴う「勧誘（提案）」ではない．むしろ類似しているのは，「なまじ」の場合のような「期待に反して（かえって）好ましくない事態」である（例文 39a,b，40a）.

（39）a. あまり礼儀で儀式張っていたら，自在性がないから，かえって生きないですね.

（BCCWJ／書籍／1 哲学『自分を変えれば未来が変わる』深見東州著 たちばな出版）

b. あまり多額な香典を贈るとかえって遺族はとまどいます.

（BCCWJ／書籍／3 社会科学『葬儀・社葬の行い方』礼法研究会編著 梧桐書院）

（40）a. なまじ変装でもしたら，かえって君に怪しまれてしまう.

（BCCWJ／書籍／9 文学 『寝台特急「あさかぜ 1 号」殺人事件』西村京太郎著 徳間書店）

b. おまえはなまじ人よりも優れた能力を持っていたがために，そんな自明の理に気づかなかったのだ. （BCCWJ／書籍／9 文学『カーマロカ』三雲岳斗著 双葉社）

最後に，前件 P と後件 Q を総合して見てみよう.

（41）a. あまり速く走ると，かえって完走できなくなる. （日経 BP）

b. 彼はあまり速く走ったので，私は追いつけなかった. （本研究による作例）

c. あまり厳しすぎるのも考えもの. （BCCWJ／書籍／3 社会科学『小さな会社のそのまま使える社内文書実例 185』坂山丈俊，松尾里央，関口雄太著 成美堂出版）

d. あまり突然なので急には返事ができなかった. （森田 1989：74 における例文）

（42）a.*あまり速く走ると，完走できる.

b. *彼はあまり速く走ったので，私は追いつくことができた.

c. *あまり厳しすぎるのもいいですね.

d. *あまり突然なので急には返事ができた.

「厳しい」（例文 41c）や「突然」（例文 41d）は人によってプラス・マイナスの捉え方は異なるが，「あまり厳し過ぎる」「あまり突然」のように，「あまり」によって余分・過剰の意味が付加されると，特殊な状況設定ではない限り，マイナスに評価されるのが一般的であろう．「マイナスに評価される事態 P」のせいで，「考えもの（考え直す）」「返事できなかった」など，好ましくない結果 Q に至るのである（41c,d）．

一方，「速く走る」（例文 41a），すわなち「俊足」は，社会通念上，「プラスに評価される事態」である．では，「プラスに評価される事態」の場合，好ましい結果になるのだろうか．例文（41a）が示すように，「速く走（れ）ること」という「プラス」（価値あり）でも，度を越えると，さらにプラスの事態や好ましい結果（「完走すること」）ではなく，逆に，期待に反するマイナスの事態や好ましくない結果に繋がる．後件 Q がプラスの事態や好ましい結果の例文（42a,b）が，いずれも非文になっていることがその裏づけである．例文（41a）の「完走できなくなる」という後件 Q は，未実現・未発生であるが，話し手が前件 P を以って必然的にそうなると見越した事態である．この場合，「あまり…過ぎると」という形が多用される．このように，「あまり＋（述語の）肯定形」の前件 P には「マイナスに評価される事態」のみならず，「プラスに評価される事態」が立つことも可能である．しかしながら，プラスでも，後件 Q は「さらなるプラスの事態や結果」へと発展するのではなく，逆に「マイナスの事態や結果」になる．「せっかく」「なまじ」の前件 P は基本的に「価値のある事態」や，話者にとって「好ましい事態」「プラスに評価される事態」が来るのとは異なっている．しかし「あまり」もまた「なまじ」と同様に，前件 P がプラスでも，後件 Q がマイナスの事態になるのである．

以上を総合すると，「あまり」は，単に程度の大きさ・激しさだけでなく，「あまり」が修飾しているプラスもしくはマイナスの事態（前件 P）が，度を越えて，必然的にマイナスの事態（後件 Q）に至るかもしれないという話者の「見越しの評価」もしくは至ったという話者の慨嘆を表す．そのため，「あまり」は「せっかく」「なまじ」と同様に「『見越しの評価』を表す副詞」の一つであると考えられ，このことから「『見越しの評価』を表す副詞」は「陳述副詞」に限らないということが言えよう．

6.5. 本章のまとめ

本章では，「程度副詞」とされる「あまり」を取り上げ，「せっかく」「なまじ」と比較しながら，その構文的特徴と意味的特徴を，コーパスデータで議論してきた．

その結果として，「あまり」の構文的特徴には，次のようなものが挙げられる．

第一に，「あまり」は，従属節に生起し，「従属節—主節」という複文の構造を要求する．単文だけでは，意味的要請が満たされず，非文になる．

第二に，「あまり」の従属節末に現れる接続の形式には，「カラ／ノデ」などのように，順接的な因果関係を表すものがある一方，「ト」のように，条件を表すものも観察された．なお，「あまり」は「のに」や「のだから」と共起しない．

第三に，「あまり」は「せっかく」「なまじ」と同様に，「従属節—主節」という複文の構造をとらず，また，接続の形式を伴わない「圧縮用法」がある．また，複文の構造に還元することができる．

一方，「あまり」の意味的特徴には，次のようなものが挙げられる．

第一に，「あまり」は述語の種類（動詞述語，形容詞述語，名詞述語）を問わず，基本的に「状態」（過度の状態）を修飾し，述語内容の「状態性」を要求する．これは「程度副詞」としての性質に由来するものである．

第二に，「あまり」は原因・理由を表す「から」「ので」「ものだから」「ため」と共起していて，これらの形式は「既定性」を持っているということは言うまでもない．「既定性」の要求は「『見越しの評価』を表す副詞」としての性質に由来するものである．ところが，「あまり」もまた「なまじ」と同様に，さまざまな条件節の中に現れている．しかし，「と」「ば」「たら」節に現れる場合，「あまり」の前件 P と後件 Q は，因果関係または「自然的・必然的帰結」の関係が読み取れる．

第三に，「あまり」は単に程度の大きさ・激しさだけでなく，「あまり」が修飾している事態（前件 P）が，度を越えると，必然的にマイナスの事態（後件 Q）に至ってしまう，もしくは至ってしまったと話者が見越した評価と気持ちを表す．

第７章　「ただでさえ」の分析

7.1. はじめに

第６章では，従来「程度副詞」とされてきた「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの)」を取り上げ，「『見越しの評価』を表す副詞」の性質を有するということを見てきた．本章では，渡辺（1983）が示唆した「構文論的に所属が不明な副詞」の一つと考えられる「ただでさえ[109]」の構文的特徴と意味的特徴の記述を通して，「ただでさえ」も「『見越しの評価』を表す副詞」の中の「程度タイプのもの」の一つであることを論じる．本章の構成は次の通りである．まず，「ただでさえ」はこれまでの章で扱った副詞と違って，例えば国語辞典などでは「連語」とされている場合がある．しかし，決して「連語」ではなく一つの副詞なのであるということを論じるため，7.2.節では，「さえ」と「ただ」の先行研究を概観しつつ，「ただでさえ」との相違を議論する．7.3.節では，「ただでさえ」の構文的特徴を論じる．7.4.節では，「ただでさえ」の意味的特徴を分析し，7.5.節で本章をまとめる．

7.2.　問題の所在

とりたて（助）詞「さえ」と多機能語[110]「ただ」に関する研究はこれまで，多くなされてきた．しかし，「ただでさえ」に関しては，林（2013a，2014）を除いて，議論されていない．「ただでさえ」は，「ただ」と「さえ」（「でさえ」）から構成されていると考えられるものの，その組み合わせからは予測できない構文的・意味的特徴が観察される．

---

109 「ただでさえ」の古い表現に「ださえ」があり，類義語に「ただですら」がある．「さえ」と「すら」の違いについては，沼田（2009：180-191）で詳細な議論がなされている．本章では，現代日本語での「ただでさえ」と「ただですら」を基本的に同じだと見なす．

110 「ただ」は，「無料」と同義の用法（例えば，「ただでもらえる」，「ただ働き」）を除くと，主な用法には，名詞修飾用法・連体修飾用法（「ただ＋の＋名詞」，「ただ＋数量詞／名詞」），「とりたて副詞」（安部 2004）としての用法（「ただ＋述語＋だけ」），補足の接続詞としての用法（「ただ…／ただね…／ださ…」）など，さまざまな用法を有するため，「多機能語」（相澤・佐藤 2008）とされる場合がある．なお，上述の「ただ」の用法の中，「ただでさえ」と意味的に最も類似している用法については後述する．

(1) a. ただの暑いところ.

b. なんでもないです．ただ暑いだけ.

c. A：台湾旅行なら，9 月がお勧めです.

B：ええ．ただ，台風が心配ですね.

(2) a. 北海道でさえ 30 度以上の真夏日となった.

b. 氷さえあれば夏の炎天下でも走れる.

(3) a. *ただでさえ暑い.

b. *今日はただでさえ暑いですね.

c. ただでさえ暑いんだから，暑いって言ったら，もっと暑くなっちゃうよ.

（あらゐけいいち原作，NHK『日常』「ナツい」）

d. *ただでさえ暑いんだから，海へ行きましょう. （例文 3c より改変）

例文（1a-c）と（2a）から分かるように，「ただ」と「さえ」は，単文で用いることができる[111]．一方，「ただでさえ」の場合，例文（3c）のように複文の構造に現れる．例文（3a,b）のように単文のみで言い切りの形だと非文となる．また，意味上，前件の「十分暑い」と後件の「もっと暑い」という組み合わせによる意味的要請が満たされなければならないという特徴が観察される（3c,d）.

「ただ」に比べ,「さえ」は文（述語）の意味を決めるのにより中心的な役割を果たしている．それだけでなく，他の語と組み合わせて使用する時にも，選択の幅が広く，汎用性があり生産的であるため，以下，7.2.1.節でまず「さえ」を見てから,「ただ」「ただでさえ」という順番でそれぞれの意味機能を見ていく.

7.2.1. 「さえ」の意味機能

「さえ」は，「取立て助詞」（宮田 1948，1980，寺村 1981，1991），「とりたて助詞」（澤田 2007，中西 1995，2012），「とりたて詞」（奥津 1974， 沼田 1986，1992，2009，茂木 1999，2004，2006）など，これまで議論されてきた．以下，「さえ」の議論に特化

111 例文（2b）に関しては，条件形「ば」を含むため，複文と見なしたほうが妥当だろう.

し総合的考察を長年行なってきた沼田（2009）を代表的な先行研究として取り上げて議論を進める．

沼田（2009）によると，「さえ」には，「意外」の「さえ$_1$」（例文 4a,b）と，条件節の中にしか現れない「最低条件」の「さえ$_2$」（例文 5a, b）とがある．文脈によっては，「意外」と「最低条件」の二通りの解釈ができる（例文 6）[112].

（4） a. 雑巾さえ満足に縫えない． **（意外）**

b. 深刻な金融危機を眼前にして，財政・金融の分離問題にさえまだ最終的な結論を出せないでいる． **（意外）**

（5） a. これさえあれば，百人力だ． **（最低条件）**

b. 彼なら，問題点さえわかれば，自分で修正できる． **（最低条件）**

（6） 学校に行けさえするなら，喜んで働きます． **（意外もしくは最低条件）**

（以上，沼田 2009：171-179 より引用）

「ただでさえ」における「さえ」は，沼田（2009）の言う「意外」を表す「さえ$_1$」と，「最低条件」の「さえ$_2$」のどちらと見なしたほうが適切だろうか[113]．ここではまず「意外」を表す「さえ$_1$」と同じものと考えられるか見てみよう．沼田（2009）によると，例文（4a）は，次のように解釈できる．

（4’）a. 雑巾を満足に縫えない．

b. 他のもの—例えば着物—は満足に縫えないが，雑巾は満足に縫えると思った．

（沼田 2009：173）

---

112 例文（6）について，沼田（2009：179）によれば，最低条件の「さえ$_2$」として「他のことはできなくても，学校に行くことができるなら，それだけで喜んで働く．」と解釈することができる．その一方，「住み込みだから食，住の心配はない．それどころか十分な給料がもらえ，その上学校に行けさえするなら，本当に喜んで働きます．」というような文脈における「さえ」を見ると，意外の「さえ$_1$」として「他のことならできるかもしれないが，学校に行くことはできないと思っていた．その学校に行くことができるなら，喜んで働く．」と解釈することができる．したがって，例文（6）の「さえ」が文脈によって二通りの解釈ができ，「さえ$_2$」を「さえ$_1$」が条件節内に現れた場合に得られる語用論的解釈のひとつと考えることができないという．

113 「さえ」は「意外」と「最低条件」のいずれでもない意味機能を表す場合もあるが，本章では沼田（2009）の分析に準ずる．

（4’ a）では，「満足に縫えない」という「想定[114]」はあるものの，結局，（着物よりも遥かに簡単な）雑巾さえ満足に縫えなかった．意外なのは「雑巾」であって，「縫えない」という想定ではない．このように，「さえ」にとりたてられている前の成分（「雑巾」）が意外の意味を持ち，後半の成分（「縫えなかった」）はとりたてや意外の意味と関係がない．

「ただでさえ」の場合はどうだろうか．従来の国語辞典における「連語」の分類として，前の成分（すなわち，「ただ」）が「（で）さえ[115]」にとりたてられているという見方をするならば，例文（4a）の雑巾と同様に，「ただ」も「意外」の意味を持つはずである．

しかし，例えば次の例文では，意外の意味は含まれていない．

（7）a. ただでさえ暑いんだから，暑いって言ったら，もっと暑くなっちゃうよ．

（例文 3c の再掲）

b. まずい！壊しちゃった！お母さんに怒られる．ただでさえ今日は何度も怒られてるのに！

（さくらももこ原作，『ちびまる子ちゃん』「まる子の一番暑い日」の巻 2013 年 8 月 25 日放送分）

例文（7a,b）を見る限りでは，「ただでさえ」自体は，意外の意味を持たない．「ただでさえ」は，前件の「暑い」「怒られる」などといった「既定的」な事実と，後件の「もっと暑くなる」「もっと怒られる」などといった「予測された事態」の内容を要求しているため，文全体においても「意外性」と相容れない．

次に，「最低条件」を表す「さえ$_2$」について見てみよう．

（8） a. 問題点さえわかれば，自分で修正できる．

b. *ただでさえ問題点がわかれば，自分で修正できる．

c. *問題点がただでさえわかれば，自分で修正できる．

（以上，例文 5b より改変）

---

114 沼田によれば，「とりたて詞の表す意味には，真偽を断定せず，話し手や聞き手の『自者』・『他者』に対する『想定』を表すものがある（pp.41-42）」．「自者」とは「とりたて詞がとりたてる文中の要素（p.37）」であり，「他者」とは「それに端的に対比される『自者』以外の要素（p.37）」である．

115 「ただでさえ」は「たださえ」と同じ意味として使われているため，「で」の有無は，それほど問題にはならない．

例文（8b, c）が示すように，「ただでさえ」は条件節の中には現れない．前述の通り，「ただでさえ」は「(既定的な）事実」を述べたり，評価したりする際に用いられるので，「既定的事実」を条件節の中に入れると意味的に矛盾するためである．この観察は，「ただでさえ」が「さえ$_2$」とは意味的特徴も構文的特徴も異なることを明確に示している．

このように，「ただでさえ」の意味的特徴は，「さえ$_1$」や「さえ$_2$」とは異なっており，それ自体は「意外」を表しておらず，また，「最低条件」の意味を表すこともできない．構文的特徴については，「さえ$_1$」は単文に現れ，「さえ$_2$」は条件節に現れるのに対し，「ただでさえ」は基本的に複文の従属節に現れるが[116]，条件節には現れない．以上の分析から，「ただでさえ」は「さえ」の本来の意味的特徴や構文的特徴を失っており，それ自体一つの語として他の意味機能を有していることが明らかになった．

7.2.2. 「ただ」の意味機能

「ただ」は，その多岐にわたる意味・用法の違いによって，先行研究での着眼点も分析も異なっている．大別すると，名詞修飾・連体修飾の要素としての「ただ$_1$」（例文 9a），「限定副詞」（工藤 1977）ないし「とりたて副詞」（安部 2003，2004）としての「ただ$_2$」（例文 9b），「接続詞的用法」（森田 1989，川越 2006）としての「ただ$_3$」（例文 9c）に分けられる．

(9)　a. ただの暑いところ．
　　b. なんでもないです．ただ暑いだけ．
　　c. A：台湾旅行なら 9 月がちょうどいい．
　　　B：ええ．ただ，台風が心配ですね．

（以上，例文 1a-c の再掲）

では，上記の三種類の「ただ」のうち，どれが「ただでさえ」の一部となっているのだろうか．前述のように，もし前の成分（「ただ」）が「さえ」または「でさえ」にとりたてられているという見方をするならば，「とりたての対象」を見る必要がある．寺村（1981：

[116] 第 4 章から第 6 章で見てきたように，「せっかく」「なまじ」「あまり」と同じく，「ただでさえ」も，「見せかけの単文」に現れる場合がある．詳しくは 7.3.3.節で後述する．

64）の「提題[117]」の「取立て詞」というカテゴリーで「さえ」を見ると，「さえ」がとりたてる（とりあげる）対象は，「名詞」である（例文 10）．また，奥津（1974）によると，「とりたて詞」には，「名詞あるいは副詞を，他の名詞あるいは副詞に対して，他を排してそれのみをとりたてる場合や，それも他と同様であるとしてとりたてる場合や，またごく一般的なとりたての『は』などがある（p.52）」というように，とりたての対象には「名詞あるいは副詞」とある．しかしながら，「さえ」に関してのみ言えば，実際には，例えば「怒るどころか，喜びさえした」（動詞），「雄々しく美しくさえ見える」（形容詞），「どきどきさえした」（副詞・擬態語）など[118]，バリエーションが見られる．上記はいずれも実質的意味を持つ内容語である．実質の意味を持たない副詞（機能語）は，ほとんどの場合「さえ」によるとりたてを受けることはない（例文 11, 12, 13）．

（10） 記念日(で)さえ忘れている．

（11）*単に（で）さえ忘れている．

（12）（記念日を）｛ *完全に／ *すっかり ｝（で）さえ忘れている．

（13）*単にさえあれば，百人力だ． （例文 5a より改変）

「ただでさえ」が「ただ＋でさえ」，「ただで＋さえ」，ないしは「ただ＋で＋さえ」によって構成されている可能性を考えると，三種類の「ただ」の用法のうち，とりたて副詞としての「ただ$_2$」と「接続詞的用法」としての「ただ$_3$」は，いずれも機能語であるため，例文（11）（13）が示している通り「さえ」には付かない．よって，「ただでさえ」は，名詞修飾・連体修飾用法としての「ただ$_1$」と「さえ」から構成されているとしか考えられない．

---

117 寺村（1981：64）によれば，「取立て助詞」には「提題」と「評価」という二種類がある．「提題」は「色々な格にあたる名詞を取りあげ，それを文全体の題目とすることを主な職能とするもの」であり，「評価」は「文中の補語を，補語として，あるいはその中心の名詞を，取り出して，何かと対比させる役割のみを託されているもの」である．

118 台湾日本語教育学会の先生方によるご指摘と例文提供である．御礼申し上げる．

加えて，「さえ」はそれが付いた表現（つまり「ただでさえ」）の統語的性質を変えることはできないという事実からも，「ただでさえ」は「ただ」と「さえ」によって構成された単なる「連語」ではないことが分かる．

したがって，「ただでさえ[119]」は「ただ」に「でさえ」が付加された（もしくは，逆に，「でさえ」に「ただ」が付加された）連語であるというより，一語化されて，全体として連用修飾の機能を持つひとつの副詞になっていると考えられる．

ここまで見てきたように，「ただ」，「さえ」，そして「ただでさえ」は，形態的に類似していても，それぞれ意味的特徴も構文的特徴も異なっている．すなわち，「ただでさえ」には，「ただ」と「さえ」本来の意味機能を失い，その組み合わせからは予測できない構文的・意味的特徴が存在している．

7.2.3. 「ただでさえ」の記述をめぐる問題点

先行研究を調べた限りでは，「ただでさえ」に特化した議論は見当たらない．そのため，日本語文型辞典（グループ・ジャマシイ 1998）における定義と例文を用いてその基本的な意味と用法を概観する[120]．同辞典（1998：195）による意味の記述では，「『普段の場合でも』の意で，普段でもそうなのに，普通でない状態の時はもっとそうだということを述べるのに使う」としている．構文的特徴についての言及や記述はないものの，同辞典における例文（14）（15）を観察すると，「ただでさえ」は，「従属節 ― 主節」という複文の構造を持つ文で用いられるという構文的特徴を持つことが明確に示されている．

（14） お父さんはただでさえうるさいのだから，病気にでもなったらああしろ，こうしろと大変だろうね．

（15） ただでさえ人手がたりなくて困っているのに，こんな小さな会社で一度に三人もやめられたらどうしようもない．

（以上，グループ・ジャマシイ 1998：195）

---

119 「ただでさえ」の同義語である「ただですら」や現代ではあまり使われなくなった「たださえ」に関しても，同じである．

120 この他にも，『日本語を学ぶ人の辞典』（にほんごの会 2011）では，「ふつうの状態でもそうであるのに（p.553）」と説明している．例文「急いで書いたら，ただでさえ下手な字がますますきたなくなった」．この種の構造の文については，7.5.2.節で後述する．

また，前件の「普段の場合でも」と後件の「普通でない状態の時はもっと」という意味的対応関係があることも明らかである．

同辞典における「普段」（の場合でも）は，あくまで，説明として「ただでさえ」の意味の理解を助けるために学習者向けに用いられた最も意味の近い表現の例のひとつである．「ただでさえ」は必ずしも常に「普段」の状況を述べる時に用いられるとは限らず，当日のこと（例文 16）や，その場に起きていること（17）にも使われる．

（16） まずい！壊しちゃった！お母さんに怒られる．ただでさえ今日は何度も怒られてるのに！ （例文 7b の再掲）

（17） ただでさえ，病気のことで頭がいっぱいでドキドキしているのに，なにもそんな冷たい言い方しなくたって…と，泣きたくなってしまう．医者の私ですらこんな状態なのだから，普通の病人はどんなに心細い思いで病院の門をくぐるのだろう．
（BCCWJ／書籍／9 文学『母を看取るすべての娘へ―在宅介護の 700 日』森津純子著 朝日新聞社）

例文（14）の「うるさい」や例文（15）の「人手が足りない」は，それぞれ「お父さん」や「小さな会社」の恒常的な「属性」である．したがって「普段」と理解することが可能である．しかしその一方，「（今日は何度も）怒られて（い）る」や「ドキドキしている」は，それぞれ「属性」ではなく一時的な「状態」であり，つまり「臨時的な出来事や状況」でもあるため，「普段の場合でも」や「普段から」だけでは説明しきれない何か（すなわち，「ただでさえ」独自の意味）を表している[121]．本研究の第 1 章でも紹介したが，「日本語の副詞の中には，外国語に翻訳しようとしても，対応する表現が見つけにくいばかりでなく，日本語の類義表現による言いかえによっても，そのニュアンスを正確に表わしえないような，複雑な用法をもつ一群がある（p.203）」と蓮沼（1987）が指摘したように，「ただでさえ」もその独特で複雑な用法を持っている副詞のひとつだろう．

121 その他，「ただでさえ」の意味に近い表現として，「そのままでも」などの表現もあるが，構文的特徴からすると，そもそも「普段の場合でも」や「そのままでも」などは単文に現れ，また，「連語」として扱うことができる．それに対し，「ただでさえ」は，基本的に（複文の）従属節に現れなければならず，「連語」であるというより，実際には，より多くの場合，むしろ一語化された「副詞」としての意味機能を果たしている．

なお,「ただでさえ」の言い換えや類義表現[122]よりも重要なのは,「ただでさえ」を含む文の文法性の要件になっている前件の「うるさい／困る」（例文 14, 15）,「怒られる／ドキドキしている」（例文 16, 17）といった普段ないしは現在の状態と,後件の「もっとうるさい／もっと困る」,「さらに怒られる／つい泣きたくなる」といった見越された状態の意味的対応関係の組み合わせがあるということである.それも単なる因果関係ではなくて（例文 18b）,「現在の状態」（前件 P） と「更なる状態」（後件 Q） の組み合わせによる対照的関係があってはじめて成り立つ（例文 18c,d）.

（18）a. 部屋が狭い｛から/ので｝,くつろげなかった.

b.??ただでさえ部屋が狭い｛から／ので｝,くつろげなかった.

c. ただでさえ部屋が狭いのに,荷物にスペースをさらにとられてしまい,くつろげなかった.

d. ただでさえ部屋が狭いのだから,荷物をこれ以上増やしたくないのだ.

以下,「ただでさえ」の構文的特徴と意味的特徴をさらに詳しく見ていきたい.

7.3. 「ただでさえ」の構文的特徴

7.3.1. 複文の構造

前述のように,「ただでさえ」は基本的に「従属節—主節」という複文の構造を要求し,単文に生起することができない（例文 19a,b）.これまで見てきた「せっかく」や「なまじ」「あまり」に関しても同じ制限があった（例文 20-22）.

（19）a. *お父さんはただでさえうるさい.

b. *ただでさえ人手がたりなくて困っている. （例文 14-15 より改変）

（20）a. *せっかく彼が帰った.

b. *せっかく桜の花が咲いた. （蓮沼 1987：205）

[122] 例えば,飛田・浅田（1994）は,「ただでさえ」と「それでなくても」の違いを取り上げている.

（21）a. *昨日なまじ急いでタクシーに乗った.

b. *なまじわたしの言うとおりになった.

（22）a. *あまりおいしそうだった.

b. *あまり頼子がすらすら言った.

上記の例文は，いずれも前後の文脈のない単文である.「前件 P—後件 Q」の意味関係が不明瞭であるため，非文である[123].

また,「ただでさえ」は，複文の従属節にのみ生起し，主節には現れない（例文 23a,b）. この点に関しても,「せっかく」「なまじ」「あまり」と類似している（例文 24-26）.

（23）a. *お父さんはうるさいのだから，ただでさえうるさい.

b. *人手が足りなくて困っているのに，ただでさえ困る.

（24）a. *彼が帰ったのだから，あとはせっかく我々で思う存分楽しくやろうよ.

b. *桜の花が咲いたのに，せっかく一晩で散ってしまった.

（25）a. *親切にするから，相手をなまじつけ上がらせるのだ.

b. *予備知識を持っているばかりに，なまじ真相が見えなくなる.

（26）a. *天気がいいから，ついあまり出かけたくなった.

b. *食べ過ぎると，あまり体に毒だよ.

また,「ただでさえ」の場合，より複雑なのは，たとえ複文の構造であっても，例えば次の例文（27a）のように前件の「十分暑い」と後件の「もっと暑い」という組み合わせや，例文（27b）のように前件の「十分緊張している」と後件の「余計眠れない」という組み合わせに見られるような，意味的要請が満たされなければならないという点である.

[123] 日本語ネイティブの個人差によっては，上記の例文を自ら後件などの意味を加えて解釈し，不自然だが非文ではないと答える場合もあるが，ここで注意すべきは，これらの例文は，あくまで前後の文脈のない単文である.

(27) a. ただでさえ暑いんだから，暑いって言ったら，もっと暑くなっちゃうよ.

b.「期間中は落ち着かないので, 友達といられるのは心強い」と喜ぶ生徒もいるが，「ただでさえ緊張しているのに，寝床が変われば余計眠れないのでは」と心配する生徒も. （朝日新聞 2005 年 11 月 23 日）

c. *ただでさえ暑いんだから，暑いって言ったら，（かえって）暑くなくなった.

d. *ただでさえ緊張しているのに，（逆になぜか）ぐっすり眠れた.

後件 Q の意味的な内容は異なるものの，上述のような前件と後件の組み合わせによる意味的要請は他の「『見越しの評価』を表す副詞」についても，言えることであった.

複文の構造に関する議論は一旦ここまでとし，次節から「ただでさえ」と共起する接続の形式を，BCCWJ の用例に基づいて記述・分析する.

7.3.2. 接続の形式

接続の形式に着目してみると「ただでさえ」の基本的用法は，次のように整理することができる[124].

[124] 林（2013a）は，「ただでさえ」の用法を，次のようにまとめている.

＜典型的な用法＞

1）[[ただでさえ＋述語]＋逆接を表す接続表現ノニ，（ノ）ダガ　]という従属節における用法

2）[[ただでさえ＋述語]＋順接を表す接続表現ノデ，（ノ）ダカラ]という従属節における用法

3）原因・理由を表すタメ，ダケニ，累加を表すニ加エ，ウエ（ニ），シと共起する用法

＜非典型的な用法＞

4）[[ただでさえ＋述語]＋名詞句] のように接続助詞を省略し連体修飾節の中に起きる用法

5）[ただでさえ＋述語] が (擬似，見せかけの)単文として起きる用法

本研究では，各章の副詞の記述との整合性を図るため，上記の用法を改めて整理することにした.

ただでさえ P ノニ／（ノ）ダガ，Q

ただでさえ P（ノ）ダカラ／ウエニ／シ，Q

BCCWJ で採集した 349 件の用例に加え，本研究が普段別途採集した用例[125]を観察した結果，「ただでさえ」には，主に，逆接を表す接続形式を伴う用法（逆接用法），順接を表す接続形式を伴う用法（順接用法），そして圧縮用法があった．なお，条件を表す接続形式に関しては観察されなかった．以下が各接続形式の種類である．

逆接用法：

「のに」「というのに」「だろうに」「でしょうに」「（の）にもかかわらず」

「が」「のだが」「けど」

「ものを」

順接用法：

原因・理由を表すもの：

「から」「ので」「のだから」「だけに」「ため」

「で（原因・理由）」「て（中止形）」

「ところへ」

累加を表すもの：

「し」「うえ」「うえに」「そのうえ」「このうえ」「に」「に加え」

圧縮用法：

（連体修飾用法）「ただでさえ 連体句 N 助詞　Q」

[125] 具体的には，現代日本語研究会編（1997）『女性のことば・職場編』（ひつじ書房），同研究会編（2002）『男性のことば・職場編』（ひつじ書房）における自然会話の書き起こしデータと，「茶漉」（日本語用例・コロケーション抽出システム・一般公開版）における「名大会話コーパス」の雑談の文字化データ，日本語用例検索（青空文庫所収文学作品，田野村忠温氏のウェブサイト），「ヨミダス文書館―読売新聞データベース」，「聞蔵Ⅱビジュアル ―朝日新聞有料記事・写真検索」，「毎日新聞記事データベース」などがある．BCCWJ および上記のコーパスとデータベースに収録されていない用例も補助の用例として使用する．

なお，前件 P に現れる「ただでさえ」に対し，後件 Q に現れる上回った／下回った状態を修飾する「累加」を表す副詞の種類が特徴的だったため，以下に整理しておく[126].

後件 Q に現れる副詞：

「ことさら」「ますます」「一段と」「さらに」「まして（や）」「より一層」「もっと」

上記の用例調査結果は,作例と辞書だけでは観察されなかった特徴も含んでいる.以下,例文に現れる接続の形式を見ていこう.

まず，「従属節—主節」の構造をとり，従属節末に逆接，順接，累加を表す接続の形式と共起する用法である．グループ・ジャマシイ（1998）の例文における複文の構造でも示されたように，これを「ただでさえ」の基本的用法とすることができる.

＜ただでさえ P ノニ／（ノ）ダガ，Q＞

（28）a. からいとただでさえ熱いのに熱くなっちゃって.　（「名大会話コーパス」）

b. ただでさえ人口が過密であるのに, 政治の中心と経済の中心がすべて東京一極に集中しているため, 東京圏への人口集中は異常ともいえるほどになっている. その結果，地価が高騰し，人々は高い家賃，高い住宅価格を強いられている.

（BCCWJ／書籍／8 言語『ディベートのすすめ』望月和彦著 有斐閣）

c. ただでさえ幸福の青い鳥が見られて幸せでしたが，４羽のひなたちが無事に巣立つのを見て，さらに幸せな気分になりました.（朝日新聞 2012 年 6 月 20 日）

d. 宝塚歌劇の代名詞とも言える名作の登板にただでさえ注目が集まっているが, さらに今回は壮一帆，愛加あゆの新トップコンビお披露目でもあり，話題性は抜群.　（朝日新聞 2013 年 3 月 6 日）

126 明治時代よりも前の各時代を遡ると，平安時代前期に「…の上に」，つまり添加の意味を表す「さへ」の用法（例：「春雨ににほへる色もあかなくに　香（か）さへなつかし山吹の花」（古今和歌集　巻第二　春歌下）がある．「ただでさえ」の後件の意味的特徴に類似しているところが興味深いが，「さへ」から現代語の「さえ」，そして「ただでさえ」までの意味変化の過程に関しては，別の課題にしたい.

e. ただでさえ難しいものを，テレビカメラの前でやろうというのは，やや無謀のように滋子は感じている．

（BCCWJ／書籍／9 文学『模倣犯 下』宮部みゆき著 小学館）

＜ただでさえ P（ノ）ダカラ／タメ／ダケニ，Q＞

（29）a. 経営者の山野内ミツルさん（81）は「都城大丸の休業でただでさえ閑散としているから，しっかり営業していると分かるようにしないと」．

（朝日新聞 2011 年 2 月 2 日）

b. 夫所（それどころ） ぢゃない，彼の男は唯（ただ）でさへ随分会（あ）ひ悪（にく）い方（ほう）なんだから，そんな事を無暗（むやみ）に喋べらうものなら，直（すぐ）帰（く）って呉れ位云ひ兼（かね）ないですよ．

（夏目漱石『彼岸過迄（報告）』新潮社／青空文庫）

c. これらの債券はただでさえ流動性が低いため，市場の緊張が高まる局面では買い手が引っ込む．ただ，良い側面もある．（朝日新聞 2013 年 6 月 12 日）

d. ただでさえ，さまざまな自治体が視察に訪れる武雄市だけに，この図書館はひとつのモデルになっていく可能性があり，引き続き注視したい．

（朝日新聞 2012 年 12 月 10 日）

＜ただでさえ P ウエニ／ニクワエ／シ，Q＞

（30）a. 僕はただでさえ不愉快な上に，年寄にすまないという苦痛をもう一つ重ねた．

（夏目漱石『彼岸過迄』新潮社／青空文庫）

b. ただでさえ震災の影響で観光客数が減っているうえ，都市間競争の激化で，少なくなったパイさえも大阪に吸い取らかねない状況が続いている．

（BCCWJ／書籍／3 社会科学『神戸』日本経済新聞社編 日本経済新聞社）

c. ただでさえ目の前の利用者さんに専念しづらい状況なのに加えて，朦朧として注意散漫になっている．（朝日新聞 2013 年 5 月 29 日）

d. 鳥インフルエンザ騒動はここ一カ月，新たな発生がなく，沈静化している．しかし，卵はただでさえ値段が下がっているし，売れない．

（朝日新聞 2004 年 4 月 11 日）

このように，「ただでさえ」は「せっかく」と同様に「順接用法」「逆接用法」という二つの用法に分けられるということが確認できる[127]．なお，「せっかく」と比較した場合，「ただでさえ」の接続の形式の中では，「累加」を表すものが特徴的であると言える．

次に，上記の接続の形式が従属節末に現れない用法，つまり「圧縮用法」について説明する．これは特に，書き言葉（小説の地の文，新聞記事[128]）における長文あるいは特殊な文体や，冗長な談話（国会会議録など）に見られる．

「圧縮用法」については，「せっかく」の場合，命題 P の部分を徹底的に吸収した「せっかくだから，Q」や「せっかくなのに，Q」という用法があったが，「ただでさえ」にはこの用法はない．したがって，「ただでさえ」は以下のように「ただでさえ＋連体句＋N＋助詞 Q」という用法のみ持つ．

「ただでさえ＋連体句＋N＋助詞 Q」（「圧縮用法」）

（31）a. ただでさえ難しい障害者の雇用に，県内の厳しい情勢がのしかかる．

（朝日新聞 2012 年 2 月 14 日）

b. ただでさえ栄養豊富な納豆に，コラーゲンが加わることで，どこまで健康的な食品になるんだろうか．（エキサイトニュース 2005 年 11 月 28 日）

c. ただでさえ就職難の若者たちを窮地に追いやるだけだ．

（朝日新聞 2012 年 5 月 25 日）

d. 狭い横町にあるだけに, セントルイスの店なかは, ただでさえ早い秋の暮色が, はやひっそりと，しかし何かあわただしく忍び込んでいた．

（織田作之助『土曜夫人』新潮文庫／青空文庫）

e. ただでさえ風通しの悪いピラミッド内部は，大所帯で興奮していれば蒸し風呂状態だったようだが，漸く夫婦は落ち着いて喋り出した．

（BCCWJ／書籍／3 文学『エレティリスレシット―ルフェールとセーラの物語』高原聖著 文芸社）

---

127 「なまじ」「あまり」に関しては，「順接用法」のみ観察された．

128 新聞に関しては，田野村（2004）が指摘しているように「言語資料の性格」の問題に関わり，文学作品，ジャーナリズム言語としての独特の書き方であると考えられる．なお，同じ新聞においても，書き言葉（社説），話し言葉と書き言葉の併用（インタビュー記事など），コラムの種類によって書き方も異なる．

なお,「ただでさえ」の「圧縮用法」の中にもまた，前件 P が述語のみで終わる（例文 32a-d）か，もしくは「体言止めの文」で一旦途切れる（例文 32e,f）という「破格用法」が観察される.「圧縮用法」および「破格用法」と文の接続の関係について，次の 7.3.3. 節で議論する.

「ただでさえ＋述語」(「破格用法」)

(32) a. 獣医，飼育員を取りまとめる飼育展示係長，そして副園長といくつもの役割をこなす坂東はただでさえ忙しい．だが，こども牧場以来，数々の新施設は彼が中心となって生み出してきたものだ.

(BCCWJ／書籍／4 自然科学『旭山動物園のつくり方』原子禅（文）亀畑清隆（写真）柏艪舎・星雲社)

b. 二対一では，ただでさえ分が悪い．苛立ちのあまり，畳表を掻きむしりそうになる.

(BCCWJ／書籍／9 文学『この愛にひざまずけ』早水しほり著，リーフ出版・星雲社)

c. ただでさえ日本にいれば，宇宙などから年間平均 1.48 ミリシーベルトの放射線を浴びる．世界平均は 2.4 ミリシーベルトだ. (朝日新聞 2012 年 6 月 6 日)

d. 男性は「ただでさえ，牛乳の消費量は年々減っている．風評被害を長引かせないためにも，政府は安全性をもっと強調してほしい」と願う.

(朝日新聞 2011 年 3 月 22 日)

e. 農民の感情なり農家の生産意欲というものについて大きな問題を投げかけるではないか．ただでさえ農政不信の今日，そのような点については是正をすべきだ，こういうふうに思うのでありますが，いかがですか.

(BCCWJ／国会会議録／衆議院／常任委員会 第 077 回国会 1976 年)

f. ただでさえ胡散臭い芸能界．そこでタレント並にカッコいいミンチョルがミニョンのような服装でやってきたら，胡散臭さも倍増.

(BCCWJ／書籍／7 芸術・美術『「美しき日々」のすべて』柳雪香，ヨンヨンファミリー編 青春出版社)

7.3.3. 圧縮用法から破格用法へ

「ただでさえ」の基本的な構文的・意味的特徴は，これまでの議論を踏まえてある程度確認できた．しかし，前節で言及したように，コーパスおよびデータベースを調査すると，「のだから／のに」と共起しない例が大量に見つかる．こういった例の主な特徴は，一見

したところでは単文（の羅列）になっている点，そして長文，特殊な文の中に埋め込まれている点である．

しかし，接続助詞ないしは接続の表現と共起しない代わりに，これらの圧縮用法では名詞の後に助詞が現れ，連体修飾節と後続する節や文との間の意味的対応関係がはっきりしているということが分かる（例文 33-36）．

（33） 見ればミカちゃんのまつ毛もクルッとしていて，ただでさえ大きな瞳が，さらにパッチリ見えた．

（「Sound Library～世界にひとつだけの本～」第 128 話「紫アフロ」）

（34） 漢の大将呂馬通は，ただでさえ長い顔を，一層長くしながら，疎な髭を撫でて，こう云った．（芥川龍之介『英雄の器』ちくま文庫／青空文庫）

（35） ただでさえ狭き門を絞れば借り手の反発は必至だ．（朝日新聞 2012 年 6 月 25 日）

（36） ただでさえ栄養豊富な納豆に，コラーゲンが加わることで，どこまで健康的な食品になるんだろうか．

（エキサイトニュース 2005 年 11 月 28 日）

上記の例文のいずれも，前件が「ただでさえ＋連体句＋N＋助詞 Q」のように連体修飾節の構造となっている．その意味的特徴を見ると，助詞を境目に，後件が現れている．例文（33）（34）では，「さらに」や「一層」などの副詞が「更なる状態」を明示的に修飾している．例文（35）（36）には上記の副詞は現れないが，助詞の前後に「現在の状態 P」―「更なる状態 Q」の意味的対応関係が観察された．また，上記の例文はいずれも「従属節― 主節」の構造に書き換えることができる．

（33’） ただでさえ大きな瞳｛なのに／だから｝，さらにパッチリ見えた．

（34’） ただでさえ顔が長いのに，一層長くしながら，疎な髭を撫でて，こう云った．

（35’） ただでさえ狭き門｛なのに／だから｝，さらに絞れば借り手の反発は必至だ．

（36’） 納豆はただでさえ栄養豊富なのに，コラーゲンが加わることで，どこまで健康的な食品になるんだろうか．

このように，「ただでさえ」構文では，しばしば「のに」「のだから」などの接続助詞と共起する複文の構造が変わり，複文の従属節が連体修飾節になるという現象，つまり「圧縮用法」が見られる．構文的特徴は異なっているのだが，これまで見てきたように，前件の「現在の状態 P」と上回った／下回った後件の「更なる状態 Q」という意味的対応関係は変わらない．

上記の連体修飾節に現れる場合とは異なり，例文（37）（38）では接続助詞どころか，助詞も観察されず，体言止めの文（例文 37）や，断定の助動詞で終わる文（例文 38）になっている．本研究では，これを「破格用法」と呼んでいる．

（37） ただでさえ美味しいパン屋さんのパン．もちろん冷めていてもおいしいが，焼きたての温かいパンの美味しさは別格だ．

（エキサイトニュース 2006 年 4 月 23 日）

（38） 頽廃の一夜が明けて，日曜日の朝が来た．ただでさえ頽廃の町である．ことに土曜日の京都は，沼の底に妖しく光る夜光虫の青白い光のような夜が，悪の華の巷にひらいて，数々のいまわしい出来事が，頽廃のメシベから放つ毒々しい花粉の色に染まる――というこの形容は誇張であろうか．

（織田作之助『土曜夫人』新潮文庫／青空文庫）

（37’）*ただでさえ美味しいパン屋さんのパン．

（38’）*ただでさえ頽廃の町．

一見したところでは，単文あるいは単文の羅列に見えても，本当の意味での単文（例文 37’，38’）ではない．「圧縮用法」と同様に，適格な文は，「現在の状態 P」の前後に，「更なる状態 Q」（逓増・増幅もしくは逓減・減幅した更なる何か）を表す文が付随しなければならず，前件と後件との間の意味的対応関係が保たれていてこそ適格なのである．

7.4. 「ただでさえ」の意味的特徴

7.4.1. 述語修飾の制限

従属節の述語の部分を観察すると，「ただでさえ」の直後に，主に形容詞（例文 39a-c），「形容詞＋名詞」（40a,b）もしくは「形容詞の成分を有する名詞」（41a-d）が後続する．

（39） a. 身体をちょっとでも動かすようにと先生が注意されると，「ただでさえ痛いのに，動かす気分にはなれません」とほとんどの方がおっしゃいます．

（読売新聞 2013 年 6 月 4 日）

b. ただでさえフラフラなのに，山のような書類を提出しなければならない．しかも，難病を抱える患者にとっては余りにも過酷な制度で，「大我慢大会」を強いられる．（朝日新聞 2011 年 7 月 12 日）

c.「この時期は秋冬物と春物の端境期でただでさえ品薄．今年はその春物の生育が遅れている」という．（朝日新聞 2010 年 4 月 23 日）

（40） a. ただでさえ厳しい経済状況なのに，これ以上の増税は景気を悪化させるだけだ．（朝日新聞 2010 年 7 月 5 日）

b. ようやく任も果てたので，その明けがた京へ上ろうかと思って，お暇乞に参上いたしますと，ただでさえいつも神々しいような御所でしたが，その折は又円融院の御世からお仕えしているとか云う，いかにも神さびた老女が居合わせて，昔の事などなつかしそうに物語り出し，しまいにはよく調べた琵琶までも聞かせてくれまし（堀辰雄『姨捨』小学館／青空文庫）

（41）a. ただでさえハイリスクなのに．ぶくぶく太っている場合じゃない．おまけに出産は富士山を登るぐらいのエネルギーに相当するという．

（朝日新聞 2011 年 3 月 7 日）

b. ただでさえドライアイなのにコンタクトを装着するとますますドライアイになるのではないか？「ワンデーアキュビュー・トゥルーアイについて」

c. ただでさえ赤字なのに，更に値下がりしないか心配だ．

（朝日新聞 2012 年 1 月 6 日）

d. ただでさえ日本は奇跡的勝利の連続だったのだから，今度こそライオンに喰われてしまうウサギさんたちを見せつけられるのではないかと，ヒヤヒヤしていました．（読売新聞 2011 年 7 月 22 日）

上記例文（39a）は形容詞（い形容詞）であり，（39b,c）も形容詞（な形容詞，擬態語）である．（40a,b）は「形容詞と名詞」の組み合わせであり，それぞれ，現在の「状態」がはっきりしている．（41a-d） の下線部は，一見したところ名詞なのだが，「ハイリスク」や「ドライアイ」は，それぞれ「高いリスク」・「リスクが高い」や「乾燥した目」・「目が乾燥している」と同じ意味であり，「赤字」「奇跡的勝利の連続」も，意味的には「財政状況が厳しい・経済的に厳しい」「奇跡的に勝利が続いている」のように，一種の状態を表している．また，「形容詞」，「形容詞の成分を有する名詞」の他，以下のように「状態」を表す動詞も後続する（例文 42a-c）．

（42） a. ただでさえ緊張するのに，春の選抜大会の優勝校・興南を見ようと約３万６千人も観客がいた．（朝日新聞 2010 年 8 月 12 日）

b. ただでさえ減っていたのに，この不況でさらに悪くなっている．（朝日新聞 2011 年 10 月 11 日）

c. 1970 年から市内で「ささもと書店」を経営する笹本近男さん（72）は，「ただでさえここ数年, 売り上げは下がりっぱなしなのに……」と声を落とす．（朝日新聞 2012 年 11 月 8 日）

例文（42a-c）のいずれも動詞だが，それぞれ「状態」がはっきりしている．

ところが，形容詞との組み合わせがなく，状態がはっきりしない単独の名詞や，単に動作を表す動詞（特に，一回性の出来事を表す動詞．以下，動作動詞）のみが後続すると，文法的に不自然な文となる（例文 43a,b）．

（43） a. *ただでさえ大会に出るのに，観客が多くて緊張している．

b. *ただでさえ試験を受けるのに，寝床が変わって大変だった．

また，下記例文（44a,c）のように「厚い本」や「ガリガリの体」は，いずれも状態がはっきりしている．しかし，（44b, d） のように修飾成分を取り外すと，名詞だけでは，「本」や「体」が今どのような状態なのかはっきりしない．「厚い—さらに分厚い」，「ガリガリ—もっと痩せっぽち」といった意味的対応関係を見出せなければ非文となる．

（44）a. ただでさえ厚い本なのに，しおりやメモなどいろいろ挟んで，さらに分厚くなった．

b. *ただでさえ本なのに，さらに分厚くなった．

c. ただでさえガリガリの体だから，もっと痩せっぽちになるよ．だからちゃんと食べなさい．

d. *ただでさえ体だから，もっと痩せっぽちになるよ．だからちゃんと食べなさい．

次に，動作の状態がはっきりしない場合，とりわけ動作動詞のみだと，その動作（例えば，「食べる」，例文 45a）が今どのような状態なのか，はっきりしない．たとえ「食べる」—「もっと食べる」という意味的対応関係があっても，文法的に不自然である（45b）．

文法性を高めるためには，例えば，副詞と「—ている形」の組み合わせ（45c），複合動詞「－過ぎる」を名詞化したもの（45d），「可能形」との組み合わせ（45e）など，「状態」を明確に表す必要がある．

（45）a. *ただでさえ食べるのに，さらに食べた．

b. ?ただでさえいろいろ食べるのに，さらにたくさん食べてしまった．

c. ただでさえたくさん食べているのに，二次会，三次会など，さらにいっぱい食べてしまった．

d. ただでさえ食べ過ぎだったのに昨日も食べ過ぎてマスターの胃とお腹の脂肪は大変なことに．

「こじゃれた食堂 http://threepoint.shimanavi.net/e75178.html」

e. ただでさえ食べる気になれないのに，その作り方を見ると，完全に食べる気を失った．

このように，「ただでさえ」は「状態性」と深く関わっている．従属節の述語は，状態を表す形容詞や名詞が基本であり，動詞の場合，単に「動作」ではなく，「状態」の説明がなければならないという意味的制限がある．これも「ただでさえ」が「程度副詞」としての性質を持っているからだと考えられる．

ここまで，「ただでさえ」の持つ「従属節 ― 主節」の複文の構造，「現在の状態 P―更なる状態 Q」の意味的対応関係の組み合わせ，「状態性」との深い関わりという三つの特徴ないし制約を見てきた．次節から，「『見越しの評価』を表す副詞」の中核的性質の一つである「既定性」と「ただでさえ」の関係を見ていく．

7.4.2. 「既定性」の要求

BCCWJ（その他のデータを含む）では「ただでさえ」と条件形との共起例は観察されず，また，林（2013a）でも議論したが，「ただでさえ」は「さえ 2」の用法（例文 46a）と異なって，条件節「ば」の中には現れない（例文 46b）．他の条件形を用いてテストしても，不自然な文や不適格な文となる（例文 46c）．

（46）a. これさえあれば，何もいらない. （「Microsoft Surface」）

b. *ただでさえこれがあれば，何もいらない.

c. ただでさえ｛ ??暑いなら ／ *暑かったら ／ *暑ければ ／ *暑いと｝，
暑いって言ったら，もっと暑くなっちゃうよ．[129]

このように「ただでさえ」の前件 P の内容が「仮定」と相容れないのは，「ただでさえ」の構文の全体の意味から考えると，前件の「現在の状態 P」がはっきりしていなければ，後件の「更なる状態 Q」について言い表すことができないという理由があると考えられる．そのため，「ただでさえ」の「現在の状態」（前件 P）は必ず「既定的」な事態でなければならない．蓮沼（2012）が明らかにした「せっかく」と「事態の『既定性』[130]」との関係は「ただでさえ」にも当て嵌まるわけである．ただし，「ても」「なら」などの「既定

[129] 「ただでさえ」と「なら」との共起に関しては，日本語ネイティブによる例文判断の見解の不一致が見られたため，本研究では不自然とする．

[130] 第 4 章で見てきたように，「せっかく」は「ても」「（の）なら」と共起する（「ても」節，「（の）なら」節で使用される）ことがあっても，「仮説条件」ではなく「既定条件」と見なすのが適切である（蓮沼 2012）．

条件」を表す形式と共起可能な「せっかく」や，「と」「ば」「たら」「なら」「ても」といったさまざまな条件形と共起可能な「なまじ」や「あまり」に比べると，いかなる種類の条件形であっても相容れない「ただでさえ」は，「完全既定」を要求していると言えよう．

7.4.3. 「価値」と「評価」

飛田・浅田（1994）によれば，「ただでさえ」は「通常の状態が好ましくないために結果の程度が高まる様子を表す．ややマイナスイメージの語（p.270)」である．これまで見てきた例文においても，「ただでさえ」の「現在の状態 P」は基本的に「ネガティブな事態」に対する「マイナス評価」が行なわれるという傾向が見られる[131]．その裏づけとして，「マイナス評価」の場合に，「のに」の代わりに従属節末に現れる「だけに[132]」を，「当該の事態を積極的に評価する（プラスに評価する）という意味特性（益岡 2010)」を持つ「だけあって」で言い換えられない（例文 47a,b)．また，「だけに」がどちらかと言えばプラス評価に用いられるような場合でも，積極的評価の意味を持つ「だけあって」では言い換えにくい（例文 47c)．

（47）a. 旧大槌小の校舎を改築して月に移転した役場の新庁舎はクーラーがあり，ただでさえ町民から「我々は仮設なのに，なぜ役場を最初に建てた」と苦言を呈されていた｛だけに ／ *だけあって｝，これ以上批判を受けたくないのが本音のようだ．（朝日新聞 2012 年 9 月 8 日）

b. 61 年ごろこつぜんと表舞台から姿を消した諏訪の演奏記録はただでさえ少ない｛だけに ／ *だけあって｝，音楽評論家の萩谷由喜子さんは「欧州で彼女がどんな演奏をして称賛を浴びたのかをしのばせる，意味のある音源だ」と話す．（朝日新聞 2013 年 6 月 9 日）

---

131 「プラス評価」と「マイナス評価」は広い概念ではあるが，「話者の評価」を表す個々の副詞を浮彫にして対照的に示す（蓮沼 1987）時には有効な概念であると考えられる．

132 前田（2009：153-157）では，「A だけに B」は，「A 以外と比べて，A は A である分，その分だけ，一層・より(～だ)」，「A が理由になっていることによって，A 以外の場合に比べてより B である」という意味を表している．このような原因理由文としての「だけに」にとって重要なのは，後件の「比較による程度性」という点である．例えば「一生懸命勉強しただけに，｛*合格した．／ 成績は非常に良かった．｝」といった例に見られるような意味的制限から，B には「程度性」を持つ内容が来なければならず，「（比較による）程度性のある事態が要求されることが，『だけに』の必須条件である」と分析している．

c. ただでさえ，さまざまな自治体が視察に訪れる武雄市{だけに／??だけあって}，この図書館はひとつのモデルになっていく可能性があり，引き続き注視したい．

（朝日新聞 2012 年 12 月 10 日）

「だけに」の後件には，「現実界の事態のほか，話し手の感情，評価等がくる（中畠 1995：530)」のに対し，「だけあって」の後件には，「好ましい事態がくることから，ダケニのようにマイナス評価を示すことができない（中畠 1995：530)」．「だけに」の「話し手の感情，評価」を表すという特徴と，後件に「(比較による）程度性」（前田 2009）を持つ内容が来なければならないという意味的制約を課すという特徴は，「ただでさえ」が表す意味と後件が「更なる状態 Q」でなければならないという意味的制限に類似している．そのため，「ネガティブな事態」に対する「マイナス評価」を行なう「ただでさえ」は「だけに」と共起しやすい．この点から分かるように，飛田・浅田（1994）が記述した通り，「ただでさえ」は「ややマイナス（p.270)」を表す．ところが，この「ややマイナス」の「やや」が本節で問題になる．実際のデータでは，次のように「(幸福の青い鳥が見られて）幸せ」や「奇跡的勝利の連続」「美味しい」など，プラス寄り評価が行なわれる用例も観察された（48a-c)．

（48）a. ただでさえ幸福の青い鳥が見られて幸せでしたが，４羽のひなたちが無事に巣立つのを見て，さらに幸せな気分になりました．

（朝日新聞 2012 年 6 月 20 日）

b. ただでさえ日本は奇跡的勝利の連続だったのだから，今度こそライオンに喰われてしまうウサギさんたちを見せつけられるのではないかと，ヒヤヒヤしていました．（読売新聞 2011 年 7 月 22 日）

c. ただでさえ美味しいのに堂ちゃんが作ったら，どんだけ美味しくなるんだよぉ！！（BCCWJ／Yahoo! ブログ）

「せっかく」に関しても，同じような問題があった．第４章で述べたように，森田（1989）の記述によれば，「『せっかく』で表される以上，それは話し手にとって価値ある事態と受け止められている．好ましくないと受け止めている事柄の場合には『せっかく』を使うことはできない（pp.586-587)」．渡辺（2001）によれば，「良くない出来事も，それを貴重

な体験と評価する立場からは,『せっかく』と言える点は，あらためて注意をしておく意味（p.30)」がある．実際,「病気になる」やリスクを伴う「自宅出産」（例文 49a,b）のような場合でも,「価値ある事態」として評価することができる．総合して考えると,「ただでさえ」も「せっかく」も，それぞれ本来の意味では，基本的に「マイナス」（ただでさえ）と「プラス」（せっかく）を表すものの，話し手の捉え方次第で価値と評価が変わってくるのである[133].

（49） a.「わたしが取り戻すわたしのからだ～せっかく病気になったんだから～」
（読売新聞 2014 年 6 月 12 日）

b.「せっかく自宅出産しているのに長女だけどこかに行っているのでは疎外感を感じてしまうかなと,みんなで一緒にやっているんだって思えることが長女にとってもいいかなと思ったんです.」（読売新聞 2012 年 3 月 1 日）

次の例文（50a,b）のように,「ただでさえ」の前件 P に「…過ぎる」を組み合わせる用例も観察されるが，同じく「程度」を修飾する「あまり」と異なっているのは,「あまり」の場合,「プラス」な事柄でも,度を越えると「マイナス」へと転落してしまう（例文 51a,b）．それに対し,「ただでさえ」の場合,「プラス」な状態が，さらに「プラス」へと上回り,「マイナス」な状態が，さらに「マイナス」へと下回るのである[134].

（50） a. ただでさえ，忙しすぎるから！私たちは，毎日を生きるためにひたすら活動するという型にはまってしまい，自分が何をやっているのかを見失ってしまうことが多い.（BCCWJ／書籍／1 哲学／『ときどき思い出したい大事なこと』ディック・J・ライダー著，枝廣　淳子訳 サンマーク出版）

[133] ここで一つ補足しなければならないのは，本章で使用した用例は，現代日本語（BCCWJ,自然会話コーパス，新聞記事）の他，明治時代の作品（夏目漱石）もある．青空文庫用例検索を観察した限りでは，漱石の作品では「ただでさえ」がほとんどマイナス評価として用いられている．これは漱石だけの特徴なのか，それとも，本来主にマイナスの評価に使われていた「ただでさえ」が近現代になってプラスの評価にも用いられるようになったのか，後者だとすればいつからそのような変化が起こったのか，検証が必要である.

[134] 「なまじ」に関しては，「（小さな）プラス」が「（大きな）マイナス」を生じてしまうという捉え方のために，「ただでさえ」とは異なっている.

b. 人の日常生活を“ミッション・インポッシブル”に変えようとする人々には我慢できない．ただでさえ，世の中複雑すぎるというのに．男はいくつになっても少年なのだ．

（BCCWJ／書籍／9 文学『特ダネをつかむ女』エドナ・ブキャナン著，鴻巣友季子訳 扶桑社）

（51）a. あまりぼけすぎると，人物との境目が不自然に感じますので適度にします．

（BCCWJ／書籍／0 総記『いますぐ使える Photoshop Elements for Windows』村上俊一著 技術評論社）

b. 容姿はあまり派手すぎると，かえってひかれます．

（BCCWJ／Yahoo! 知恵袋）

このように，命題の前件 P に対する評価の仕方は，副詞の本来の意味によって相違点が見られるが，「ただでさえ」は，単に程度の大きさ・激しさだけでなく，「ただでさえ」が修飾しているマイナス（まれにプラス）の状態（前件 P）が，さらなる状態（後件 Q）に至るかもしれないという話者の「見越しの評価」もしくは至ってしまったという話者の気持ちを表す．そのため，「ただでさえ」も「『見越しの評価』を表す副詞」の一つであると考えられる．

7.5. 本章のまとめ

本章では，まずはじめに，「ただでさえ」が「ただ」と「さえ」が組み合わされた連語などではなく，「ただでさえ」独自の用法と意味を持つ「副詞」であるということを示し，続いてその構文的特徴と意味的特徴を論じた．

その結果として，「ただでさえ」の構文的特徴には，次のようなものが挙げられる．

第一に，「ただでさえ」は，従属節に生起し，「従属節—主節」という複文の構造を要求している．単文だけでは，意味的要請が満たされず，非文になる．

第二に，「ただでさえ」は，「逆接用法」「順接用法」「圧縮用法」を有することが明らかになった．後件において，「累加」を表す接続の形式の使用は特徴的であり，「ただでさえ」の本来の意味によって生じた用法である．

第三に，「ただでさえ」にも，接続の表現が見られず，「ただでさえ＋連体句＋N＋助詞 Q」のように連体修飾節の中に起きる「圧縮用法」や，「ただでさえ＋述語」 が「見せか

けの単文」として起こるという「破格用法」が見られた．この用法においては「ただでさえ」の構文的特徴が変化し振る舞いが異なっているように見えるものの，「前件（現在の状態 P）— 後件（更なる状態 Q)」という意味的対応関係が保たれ，意味的要請が満たされていなければならない点に違いはない．

一方，「ただでさえ」の意味的特徴には，次のようなものが挙げられる．

第一に，「ただでさえ」は「状態性」と深く関わっており，従属節の述語は，状態を表す形容詞，名詞である必要があり，動詞の場合，単に「動作」ではなく，「状態」の説明がなければならないという意味的制限がある．これは，「ただでさえ」が「程度副詞」の性質を持っているからだと考えられる．

第二に，「ただでさえ」はいかなる種類の条件節においても生起しない．「ただでさえ」の前件 P の内容が「仮定」と相容れないのは，「ただでさえ」の構文の全体の意味から考えると，前件の「現在の状態 P」がはっきりしていなければ，後件の「更なる状態 Q」について言い表すことができないという理由があるからと考えられる．そのため，「ただでさえ」の「現在の状態」（前件 P）は必ず「既定的」な事態でなければならない．

第三に，「ただでさえ」は，単に「程度の大きさ・激しさだけ」でなく，「ただでさえ」が修飾しているマイナスの状態（まれにはプラスの状態）（前件 P）が，さらなるマイナスの状態（まれにはプラスの状態）（後件 Q）に至るかもしれない，もしくは至ってしまったと話者が見越した評価と気持ちを表す．そのため，「ただでさえ」も「『見越しの評価』を表す副詞」の一つであると考えられる．

第８章　結論と今後の課題

8.1. 結論

本研究では，現代日本語において，「見越しの評価」を表し，「基本的に複文で使用されるという構文上の制約」を有する副詞「せっかく」をはじめ，これまで十分に議論されてこなかった「なまじ」「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの）」「ただでさえ」を取り上げて分析してきた．本研究を通して，次のような特徴が明らかになった．

第一に，上記の四つの副詞は，いずれも「従属節—主節」という複文の構造を要求し，従属節に生起する．単文には生起しない．単文（前件 P）だけでは，見越されるべき命題内容（後件 Q）が欠落し，意味的要請が満たされず，非文となるからである．

第二に，従属節と主節の間，すなわち前件 P と後件 Q の間を繋ぐ接続の形式の種類は，副詞によって異なってくるが，共通のものに原因・理由を表す「から」がある．そのため，四つの副詞に共通して見られる用法は［[副詞 P カラ］Q］の型をとる「順接用法」である．

第三に，「従属節—主節」という複文の構造は，しばしば文体によって，接続の形式が見られず，［[副詞＋述語］＋名詞句］のように，連体修飾節の中に起きる用法（「圧縮用法」）や，［副詞＋述語］が単文（見せかけの単文）として起こる用法（「破格用法」）が見られる．これらの用法は，一見したところでは，「従属節—主節」の構造と振る舞いが異なっているように見えるのだが，［副詞＋述語］（前件 P）とそれに続く文（後件 Q）との組み合わせによる意味的要請が必ず満たされていなければならない．また，「従属節—主節」の構造に復元可能でなければならない．

第四に，四つの副詞は，いずれも基本的に前件 P の命題内容に「既定性」を要求する．ただし，「既定性」の制約に強さの違いが見られる．「ただでさえ」は「完全既定」を要求し，「と」「ば」「たら」「なら」「ても」のいずれの条件節にも生起しない．「せっかく」は「ても」「(の) なら」節に生起するが，「既定条件」を表す場合に限られる．「なまじ」と「あまり」は「ても」「なら」節だけでなく，「と」「ば」「たら」節にも生起するが，BCCWJ では決して多く観察される用法ではない．

第五に，「見越しの評価」を表し，「基本的に複文で使用されるという構文上の制約」を有するという意味的・構文的特徴は，「陳述副詞」のみに見られるものではない．ゆえ

に「『見越しの評価』を表す副詞」は単なる「陳述副詞」の一種ではない．「程度副詞」とされる「あまり」や，所属不明で「連語」とされる「ただでさえ」も，「『見越しの評価』を表す副詞」の代表格である「せっかく」と類似した意味的・構文的特徴を共有している．したがって，「『見越しの評価』を表す副詞」には，「陳述タイプのもの」と「程度タイプのもの」の二種類があると確認された．

上記の結論は，これまでの副詞研究の成果を踏まえた上で，「見越しの評価」，複文，単文，命題，接続助詞（条件法），条件文，「既定性」といった複数のキー概念を軸に分析した結果，得られたものである．以下，本研究の流れ（第２章から第７章まで）を章ごとに要約する．

第２章では，これまでの日本語副詞の先行研究から，「見越しの評価」を表す「せっかく」の先行研究までの流れを概観した．ここでは大きく三つに分けて概観した．第一に，日本語副詞研究の背景を概観した．国語学の研究では「意味」に基づいた分類（山田 1908，1936）をはじめ，さまざまな学者によって分類が行なわれてきたが，「呼応」の現象を考慮に入れた橋本（1946）の分類と，「誘導」「構文的職能」の概念を取り入れた渡辺（1971）の分類は，「意味」だけでなく「構文」の観点から副詞を分析する重要性を示唆している．言語学・現代日本語学の研究へとシフトしていく中で，副詞の品詞分類よりも，個別の副詞の意味・用法の分析も重視されるようになった．第二に，副詞研究の一連の流れの中で，なぜ渡辺（1980）が提示した「見越しの評価」の概念が重要なのかを紹介した．第三に，渡辺（1980）以降の「評価」に関する副詞の研究を概観した．工藤（1982，1997，2000）における「評価副詞」や益岡・田窪（1992）における「評価の副詞」は，いずれも渡辺（1980）の「『見越しの評価』を表す副詞」の概念とは異なっているということを見てきた．そして，これまでの先行研究における問題点を整理した．

第３章では，日本語副詞研究のアプローチの変遷を概観した後，内省・作例を使用するアプローチと，コーパスを使用するアプローチのそれぞれの問題点を指摘したうえで，両者を併用する利点を述べた．とりわけ蓮沼（2012，2014a）の「せっかく」の分析を例に，内省・作例とコーパスを組み合わせることにより，言語事実のより正確な記述をすることができることを示した．続いて本研究で使用するコーパスデータとデータへの注目点を述べた．

第４章では，「『見越しの評価』を表す副詞」の代表格である「せっかく」の先行研究を交え，「見越しの評価」を表す「せっかく」の構文的特徴と意味的特徴を中心に見た．「せ

っかく」の構文的特徴には次のようなものがある．まず，「せっかく」は基本的に「従属節―主節」という複文の構造を要求し，従属節末に現れる「のに」「(の) だから」と強い共起関係にある．次に，「せっかく」の典型的な用法に「順接用法」「逆接用法」「圧縮用法」が挙げられる．そして，文体の違いによって，接続の形式が見られず，「体言止めの文」や見せかけの単文で一旦途切れるという「破格用法」もある．しかし，前後の文脈で意味的要請が満たされ，複文の構造に復元可能でなければならないといった構文的特徴がある．一方，意味的特徴には次のようなものがある．まず，「せっかく」は形容詞などの「状態性述語」を修飾する場合もあるが，基本的に「動作性述語」を修飾し，いずれの場合も「人為的」な事態を表す述語である．次に，「せっかく」が使用可能な条件として最も関与的なのは，従属節（命題 P）の意味が「既定性」と関わっているか否かである．「せっかく」が「仮定性」と相容れないのは，仮定の場合，「見越しの評価」を行なうことが困難だからであると考えられる．そのため，既定条件を表す「なら」節では使用できるが，仮定条件を表す「たら」「ば」「と」節では使用できない．そして，「せっかく」は，前件（価値ある P）のみで完結することができず，見越された後件（「『未実現』の事態 Q」もしくはこれから「『実現が期待される』事態 Q」）との意味的組み合わせがあってこそ，P の価値が保たれる．前件 P は，社会通念としてのプラスの事態でなければならないというわけではなく，マイナスの事態でも，話し手自身にとって「価値ある事態」であり，かつ後件 Q との組み合わせがあれば使用可能である．上記を踏まえて，「『見越しの評価』を表す副詞」の選定基準を規定した．

第 5 章では，現代日本語で同じく陳述副詞と認識され，「せっかく」と同様の「二重性格」を持つと渡辺（1980）で指摘されたものの，「見越しの評価」を表すか否かに関しては言及されなかった「なまじ」を分析した．「なまじ」の構文的特徴には次のようなものである．まず，「なまじ」は「せっかく」と同様に「従属節―主節」という複文の構造を要求し，従属節に生起する．単文だけでは，意味的要請が満たされず，非文になる．次に，「なまじ」の従属節末に現れる接続形式には，「カラ／ノデ／ダケニ／バカリニ」のように，順接的な因果関係を表すものがある一方，「ト／バ／タラ／ナラ」のように，条件を表すものも BCCWJ で観察されたが，決して多くなかった．そして，上記の「従属節―主節」複文の構造には，接続の形式を伴わない「圧縮用法」もあるが，いずれも複文の構造に復元可能でなければならない．意味的特徴には次のようなものがある．まず，「なまじ」は，単に中途半端・不十分な人為現象（「動作」や「状態」）を修飾するだけではなく，小さなプラス

の事態でも，大きなマイナスの事態を招いてしまうかもしれない，もしくは招いてしまったと話者が見越した評価や気持ちを表す．次に，「なまじ」の前件 P は基本的に順接的な因果関係を表す接続の形式と共起する場合が多く，条件形に関してはあくまで少数であるため，「既定性」を要求していると考えられる．そして，「なまじ」の前件 P は，基本的に「小さなプラスの事態」を表すが，見越された後件 Q は必ず「前件 P に相反し，（大きな）マイナスの事態や結果」を表すため，逆接を表す「のに」と共起しない．記述・分析の結果を踏まえて，渡辺（1980）では明言されなかった「なまじ」の「『見越しの評価』を表す副詞」としての位置づけを明確にした．

第 6 章では，「程度副詞」とされている「あまり（述語の肯定形と共に使われるもの）」を分析した．「あまり」の構文的特徴には次のようなものが挙げられる．まず，「あまり」も，従属節に生起し，「従属節—主節」という複文の構造を要求している．単文だけでは，意味的要請が満たされず，非文になる．次に，「あまり」の従属節末に現れる接続形式には，「カラ／ノデ」など順接的な因果関係を表すものがある一方，「ト」のように，条件を表すものも観察された．なお，「あまり」は「から」と共起するが，「のに」や「のだから」と共起しない．そして，「あまり」にも「せっかく」「なまじ」と同様に，「従属節—主節」という複文の構造をとらず接続の形式も伴わない「圧縮用法」がある．この「圧縮用法」は複文の構造に還元することができる．意味的特徴には次のようなものが挙げられる．まず，「あまり」は述語の種類（動詞述語，形容詞述語，名詞述語）を問わず，基本的に「状態」（過度の状態）を修飾し，述語内容の「状態性」を要求する．これは「程度副詞」としての性質に由来するものであると考えられる．次に，「あまり」は「なまじ」と同様に各条件形と共起する用例が観察されたが，BCCWJ においては決して多いわけではなかったので，「なまじ」と同様，基本的に「既定性」を要求していると考えられる．そして，「あまり」は，単に程度の大きさ・激しさだけでなく，「あまり」が修飾している事態（前件 P）が，度を越えると，必然的にマイナスの事態（後件 Q）に至ってしまう，もしくは至ってしまったと話者が見越した評価と気持ちを表す．記述・分析の結果を踏まえて，「あまり」に「『見越しの評価』を表す副詞」としての位置づけを新たに与えた．

第 7 章では，「ただでさえ」を分析した．「ただでさえ」が「ただ」と「さえ」が組み合わされた連語などではなく，「ただでさえ」独自の用法と意味を持つ「副詞」であるということを示し，続いてその構文的特徴と意味的特徴を論じた．「ただでさえ」の構文的特徴には次のようなものがある．まず，「ただでさえ」もまた，従属節に生起し，「従属節—主節」

という複文の構造を要求している．単文だけでは，意味的要請が満たされず，非文になる．次に，「逆接用法」「順接用法」「圧縮用法」を有する．主節（後件）で，「累加」を表す接続の形式の使用は特徴的であり，「ただでさえ」の本来の意味によって生じた用法である．そして，「ただでさえ」についても，接続表現が用いられず，「ただでさえ＋連体句＋N＋助詞 Q」のように連体修飾節の中に起きる用法や，「ただでさえ＋述語」が「見せかけの単文」として起こるという「破格用法」が見られた．これらの用法は，構文的特徴が変化し振る舞いが異なっているように見えるものの，「前件（現在の状態 P）— 後件（更なる状態 Q)」という意味的対応関係が保たれ，意味的要請が満たされていなければならない点については一貫している．一方，意味的特徴には次のようなものがある．まず，「ただでさえ」は「状態性」と深く関わっており，従属節の述語は，「状態」を表す形容詞，名詞である必要がある．動詞の場合，単に「動作」ではなく，「状態」の説明がなければならないという意味的制限がある．これも，「ただでさえ」が「程度副詞」の性質を持っているからだと考えられる．次に，「ただでさえ」はいかなる条件節においても生起しない．「ただでさえ」の前件 P の内容が「仮定的」事態と相容れないのは，「ただでさえ」の構文の全体の意味から考えると，前件の「現在の状態 P」がはっきりしていなければ，後件の「更なる状態 Q」について言い表すことができないという理由があると考えられる．そのため，「ただでさえ」の「現在の状態 P」（前件）は必ず「既定的」な事態でなければならない．そして，「ただでさえ」は，単に程度の大きさ・激しさだけでなく，「ただでさえ」が修飾しているマイナス（まれにプラス）の状態（前件 P）が，さらなる状態（後件 Q）に至るかもしれない，もしくは至ってしまったと話者が見越した評価と気持ちを表す．記述・分析の結果を踏まえて，「ただでさえ」に新たに「『見越しの評価』を表す副詞」としての位置づけを与えた．

このように，「『見越しの評価』を表す副詞」の中核的性質には，「話者の評価（気持ち)」と「『従属節—主節』という複文の構造」だけでなく，「複文の構造への復元可能性」「命題間の意味的要請」「命題 P の既定性の要求」もあるということが明らかになった，また，従来「意味」に基づいた分類で，それぞれ異なるカテゴリーに配属された副詞が，実際には共通した構文的特徴を有していること，「従属節—主節」という構文的特徴を要求しているのは，決して「陳述副詞」だけではないということも明らかになった．すなわち，「『見越しの評価』を表す副詞」は単なる「陳述副詞」の一種などではなく，「陳述副詞」「程度副詞」のカテゴリーに跨っているのである．こうして，蓮沼（1987）が問題にしていた，

日本語における「複雑な用法を持つ一群の副詞」に対し，構文的特徴に着目した分析を行なうことで，単なる個別の副詞の意味・用法の違いを明らかにできただけでなく，実際には共通する特徴があるということも明らかにできたのである．

8.2 本研究の限界と今後の課題

本研究には，未解決の課題がいくつか残されている．今後の展望を含めて，以下に整理する．

第一に，いわゆる「『せっかく』の類の副詞」についてである．これまで，「『せっかく』の類の副詞」と言えば「陳述副詞」がほとんどであった．しかしながら，その中には，単文で使用されうるもの（「まさか」「せめて」「せいぜい」「いっそう（のこと）」「やはり」や，単文と複文の両方に生起可能なもの（「どうせ」「さすが」）が含まれているため，必ずしも「従属節—主節」という複文の構造を要求しているとは限らない．こうした副詞と「『見越しの評価』を表す副詞」との関わりについて引き続き議論する必要がある．

第二に，「副詞の N＋助詞」という用法についてである．渡辺（1980）と蓮沼（1987）では，上記の用法を「圧縮用法 ii 」に分類した．一方，小矢野（1997a）では，つきそい・あわせ文（複文）に使われる「せっかく」と，ひとえ文（単文）に使われる「せっかくの」を区別し，「せっかくの」を一種の「規定語」とした．蓮沼（2014a）も小矢野（1997a）を引き継ぎ，考察している．「せっかく」「あまり」「なまじ」「ただでさえ」という四つの副詞におけるこの用法に関して言えば，本研究では，「*ただでさえの N は…」がなぜ言えないのかについては考察できなかった．「せっかく」「なまじ」「あまり」が持つ「副詞の N＋助詞」の型と比較・対照し，引き続き考察していきたい．

第三に，「あまり」が「から」と共起できる一方で，「のだから」と共起できないのはなぜか，本研究では，現象の指摘に留まり，十分な説明を与えることができなかった．今後，日本語学における「のだ」の研究を取り入れて考察していきたい．

第四に，「あまり」と「なまじ」が，「と」「ば」「たら」「なら」「ても」のいずれの条件節にも生起可能という現象である．BCCWJ における「なまじ」の用例に関して言えば，合計 153 件の用例のうち，「と」が 12 件，「ば」が 5 件，「たら」6 件，「なら」「ても」「ては」がそれぞれ 2 件と，決して多くはないが，「既定性」に抵触している部分があることは否定できない．今後，条件形に現れるいくつかの接続形式の意味機能に関する先行研究

の成果を取り入れ，引き続き考察していきたい．

最後に，本研究では，「せっかく」「あまり」「なまじ」「ただでさえ」という四つの副詞と共起可能な接続の形式の種類を整理し記述できたものの，量的・統計的調査に関しては一切行なわなかった．また，BCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス）のデータを主に使用したが，話し言葉のデータ（「女性のことば・職場編」，「男性のことば・職場編」）では，この四つの副詞の用例が少なく，特に「せっかく」の場合，断片的な発話や，前後の長い文脈の発話に現れているため，安易に書き言葉のデータと同時に扱ったり比較したりすることはできなかった．今後，日本語話し言葉コーパス （CSJ） における講演会のモノローグ，二人会話，多人数会話などのデータを用い，「せっかく」をはじめとする一群の「『見越しの評価』を表す副詞」が話し言葉で実際にどのように使われているのか，量的かつ質的に考察していきたいと考えている．

参考文献

安部朋世（2003）「とりたて性からみたタダ」『鶴林紫苑—鶴見大学短期大学部国文科創立五十周年記念論集』風間書房，pp.59-74.

安部朋世(2004)「単ニとタダ」『千葉大学教育学部研究紀要』52 号, pp.155-160.

安達太郎（1997）「副詞が文末形式に与える影響」『広島女子大学国際文化学部紀要』3 号，pp.1-11.

相澤奈穂子・佐藤琢三（2008）「多機能語『ただ』の分析」『日本語文法』8 巻 1 号，pp.53-67.

赤羽根義章（2002）「『せっかくですが』と『あいにくですが』」『宇大国語論究』13 号，pp.1-9.

有田節子（2005）「『どうせ』『いっそ』の分布と既定性」『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』13 号，pp.1-16.

有田節子（2006）「『どうせ』の意味と既定性」上田功・野田尚史編『言外と言内の交流分野 小泉保博士傘寿記念論文集』大学書林，pp.33-45.

有田節子（2007）『日本語の条件文と時制節性』くろしお出版.

有田節子（2008）「あなたがそういうから／なら，別れることにするわ—理由も条件も同じコインの裏表」『月刊言語』37 巻 10 号，pp.76-83.

浅野百合子（1982）「セッカク・ワザワザ・ワザト」國廣哲彌・柴田武・長嶋善郎・山田進・浅野百合子編『ことばの意味３』平凡社選書，pp.203-210.

Charles J. Fillmore (1992) ""Corpus Linguistics" vs. "Computer-aided Armchair Linguistics"." In *Directions in Corpus Linguistics: Priceedings from a 1991 Nobel Symposium on Corpus Linguistics*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter, pp.35-66.

茶谷恭代 (2014)『現代日本語の副詞の研究 ： 副詞「よほど」における程度性・評価性・叙法性』東京外国語大学博士学位論文.

千々岩宏晃（2014）「“副詞の語順の自由性”に関する会話分析の方法を用いた考察」『日本語・日本文化研究』24 号，pp.81-92.

Eric McCready（2007）"Sekkaku."　In *Japanese / Korean Linguistics* 15, Naomi McGloin and Junko Mori, eds., CSLI Publications, pp. 418-429.

許夏玲（フィハーリン）（2000）「話し言葉の文末におけるモダリティの表現形式―『接続助詞』『条件形』『第二中止形』『引用助詞』―」名古屋大学博士学位論文.

藤村逸子・滝沢直宏（2011）『言語研究の技法　データの収集と分析』ひつじ書房.

深田淳（2007）「日本語用例・コロケーション情報抽出システム『茶漉』」『日本語科学』22 号，国書刊行会，pp.161-172.

後藤斉（2003）「言語理論と言語資料―コーパスとコーパス以外のデータ―」『日本語学』22 巻 5 号，pp.6-15.

後藤斉（2007）「コーパス言語学と日本語研究」『日本語科学』22 号，国書刊行会，pp.47-58.

グループ・ジャマシイ編（1998）『教師と学習者のための　日本語文型辞典』くろしお出版.

花岡安見（1902）『國語學研究史』国立国会図書館近代デジタルライブラリー

橋本進吉（1946）『國語學概論（橋本進吉博士著作集 第一冊）』岩波書店.

橋本進吉（1948）『國語法研究（橋本進吉博士著作集 第二冊）』岩波書店.

橋本進吉（1959）『國文法體系論（講義集二）（橋本進吉博士著作集 第七冊）』岩波書店.

蓮沼昭子（1985）「『ナラ』と『トスレバ』」『日本語教育』56，pp.65-78.

蓮沼昭子（1987）「副詞の語法と社会通念―『せっかく』と『さすがに』を例として―」小泉保教授還暦記念論文集編集委員会編『言語学の視界』大学書林，pp.203-222.

蓮沼昭子・有田節子・前田直子（2001）『日本語文法　セルフ・マスターシリーズ 7 条件表現』くろしお出版.

蓮沼昭子（2009）「日本語母語話者の『ノダカラ』使用の実態－名大会話コーパスをデータに―」『日本語教育連絡会議論文集』21 号，pp.34-43.

蓮沼昭子（2010）「自然談話における『モノダカラ』について」『日本語教育連絡会議論文集』22 号，pp.69-78.

蓮沼昭子（2011a）「『コトダカラ』と『コトダシ』－原因・理由表現の体系における位置づけ―」『日本語教育連絡会議論文集』23 号，pp.36-48.
蓮沼昭子（2011b）「条件文と理由文の相関―『（ノ）ナラ』と『ノダカラ』を例に―」『日本語日本文学』21 号，pp.1-18.
蓮沼昭子（2012）「事態の既定性と『せっかく』構文」『日本語日本文学』22 号，pp.19-41.
蓮沼昭子（2014a）「副詞『せっかく』による構文と意味の統制 ―コーパスにおける使用実態の観察を通して」益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前田直子・丸山岳彦編『複文構文の研究』ひつじ書房，pp.427-467.
蓮沼昭子（2014b）「副詞『どうせ』による構文と意味の統制 ： 連文機能の検討を中心に」『日本語日本文学』24 号，pp.1-25.
畠郁（1991）「副詞論の系譜」『副詞の意味と用法』国立国語研究所，pp.1-46.
服部匡（1993）「副詞『あまり（あんまり）』について―弱否定および過度を表す用法の分析―」『同志社女子大学学術研究年報』44 号，pp.1-27.
飛田良文・浅田秀子（2014）『現代副詞用法辞典 七版』東京堂書店.
東瀬戸正人（2000）「『程度副詞』における程度性の変遷について―『あまり』と『あまた』を中心に―」『別府大学国語国文学』42 号，pp.162-178.
本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子（2014）『日本語教育学の歩き方』大阪大学出版会.
星野佳之（2001）「『どうせ』と『せっかく』の意義―『無駄』の回避」ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会『清心語文』3 号，pp.95-105.
市川孝（1976）「副用語」『岩波日本語講座６ 文法Ｉ』岩波書店.
家入葉子（2009）『文科系ストレーシープのための研究生活ガイド 心持ち編』ひつじ書房.
今西利之（2002）「副詞『どうせ』についての覚え書き」『熊本大学留学生センター紀要』6 号，pp.1-16.
庵功雄（2001）『新しい日本語学入門―ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク.
庵功雄他編（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

石神照雄（1982）「様相副詞『セッカク』と構文構造」『信州大学教養部紀要』16 号，pp.1-13.
石神照雄（1983）「副詞の原理」渡辺実編『副用語の研究』明治書院，pp.35-54.
石神照雄（1987）「陳述副詞の修飾」寺村秀夫他編『ケーススタディ日本文法』おうふう，pp.96-101.
板坂元（1971）『日本人の論理構造』講談社新書.
影山太郎（2009）『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』，大修館書店.
兼行裕（2012）『副詞的用法のアマリの意味制限』筑波大学学士学位論文.
加藤由紀子（2001）「＜せっかく～のに＞文の誤用とその背景」『岐阜大学留学生センター紀要』2000 号，pp.25-37.
加藤重広（2014）「日本語の語用特性と複文の単文化」益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前田直子・丸山岳彦編『複文構文の研究』ひつじ書房，pp.495-520.
川端善明（1978）『活用の研究（1）』大修館書店.
川端善明（1983）「副詞の条件」渡辺実編『副用語の研究』明治書院，pp.1-35.
川端善明・仁田義雄編（1997）『日本語文法―体系と方法―』ひつじ書房.
川越菜穂子（2006）「補足の接続詞とコミュニケーション上のストラテジー―ただ，ただし，もっとも，ちなみに― 」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平３ 複文・談話編』くろしお出版，pp.155-168.
河原崎幹夫（1976）「副詞の導入の具体的研究 2：『せっかく』・（付『わざわざ』）」東京外国語大学外国語学部附属日本語学校『日本語学校論集』3 号，pp.79-90.
見坊豪紀（1987）『現代日本語用例全集（1）』筑摩書房.
見坊豪紀（1988）『現代日本語用例全集（2）』筑摩書房.
見坊豪紀（1989）『現代日本語用例全集（3）』筑摩書房.
菊地康人（2005）「『どうせ』の用法の分析」石塚晴通教授退職記念会編『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院，pp.421-443.
金田一春彦編（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房.
木下恭子（2001）「比較の副詞『もっと』における主観性」『国語学』第 52 巻 2 号，pp.16-29.

小林幸江（1978）「現代語に見られる陳述副詞の研究」『日本語学校論集』5 号，pp.71-99.
国立国語研究所（2007）『日本語科学』22 号（特集 コーパス日本語学の射程），国書刊行会.
黄淑燕（2010）『日語類義表現』鴻儒堂.
黄淑燕（2010）「『せっかく』の意味用法について」東海大學日本語文學系國際學術研討會『副用語のいろいろ－語義・対照・教授法』2010 會議論文集，pp.41-59.
小矢野哲夫（1997a）「規定語『せっかく』の構文的機能」加藤正信編『日本語の歴史地理構造』，明治書院，pp.195-208.
小矢野哲夫（1997b）「うらめ条件―接続のモダリティ副詞―『たとえ』の使用条件―」川端善明・仁田義雄編『日本語文法―体系と方法―』ひつじ書房，pp.73-87.
小矢野哲夫（1997c）「副詞『せっかく』の用法」『日本語・日本文化研究』7 号，pp.1-16.
小矢野哲夫（2000）「評価的な意味―副詞『どうせ』を例にして―」山田進・菊地康人・籾山洋介編『日本語　意味と文法の風景―国広哲弥教授古稀記念論文』ひつじ書房，pp.225-236.
工藤浩（1980）「副詞」国語学会編『国語学大辞典』東京堂，pp.744-746.
工藤浩（1982）「叙法副詞の意味と機能―その記述方法をもとめて―」『国立国語研究所報告 71 研究報告集 3』秀英出版，pp.45-92.
工藤浩（1997）「評価成分をめぐって」川端善明他編『日本語文法―体系と方法』ひつじ書房，pp.55-72.
工藤浩（1977）「限定副詞の機能」『国語と国語史』明治書院，pp.969-986.
工藤浩（2000）「副詞と文の陳述的タイプ」仁田義雄・森山卓郎・工藤浩著『日本語の文法３ モダリティ』岩波書店，pp.163-234.
工藤真由美（2000）『日本語の文法２ 時・否定と取り立て』岩波書店.
桑原文代（2003）「説得の『のだから』―『から』と比較して―」『日本語教育』117 号，pp.63-72.

李在鎬（リジェホ）・石川慎一郎・砂川有里子（2012）『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版.
林禔映（イムジョン）（2011）「『なまじ(っか)』の意味・構文の史的変遷」『東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室日本語学論集』7 号，pp.118-138.
林禔映（2012a）「副詞『せめて』の意味変化」『東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室日本語学論集』8 号，pp.158-174.
林禔映（2012b）「評価副詞『せっかく』の成立過程について―構文タイプ間の派生関係から―」『日本語学会 2012 年度春季大会予稿集』，pp.143-150.
林禔映（2013）「副詞『せいぜい』の意味変化 : 近代語を中心に」『東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室日本語学論集』9 号，pp.190-208.
林禔映（2014）「近現代語における副詞『どうせ』の意味用法」『東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室日本語学論集』10 号，pp.132-151.
林恒立（2010）「ただでさえの用法の一考察」ICJLE 2010 年 世界日本語教育大会論文集（予稿集）DVD 収録.
林恒立（2013a）「『ただでさえ』の副詞的意味と構文―『さえ』と『ただ』の対照を交えて―」『台灣日語教育學報』21 号，pp.357-386.
林恒立（2013b）「『ただでさえ』 と 『せっかく』の構文的・意味的特徴―類似性と相違点―」『東呉大學日本語文學系・台灣日語教育學會共催 2013 年度国際学術シンポジウム―台湾における日本語教育の再発見－論文集』pp.47-56.
林恒立（2014）「複文の構造を要求する副詞の特徴 ―『せっかく』と『ただでさえ』を例に―」『台灣日語教育學報』23 号，pp.294-323.
前川喜久雄（2007）「コーパス日本語学の可能性―大規模均衡コーパスがもたらすもの―」『日本語科学』22 号，国書刊行会，pp.13-28.
前田直子（2009）『日本語の複文―条件文と原因・理由文の記述的研究―』くろしお出版.
丸山岳彦・田野村忠温（2007）「コーパス日本語学の射程」『日本語科学』22 号，国書刊行会，pp.5-12.
益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法　改訂版』くろしお出版.
益岡隆志編（1993）『日本語の条件表現』くろしお出版.

益岡隆志（1997）『新日本語文法選書２　複文』くろしお出版.
松下大三郎（1928）『改撰標準日本文法　1974 年版』勉誠社.
三上章（1953）『現代語法序説―シンタクスの試み 1999 年復刊』くろしお出版.
宮崎和人（2005）『現代日本語の疑問表現―疑いと確認要求―』ひつじ書房.
南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店.
茂木俊伸（1999）「とりたて詞『まで』『さえ』について―否定との関わりから―」『日本語と日本文学』28，pp.27-36.
茂木俊伸（2004）「従属節内の『さえ』『こそ』について」『現代日本語文法における現象と理論のインタラクション』現代日本語文法研究会，pp.149-166.
茂木俊伸（2006）「従属節内の『さえ』『こそ』の解釈と構造」矢澤真人・橋本修編『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』ひつじ書房，pp.215-237.
森本順子（1994）『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版.
森重敏（1959）『日本文法通論』風間書房.
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店.
森田良行（1996）『意味分析の方法』ひつじ書房.
中右実（1979）「モダリティと命題」『英語と日本語 ―林栄一教授還暦記念論文集―』くろしお出版，pp.223-250.
中西久実子（1995）「モとマデとサエ・スラ」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)単文編』くろしお出版，pp.306-316.
中西久実子（2012）『現代日本語のとりたて助詞と習得』ひつじ書房.
中畠孝幸（1995）「ダケニとダケアッテ―通念依存の形式―」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(下)複文・連文編』くろしお出版，pp.521-530.
日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法６　第 11 部複文』くろしお出版.
西真理子（2005）「日本語の陳述副詞と節の連接 ―『せっかく』を中心に― 」北海道大学修士学位論文.
西真理子（2005）「話者の前提と陳述副詞 ―従属節に生起する副詞を例に― 」『北海道大学留学生センター紀要』9 号，pp.39-52.

西真理子（2006）「複文におけるとりたて詞の論理構造―従属節に生起する『さえ』と『こそ』を例に―」『北海道大学留学生センター紀要』11 号, pp.18-33.
仁田義雄（1997）『日本語文法研究序説』くろしお出版.
仁田義雄（2002）『新日本語文法選書３ 副詞的表現の諸相』くろしお出版.
野田春美（1995）「『のだから』の特異性」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版，pp.221-245.
野田春美（1997）『の（だ）の機能』くろしお出版.
野田尚史（1984）「副詞の語順」『日本語教育』52 号，pp.79-90.
野田尚史（1994）「仮定条件のとりたて―『～ても』『～ては』『～だけで』などの体系―」『日本語学』13 巻 9 号，明治書院，pp.34-41.
野田尚史（2003）「単文・複文とテキスト」仁田義雄・益岡隆志編『日本語の文法４ 複文と談話』岩波書店，pp.3-61.
野田尚史（2013）「日本語の副詞・副詞節の階層構造と語順」遠藤喜雄編『世界に向けた日本語研究』開拓社，pp.69-101.
沼田善子（1986）「とりたて詞各論」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武編『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社，pp.107-225.
沼田善子（1992）『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ 5「も」「まで」「さえ」など―とりたて―』くろしお出版.
沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房.
生越直樹編（2002）『シリーズ言語科学４ 対照言語学』東京大学出版会.
奥津敬一郎（1974）『生成日本文法論―名詞句の構造―』大修館書店.
尾上圭介（2001）『文法と意味 I』くろしお出版.
呉珠熙（オ ジュ ヒ）（2003）『前提を持つモダリティ副詞の研究』筑波大学博士学位論文.
呉珠熙（2011）「『せっかく』の持つ前提と共起制限の関わりについて：韓国語の副詞『mocheoreom, ilkkeott』との対照を兼ねて」『教養研究』18 巻 2 号，pp.33-51.
大槻文彦（1897）『廣日本文典』国立国会図書館近代デジタルライブラリー
阪田雪子監修・遠藤織枝編集主幹・にほんごの会編（2011）『新訂 日本語を学ぶ人の辞典』新潮社.

澤田美恵子（2007）『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』くろしお出版.
新藤一男（1983）「『あまり』の文法」『人文科学』第 10 巻第 2 号，pp,101-113.
園部すみ（2013）『現代日本語の従属節選択と複文の類型について』熊本大学博士学位論文.
須賀一好（1992）「副詞『あまり』の意味する程度評価」『人文科学』第 12 巻第 3 号，pp.35-46.
杉村泰（2009）『現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究』ひつじ書房.
杉村泰（2004）「蓋然性を表す副詞と文末のモダリティ形式」『言語文化論集』第 25 巻 02 号，pp.99-111.
砂川有里子（2005）『文法と談話の接点―日本語の談話における主題展開機能の研究』くろしお出版.
鈴木一彦（1959）「副詞の整理」『国語と国文学』36 巻 12 号，pp.59-70.
鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』むぎ書房.
武内道子編（2005）『副詞的表現をめぐって―対照研究』ひつじ書房.
田窪行則（1987）「統語構造と文脈情報」『日本語学』6 巻 5 号，pp.37-48.
田野村忠温（1990）『現代日本語の文法 I』和泉書院.
田野村忠温（2004）「周辺性・例外性と言語資料の性格 ―その相関の考察― 」『日本語文法』4 巻 2 号，pp.24-37.
田野村忠温編（2014）『講座日本語コーパス 6 コーパスと日本語学』朝倉書店.
寺村秀夫（1981）『日本語教育指導参考書 5 日本語の文法（下）』国立国語研究所.
寺村秀夫（1981）「ムードの形式と意味(3)―取立て助詞について―」『文芸言語研究言語篇』6，pp.53-67.
寺村秀夫（1982）「日本語における単文，複文認定の問題」『講座日本語学 第 10 巻 外国語との対照研究Ⅰ』明治書院，pp.202-220.
寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版.
坪本篤朗（1993）「時と条件の連続性：時系列の背景化の諸相」益岡隆志編『日本語の条件表現』くろしお出版，pp.99-130.

時枝誠記（1950）『日本文法　口語篇』岩波全書.
時枝誠記（1973）『言語本質論』岩波書店.
角田三枝（2004）『日本語の節・文の連接とモダリティ』くろしお出版.
上野善道編（2010）『日本語研究の 12 章』明治書院.
渡辺実（1949）「陳述副詞の機能」『国語国文』18 巻 1 号，pp.10-26.
渡辺実（1952）「象徴辞と自立語」『国語国文』21 巻 8 号，pp.37-54.
渡辺実（1971）『国語構文論』塙書房.
渡辺実（1974）『国語文法論』笠間書院.
渡辺実（1980）「見越しの評価『せっかく』をめぐって―国語学から言語学へ―」『月刊言語』9 巻 2 号，pp.32-40.
渡辺実編（1983）『副用語の研究』明治書院.
渡辺実（1996）『日本語概説』岩波テキストブックス.
渡辺実（2001）『さすが！日本語』ちくま新書
八亀裕美（2008）『日本語形容詞の記述的研究―類型論的視点から―』明治書院.
山田孝雄（1908）『日本文法論』宝文館.
山田孝雄（1922）『日本文法講義』宝文館.
山田孝雄（1922）『日本口語法講義』宝文館.
山田孝雄（1936）『日本文法学概論』宝文館.
山本雅子（2005）「参照点能力と言語現象 ―『せっかく』― 」愛知大学国際コミュニケーション学部・国際コミュニケーション学会『文明 21』14 号，pp.11-26.

謝　辞

本論文の執筆にあたっては，多くの方々からご支援を賜りました．

まず，長年ご指導くださった上田雅信先生と飯田真紀先生に深く感謝を申し上げます．

上田先生は，言語現象を考えるのに役立つ哲学的な視点を与え続けてくださいました．「ただでさえ」という「にほんご」に気づき，テーマを自ら選択し設定したものの，博士論文に繋げるにはどうしたらいいか不安を抱える時期もありましたが，「面白い！」と最初におっしゃってくださって，分析方法の相談に乗ってくださったのも上田先生でした．テーマの発展，方向づけ，論文各章と全編の議論のポイント，書き方の注意点まで，多くのご指導を賜りました．いろいろとご迷惑をおかけしたにもかかわらず，いつも変わらぬ態度で接してくださいました．飯田先生は，母語ではない言語と，母語である言語を研究する姿勢を一貫して示してくださいました．日々の読書の大切さ，先行研究の問題点を大胆に，かつ丁寧に指摘する重要性，データ（用例）の見方，そして，何のために文法を研究し，文法を研究するために何が必要かまで，一つ一つ懇切に教えてくださいました．上田先生と飯田先生のように柔軟かつ真摯に研究に取り組む研究者・教育者を目指します．

また，論文の審査にあたり，貴重なコメントをくださった大野公裕先生，ご多忙中にもかかわらず，学位論文趣意書検討会にお越しくださって，有益なコメントをくださった山田義裕先生，佐藤俊一先生，長井裕子先生，高見敏子先生に厚く御礼申し上げます．

「ただでさえ」と「せっかく」の分析を進めるにあたって，個人的にご教示いただいた蓮沼昭子先生（創価大学）に感謝いたします．蓮沼先生は，一介の留学生による拙い質問にもかかわらず，メールを通して懇切丁寧にお答えくださって，助言を与えてくださいました．

学部生の頃からお世話になり，留学の近況を気にしてくださって，博士論文作成の経験をシェアしてくださった張金塗先生（台湾国立高雄第一科学技術大学），黄愛玲先生（台湾国立高雄第一科学技術大学），堀越和男先生（台湾淡江大学）に感謝いたします．

平素お世話になった大学院の諸先生方，上田研究室と飯田研究室の皆さん，留学中に関わってくださった方々，共に学んだ仲間達に感謝します．中でも，国際広報メディア・観光学院修了生の斉藤千佳さんには，本稿の全編を通して，日本語ネのイティブチェックにご協力いただきました．

留学期間中，経済的支援をいただいた公益財団法人交流協会と台湾教育部に感謝いたします．交流協会奨学金留学生試験に合格していなかったら，そもそも日本留学の夢は叶っていなかったはずです．またその支給期間が終わり，しばらくの間，私費留学生としてアルバイトと研究の両立に苦しんでいたところに救いの手を差し伸べてくださった 2014 年度台湾教育部留学奨学金試験匿名審査の先生方に深く御礼申し上げます．

なお，本稿の一部（第４章および第７章）は公益財団法人北海道大学クラーク記念財団博士後期課程在学生研究助成（2013.7.1-2014.3.31）を受けております．ここに記して感謝を表します．

本稿ができるまでの，９年間にも及ぶ日本留学期間中，さまざまなことがありました．修士課程からのやり直し，来日後の自分自身の言語観の変化，テーマおよび方法論の変更，博士後期課程の留年とその後の紆余曲折，そして何よりも，いよいよ博士論文をまとめる段階で母が旅立った悲しみ．決して順調ではありませんでした．

当初から，日本留学の道を，最大限の自由を与えてくれただけでなく，最後まで応援し続けてくれた亡き母に，この論文を捧げます．

2015年霜月，札幌にて